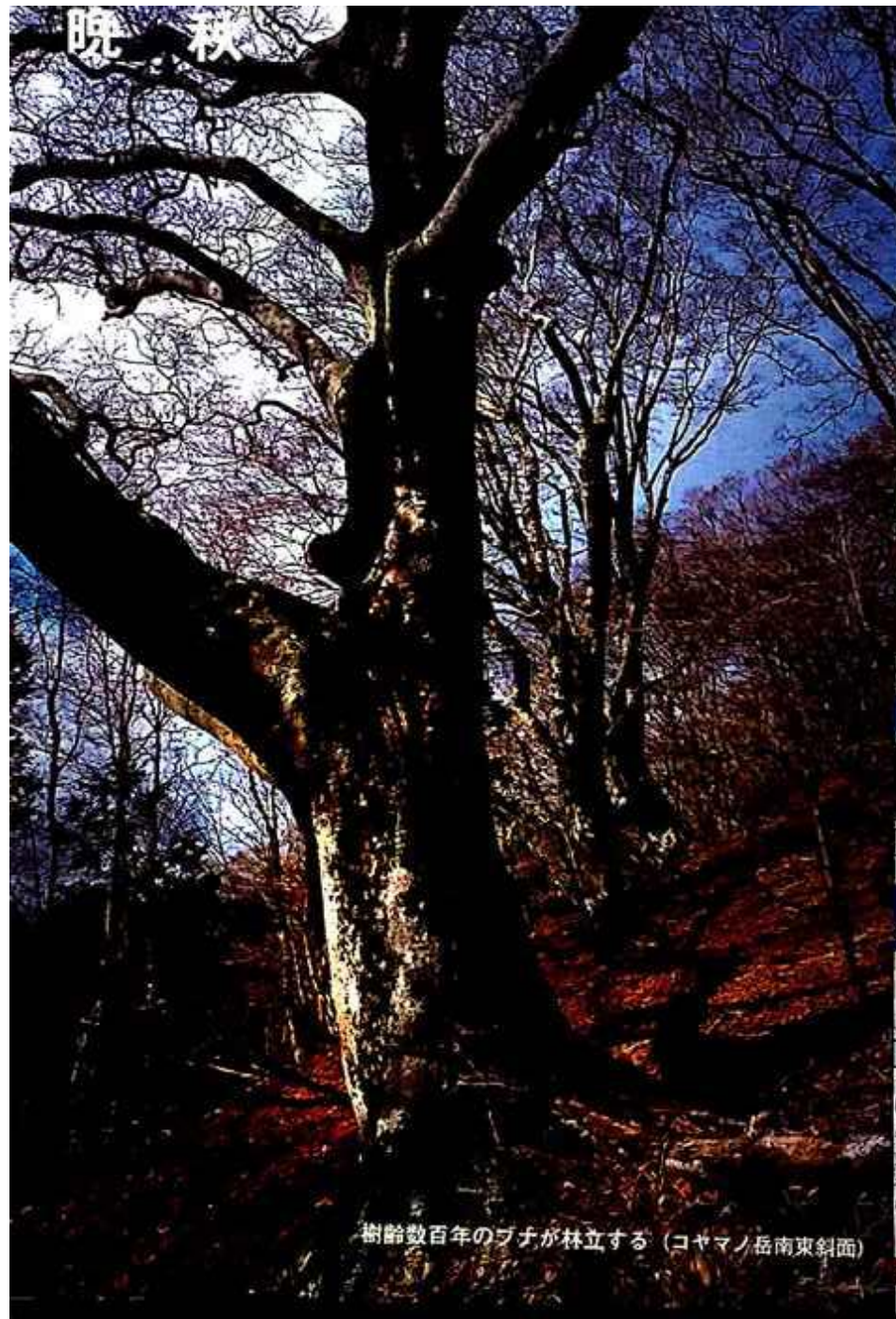


晩 秋



樹齢数百年のブナが林立する (コヤマノ岳南東斜面)

世界の山旅 絶景の旅

「一人ではいけない」でも行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。



(大阪発着・特別企画) 地の果ての大自然
パタゴニア・ハイキングとイクアスの湖 14日間

旅行期間 11/27~12/10, 1/15~1/28
¥728,000 (大阪発着)

チリ湖のバイネ、アルゼンチン湖のフィッツロイの両山群を訪れ、快適なロッジからのハイキングを満喫。さらに世界最大の規模を誇るイクアスの湖も訪れる特別企画。

ニュージーランドの山旅 大自然がさまざまな表情を見せる“地球の箱庭”

ミッドナルティ岬と、北島に広がるマウントクック国立公園

ミルフォード・トラックと
マウントクック 11日間

出発日: 11/28, 12/9, 12/16, 1/6, 1/20, 1/27 他
旅行代金: ¥585,000~¥612,000 (大阪発着)



ニュージーランド唯一の氷河からフッカー・ロードトレッキング

ルートバーン・トラックと
マウントクック 10日間

出発日: 12/4, 12/20, 1/3, 1/10, 1/24 他
旅行代金: ¥561,000~¥598,000 (大阪発着)



ニュージーランド(アルプス山)で最大級の平地ハイキング

サザンアルプス・3大国立公園
パノラマ・ハイキング 8日間

出発日: 11/22, 12/6, 1/3, 1/24, 2/7, 2/28 他
旅行代金: ¥435,000~¥475,000 (大阪発着)



ヒマラヤの山旅 一度は行きたい憧れの“世界の屋根”の懐へ

エベレスト山脈をまたいだ中の秘境地タンポチエへ

エベレスト・パノラマ・
トレッキング 13日間

出発日: 11/18, 12/10, 12/24, 1/8, 3/4, 3/11 他
旅行代金: ¥362,000~¥382,000 (大阪発着)



絶好の温泉地プーンヒルと温泉地タノニへ

アンナプルナ・タラクリゆったり
トレッキングとヒマラヤの温泉 12日間

出発日: 12/8, 3/9, 3/16, 3/23, 4/6 他
旅行代金: ¥348,000 (大阪発着)



世界最大の氷河の谷と、世界最高峰の山を巡る

ナムチャバルワと麗なる湖
東ヒマラヤ大冒険と青蔵鉄道 10日間

出発日: 11/27, 12/18, 2/26, 3/19 他
旅行代金: ¥365,000 (大阪発着)



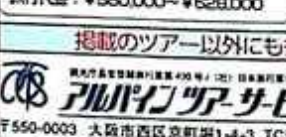
アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

短期間で効率よくアフリカ最高峰に挑む

キリマンジャロ
ゆったり登山とサファリ 11日間

大阪・東京 (12/20発は大阪のみ)

出発日: 12/13, 12/20, 1/17, 1/31, 2/14, 2/28 他
旅行代金: ¥580,000~¥628,000



密林に隠るアンコールの遺跡と麗なる山を歩く

世界遺産アンコール遺跡群と
聖山ハイキング 6日間

大阪・福岡・名古屋・東京

出発日: 12/22, 1/5, 2/9, 3/2 他
旅行代金: ¥222,000~¥262,000

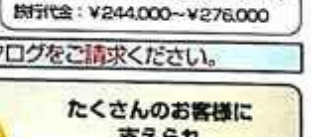


ベトナム最高峰ファンシーバン山頂と

世界遺産ハロン湾クルーズ 8日間

名古屋・東京

出発日: 11/29, 12/20, 2/7, 3/14, 4/18 他
旅行代金: ¥244,000~¥276,000



掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

アルパインツアー サード株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後ビル2F

東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033

名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557

札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)

札幌/☎011(711)7106 広島/☎082(842)1660(転送)

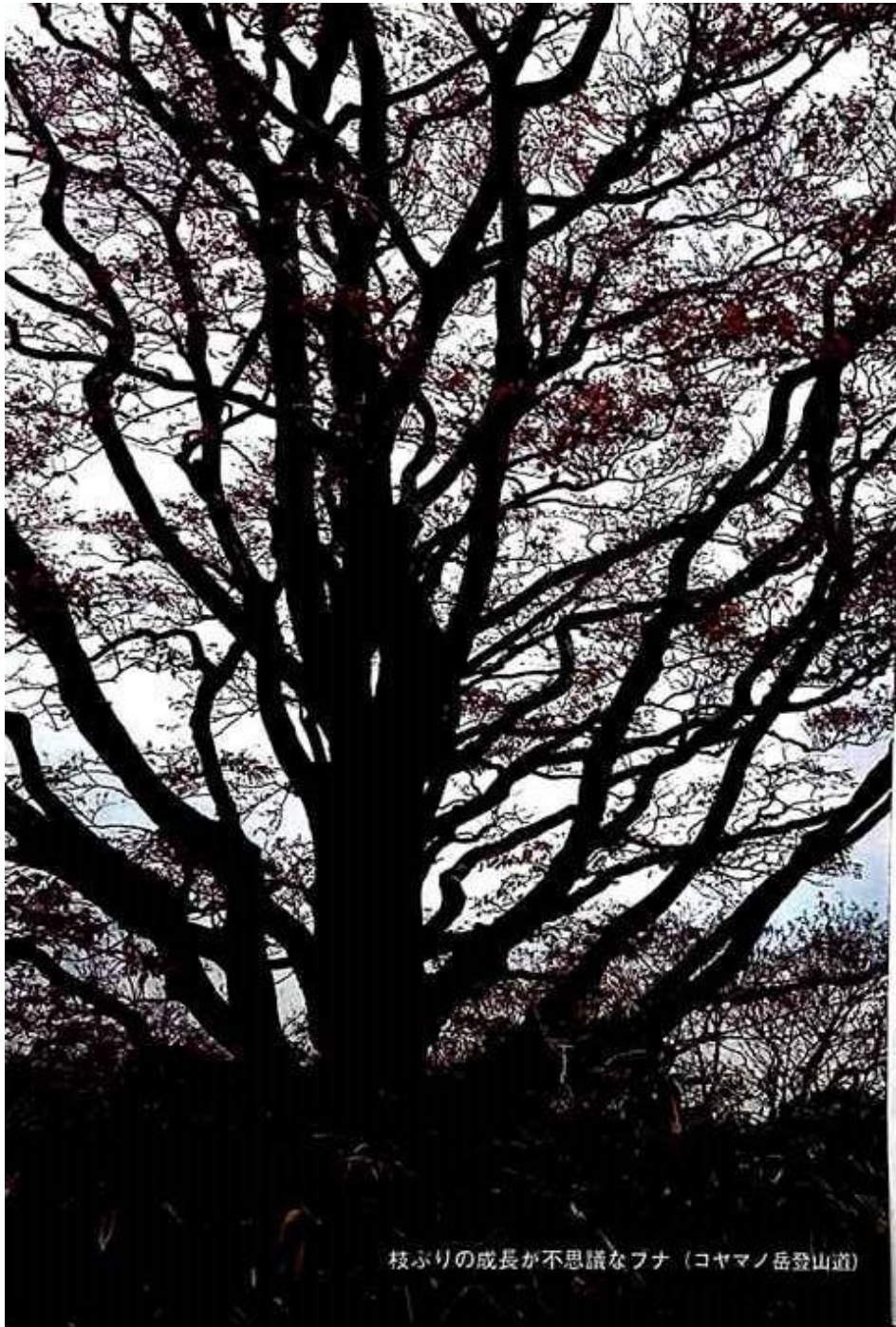
(※りんどう観光) 広島/☎082(842)1660(転送)

e-mail: osaka@alpine-tour.com



たくさんのお客様に
支えられ
アルパインツアーは
創業40周年を
迎えることができました。
心よりお礼申し上げます。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します。



枝ぶりの成長が不思議なフナ（コヤマノ岳登山道）



晩秋のフナ林（コヤマノ岳と貫泰ノ岳登山道）

近江の山
樹木の四季
— 晩秋 —

山本 武人

比良連山のフナ

（滋賀県大津市）

びわ湖西岸を南北に約25kmの比良連山は京阪神の人達にはよく知られている。その中でフナ林がある場所はコヤマノ岳一帯に限られる。シャクシコバの頭、ツルベ岳などほかにもフナ林はあるが、コヤマノ岳ほどではない。

私はコヤマノ岳山頂にある縦横に枝を広げたフナを四季撮影してきた。周辺のフナも同様に撮っている。

長年、その様子を眺めていると、木々が枯れたり折れたりしている。これからもその変移を見守りたい。



今熊野観音寺 (本堂を望む)

楓葉黄 (もみじつたむきばむ)
 西国第十五番 今熊野観音寺
 山門を潜ると静寂な参道が続く
 本尊は空海作の秘仏十一面観音
 知恵授け 頭痛封じ ぼけ封じ
 ぼんやりと秋風に身をまかせる
 空は藍色 刷毛で掃いたような雲
 宝箱をひっくり返したような落葉
 黄金の絨毯の先に真っ赤な紅葉
 京都で一番赤い紅葉
 うっとりで見惚れてしまう
 秋霜や時雨に揉み出され色づく
 揉み出づ もみづ もみじ 紅葉
 紅葉 黄葉 楊葉
 おすすめは朝のひっそりした時

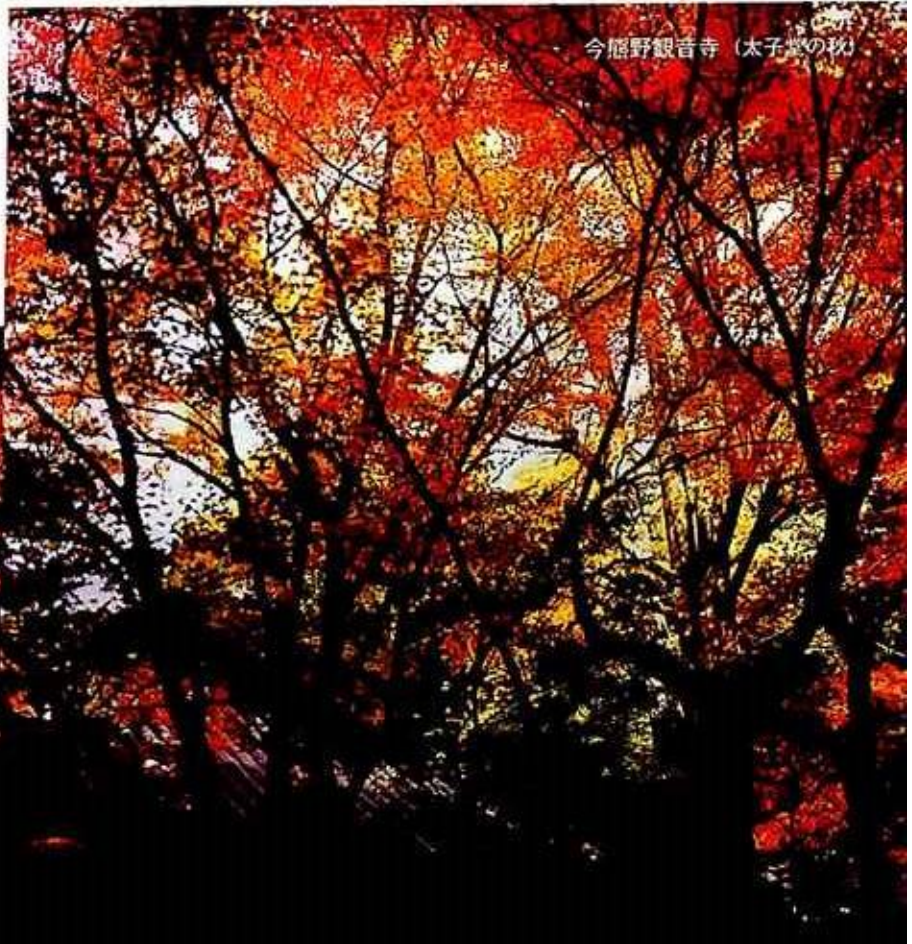
Photo essay

葛 楓 紅葉

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松永 恵一



東山 (紅葉の海)



今熊野観音寺 (太子堂の秋)



秋にパンザイ

季節の



散紅葉

実景

芦生 (京都北山)

撮影 武市通治

晩秋



フナの秋



斜陽



錦秋



秋の冷水山を歩く（黒鹿山脈） 金谷 昭



北山紅葉（周山慈眼寺） 山中 茂



北山紅葉（北山中川） 山中 茂

- 表紙 蝶ヶ岳より早朝の穂高連峰を望む(北アルプス)……松田敏男
- 口絵 近江の山・樹林の四季……山本武人
- Photo essay「楓鳥黄」……松永恵一
- 季節の実景「芦生」……武市通治
- 山中 茂・金谷 昭
- 晩秋の護摩壇山……奥田英一郎



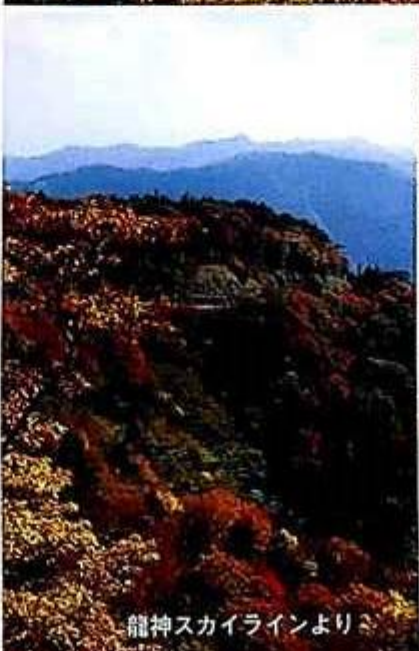
晩秋の山
(西村文男)

晩秋の護摩壇山 (1372 m) —奥高野—

奥田 英一郎



霞ひとつない空のもと



龍神スカイラインより



自然林に行く

● 巻頭言	18
● 紀行	16
● 連載紀行	14
● 研究	12
● コースガイド	8
● サイバースチーン	8
● 山行計画・報告	8
● 索引	8
● 編集室	8

巻頭言

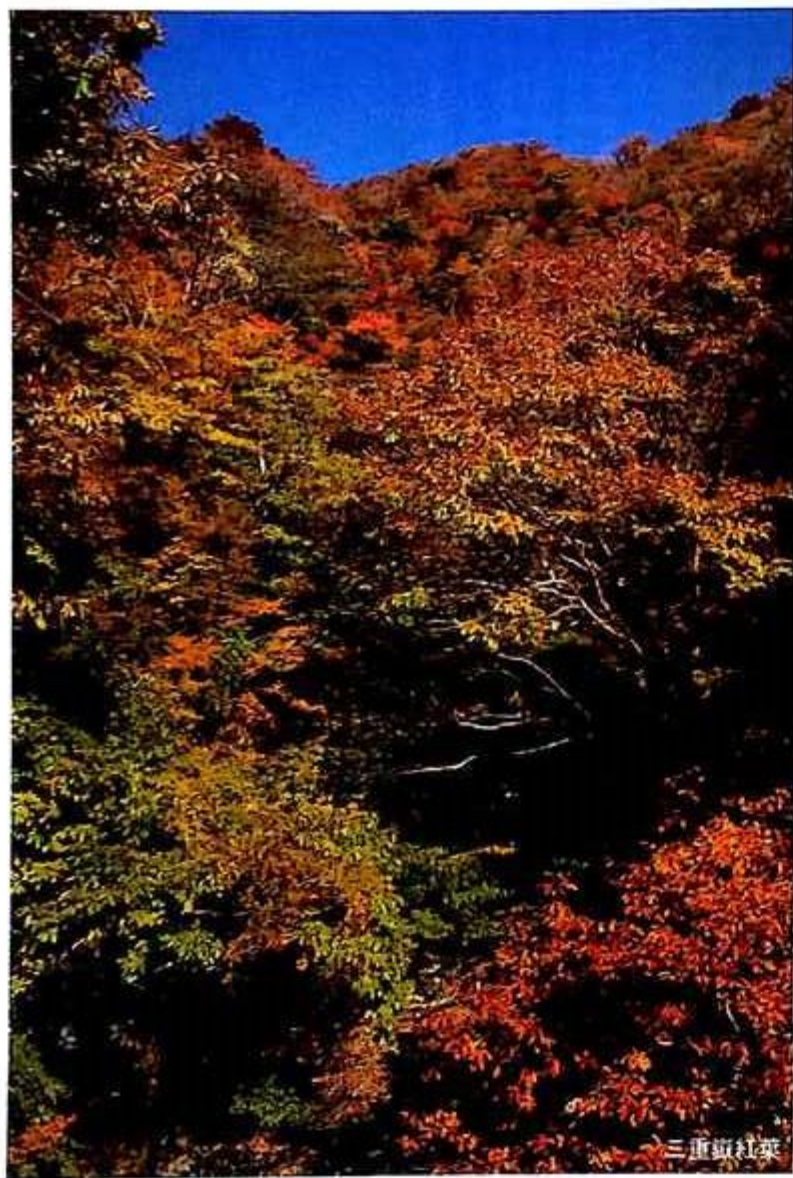
胃潰瘍がひどくなり、2月7日、雪の「武奈ヶ岳」例会でへばってしまい、途中でひとり引き返した。医者に診てもらったところ、胃ガンと診断、また肝臓への転移も認められた。「肝臓も含めガンがひどく、かつ広範囲にあるから手術での治療は無理」とのこと、検査入院1週間後退院させられ、末期ガンだとさじを投げられた。

でも、入院中の2月21・22日「真英山・牛廻山」、退院直後の2月27日「飯道山」の二回だけは例会を中止したが、その後は全ての例会を無事にこなし、夏から秋には北アルプスの山へ三度も登った。

20年近く勤務しながらも小誌を100号余編集し続けてきた無理がたたったものと思ったが、ガンに負けてはならないと夫婦で必死にがんばった。

今、肝臓ガンはほぼ消え、胃もきれいになった。なぜか？ その秘密と治療した経過について後日、小誌で発表したい。

新ハイキング関西(代表 村田智俊)



三重嶽紅葉

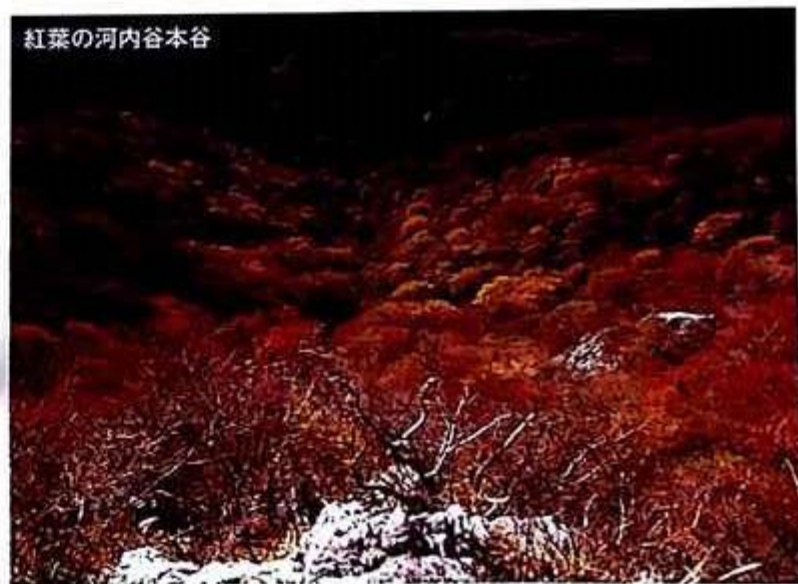
特集

晩秋に歩く山 3コース

— 編集室 —

- ① 行市山から刀根越（湖西・高島トレイル）
- ② 三重嶽から大日（湖北・余呉トレイル）
- ③ 堂満岳から八雲ヶ原（比良）

紅葉の河内谷本谷



特集①

中央分水嶺の山と峠

自然と歴史が残る山を歩く楽しさ

行市山から刀根越とね

中級コース(★★)

行市山は、高い山ではないがよく目立ち、山頂へ立てば展望も広く、賤ヶ岳合戦の柴田方の拠点というべき岩があったこともうなずける。

中央分水嶺はこの山頂から北上するが、南にも尾根がのびて余呉湖をめぐる山へつながっている。山頂から山腹にかけて岩跡が残っていて、美しい自然林に覆われている。北へのびる尾根もそうだが、すべて岩と岩を結ぶ軍用道路が拓かれていたという。その後深

いやぶに埋もれていたが、近年、再び登山道として道が整備され、「兵どもが夢の跡」をしのびながら歩くことができる。

この夏には余呉トレイルのアプローチルートとして、南側の集福寺越から山頂へ道が開かれたことは朗報だ。ともあれまずは、一般的コースである毛受兄弟墓からこの山へ登ってみよう。柴田勝家の身代わりとして果てた兄弟の墓に手を合わせたあとは、電欄

ゲートを通り尾根に取り付く。ほとんど開かずして兵を退いた戦国武将への思いは人それぞれとして、頂上に至るまでに残る、その旗のもとに集まった多くの有能な武将の岩の跡は一見の価値がある。さらに私たちを喜ばすのは、そうした岩跡が自然林のなかに残されていることだ。雪の多い中央分水嶺にふさわしく、史跡として保護されていることもあり、手入れの行き届いた歩きやすい登山道が山上へと伸びる。

岩があった山頂からの景色は雄大だ。敦賀側は杉林で遮られるが、琵琶湖から伊吹山、金粟岳、そして横山岳までの大パノラマは見応えがある。

特に横山岳は、淀川水源高時川源流のゲートマウンテンであり、その山頂から余呉中央分水嶺最奥の上谷山や三國岳を望むことができる。分分水嶺トレイル整備の一環として菅並からの余呉ルートが最近開かれたこともあって注目の的だ。山頂での憩いの後は気を入れて進も

う。物資を運んだであろう刀根越への道であるが、深いササに覆われていて侮れない。この道は往時のものではなく、数年前に敦賀の山岳会が植林道を活用して開いたものだ。

ササをかきわけ、琵琶湖の景色や木立越しに思いのほか深い敦賀側の山並を見ながら進むと、やがて深く掘れ込んだ刀根越に出る。

分水嶺上の勝家の本陣玄蕃尾城は、ここから往復30分程、時間に余裕があればぜひ訪れたい。

余呉を通る北国街道から敦賀へ至る刀根越は、車が普及する前までよく使われていた幅広い歩きやすい峠道だ。下り切ると古い佇まいを残す柳ヶ瀬集落の北端へ出る。

*このコースは、11月15日の新ハイ例会で実施する。(擅自)

△コースタイム▽

毛受兄弟墓(1時間)別所山(40分)行市山(1時間30分)刀根越(30分)柳ヶ瀬

△地形図▽2万5千||木之本



行市山山頂からの展望

(問い合わせ先)ウツアイバル余呉

☎0749-8614145

特集②

中央分水嶺の山と峠

美しいブナ林の続く尾根を歩く

さんじょう

三重嶽から大日

だいにち

上級コース(★★★★★)

はゆるくなり美しいブナ林へ入る、江戸時代には入会山として麓の村から人が多く入っていて、さらに戦後には大規模に伐採された山だが、尾根筋のブナ林は残されて今日に伝えられている。このブナの森をしてこの山が多くファンを持つ所以だ。今津中学校の生徒のつくった展望槽は老朽化を理由に撤去され、展望のきかない山頂での願いは短時間で済ませ、琵琶湖と若狭湾が望める北尾根を進む。

大日へは若狭側から登りやすく、天増川林道終点から近い。しかし、私のお気に入りのコースは本谷橋から三重嶽に登り、大日尾根分岐からブナ林が続く近江坂の古道を伝って大御影山へ廻り、本谷橋へ戻るものだ。本谷橋までの林道歩きもあり、コースは長く山慣れた人向きとなる。

河内谷林道ゲートから1時間あまり歩くと本谷手前の登山口へ着く。すぐに尾根へ取り付き、急坂を登ると傾斜

行くと近江坂と出合う。ここは大日と大御影山の分岐である。荷物を置いてブナ林の続く尾根を進むと、大人4人がかりという太いブナに出会う。均整のとれたほれほれとする巨樹である。大日三角点まですばらしいブナ林が続くが、行程の長いきょうはここで引き返す。

大御影山への尾根に続く近江坂のブナ林も見応えがあるが、ここは特に奥山の佇まいがいい。登り返して反射板の前に出る、ここから本谷橋へくだる

三重嶽は、高島トレイル最高峰にふさわしい堂々とした姿で、静かな山に憧れる私達を温かく迎えてくれる。石田川源流にあり、東西南北に尾根をのびす隆起前の準平原地形を山頂部にとどめる。そこには豊かなブナ林が広がり、奥深い山特有の静けさにあふれている。雪の多さは特筆すべきで、標高の高い比良の武奈ヶ岳をしのぐ。ブナ林は北尾根から大日尾根へ続き、三角点大日へ美林が続く。

道が分かれるが、その前にすぐ先の三角点ピークを往復しておこう。南に三重嶽、ノロ尾が北に見える居心地のいい頂上だ。

れてはいるものの、標識の類は一切無く、地図を説める熟練者向けのコースだ。(橙上)

反射板からくだる道は今津山上会が開いた味わい深い尾根道であり、藤原新道と仲間うちで呼び、展望のいい水繁岩・島本岩、深い樹林に覆われた春山平の憩い場があり、本谷橋をこのあたりの登山拠点にという願いが込められている。

高島トレイルマップに破線で表示さ



- △コースタイム▽
 - 河内谷林道ゲート(1時間15分)本谷橋(1時間40分)三重嶽(1時間30分)
 - 大日尾根分岐(往復1時間)大日ブナ巨樹、大日尾根分岐(1時間)大御影山(1時間40分)本谷橋(1時間)河内谷林道ゲート
 - △地形図▽
 - 2万5千13万、熊川(問い合わせ先)
 - ウッディバル余興
 - 07491
 - 8614145

三重嶽北尾根からの小浜湾



特集③ 比良

紅葉が見事

どうまん

堂満岳から八雲ヶ原

一般コース(★★)



数年前に比良リフト・ロープウェイが廃止され、八雲ヶ原を訪ねる観光客はいなくなつた。

静かになつた八雲ヶ原へ紅葉を楽しみながら堂満岳から訪ねてみよう。

堂満東稜道の登りは初級者には厳しいかもしれないが、平素から山に親しんでいる新ハイのメンバーなら問題なかろう。

JR比良駅から比良リフト前へのバ

スも廃止され、駅から堂満岳登山口の桜のコバまで歩けば約1時間はかかる。行程の長さを考え、イン谷口までタクシーを利用する。

イン谷口横の橋から南東に200mで桜のコバに至り、堂満岳への道標を見て右折する。ここからしばらくで山に取り付いてノタノホリへ急な坂道を登って行く。40分も登ると左側に小さな池が見えてくる。これがノタノホリで池の周囲は紅葉に包まれている。こ

こを過ぎるとすぐに堂満東稜道に出合い、右への尾根道を伝う。灌木の尾根右側を捲くようにゆるく登って行く。右側に見える紅葉はきれいだらう。ややくだるようになり、谷筋に出合くと樹林帯となり、ここから本格的な東稜道の登高となる。広葉樹のなかにモミジが紅葉している。道ははつきりして北東へのびる稜線に登って行く。谷筋から小1時間も落ち葉道を登れば、左側に南嶺の展望地があるので立ち寄ってみよう。

ここを過ぎれば堂満岳直下となり、急登となる。木の幹や根っこをつかんで20分ばかり急登をこなせば、堂満岳(1057m)の頂上である。山頂からは金蕨峠を指さそう。正面谷の背ガレを右眼下に見て、所どころ気を遣う岩場の深くえぐれた道を伝う。樹林帯に入ると道も落ち着きを取り戻してくる。左側を比良縦走道が通っており、合流してしばらく進めば、金蕨峠の交差点に着く。まっすぐ進めば北比良峠で、旧ロー



ブウエイの山頂駅があつた場所だ。これを經由しても八雲ヶ原に行けるが、秋の雰囲気を味わおうと思えば、左折して奥の深谷コースをたどるのがベストだ。湿地帯を5分も下りれば奥の深谷に出合う。右折して谷沿いの道を八雲ヶ原に向かうことにする。樹林のなかを静かに流れる奥の深谷の瀬音を聞きながら、平坦な登山道が上流に続いている。あたりの明るさとあいまって木々の黄葉・紅葉も見事だらう。徐々に源

流をたどる雰囲気となり、やがて八雲湿原の池に着く。池の中には木道が整備されている。

めつきり静かになつた旧スキー場跡の八雲ヶ原広場で休憩をとってから、下山にかかる。

北比良峠からは、ダケ道をとつてイン谷口にくだる。神置谷の源頭地立ち止まってカラ岳や釈迦岳方向を望めば、山腹の紅葉がすばらしい。たんだんと尾根道をくだり、カモシカ台を過ぎてから大山口への急降下道になると岩がゴロゴロするガレ道になる。注意してゆつくりとくだらう。

正面谷に下り立つて流れを渡れば、すぐに背ガレから金蕨峠への正面谷登山道に出合う。後はよい道をイン谷口まで20分。イン谷口から朝に通じた桜のコバへ出て、比良駅まで約50分。*なおこのコースは、11月3日の新ハイ例会で実施する。(村田)

▲コースタイム▼JR比良駅(タクシー10分)イン谷口(5分)桜のコバ

堂満岳から釈迦岳



(40分)ノタノホリ(5分)堂満東稜道出合(40分)谷筋(40分)展望地(30分)堂満岳(40分)金蕨峠(5分)奥の深谷(40分)八雲ヶ原(20分)北比良峠(30分)カモシカ台(30分)大山口(20分)イン谷口(5分)桜のコバ(50分)比良駅(八地図V昭文社)「比良山系」

中央本線駅前からの富士見登山

滝子山

たきこやま

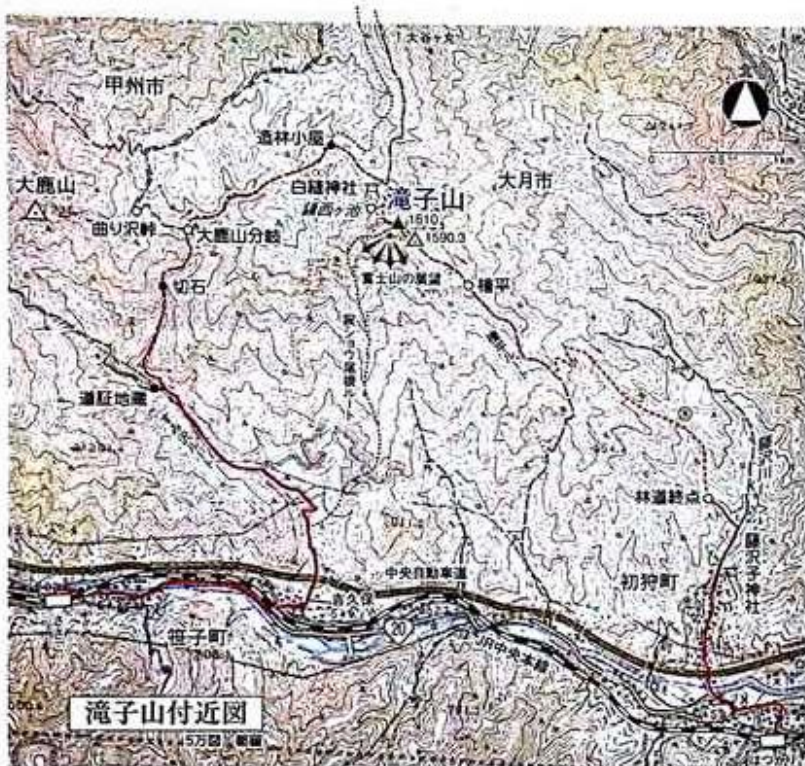
田中明

甲州

11月下旬ともなるとわが身も自由がきくようになる。近年、この時期には富士見の山へ向かうことになっている。

今年には富士の北側へ行こうと思いい立った。中央本線沿線からの駅前登山である。地図を広げると、JR中央本線沿いには低山だが数しれぬ山が連なっている。その中には富士山を展望する山が多いようだ。

あれこれ思案のあげく、候補地として滝子山と笹子雁ヶ腹摺山が残った。他の山への予定もあり、結局、この二座から最後に滝子山へ行くことになった。



滝子山付近図

滝子山から富士山



この山はこれまでから中央本線の車窓から目立っており、いつも何と山なのだろうかとはんやり眺めながら通過していた。一帯の山塊では一番立派なピークをもつ山であったが、1610だと、低山である南大菩薩の南端の山である。よくよく見ると山頂が三つに見えることから三ツ丸とも呼ばれているらしい。

山頂は南側が切れ落ちていて存分山岳展望が楽しめるようで、三ツ峠山本社ヶ丸から鶴ヶ島屋山の稜線越しに富士山がきれいに見え、道志山塊までも見えると、わくわくするような文句がガイドブックに並んでいる。

コースどりで悩んでしまった。笹子駅からのすみ沢ルート・寂ショウワルート、初狩駅からの檜平ルート、大谷ヶ丸方向からの南大菩薩縦走ルートの四通りある。要するに滝子山は、JRの駅を降りれば乗り物は不要で、そのまま歩き出すことができる駅前登山の代表的な山なのである。

私が選んだコースは、一般コースの笹子駅からすみ沢ルートを登り、初狩駅へ檜平ルートをくだるものである。しかし、歩いてみて頂上からの厳しい下り道を考えてと逆コースにすべきだったと反省した。

なぜなら、中高年のわれらは急坂など厳しい道ではできれば登りに使い、比較的なだらかな道をくだっていくほうがよい。急な下り道は休むにも容易で



白鏡神社

なく、体重移動などから膝などへの負担が大きい。安全面からも事故の確率が高くなる。足腰の老化に直面している年代には「急坂登り、なだらか下り」が山歩きの常套手段といわれている所以であろう。

笹子駅からは舗装道路を歩く覚悟が必要だが、国道20号はハイスピードのトラックなど大型車が行き交い、急ぎ足で吉久保集落の道へ入ってその先で

林道となる。事前調査済みの寂しゅう尾根への入口を右に見送ってゆるやかに高度を上げる。どんどん進むと林道が分岐して左へ行けば、小さな道証地蔵がひっそりとある。

穏やかな地蔵さんを見てホッと、思わず手を合わせきょうの安全をお祈りする。ここまで駅から1時間だったが、汗はあまりかかなかった。これから本道の山道であるところを引締め、沢から山腹へと歩を進めた。すぐに流れとつれづれになり、杉で組まれた丸太橋を渡ると三丈の滝が出てきた。このあたりからの渓谷沿いはまるで日本庭園の雰囲気、自然林のなかで一本立てる。名残の紅葉を目にしながら写真も楽しむ。

途中に切石との看板があり、すっぱりと切り落としたような大岩が道を塞いでいる。捲いて登る。また、各所にある地元小学生による看板も微笑ましい。自然を大切にすることを学び取組みに先生方や父兄にも感謝だ。道証地蔵から40分で、大鹿山への曲

り沢畔分岐と指導標が立つ斜面に着く。それにしても平日で静かな山である。笹子駅7時30分発でこの場所で9時20分。その間に誰ひとり出会わない。地図に「悪路で歩きにくい」と記す一帯だがそれほどでもない。晴れているので助かったのかもしれない。沢の流れを楽しみながら高度を稼いだ。

このコースは水分の用意は要らない。水場がいっぱい出てくる。道証地蔵までもしつかりした水場があるくらいで、山道になってもきれいな沢水が足を流れている。私は胃が丈夫だから北海道以外の山では沢水を口にしている。メンバーに沢水は決して勧めない。

しい。できれば早く片付けてやってほしい。大谷ヶ丸への作業道が分岐する所まで大鹿山分岐からわずか20分だった。短い行程なのに変化の多い道で楽しかった。

その分岐点は明るく開けた三叉路だ。左前方には頭を左に傾けたような尖っ



滝子山から冠雪の金峰山(左)と小金沢山(右)

た山が大谷ヶ丸ではないか。地図を広げると1時間以上はかかりそうである。今回は諦め、広い道が一気に右上に上がっているカラマツ林を行く。すぐにまた大谷ヶ丸への三叉路が平らな樹林のなかに道を分けている。たしか白鏡神社があるはずだと探すがいつこうに見当たらない。地図を再度広げるとわずばかり登った所だった。登って行くくと3分で鎮西ヶ池という小さな水溜まりがあって、これまた小ぶりの鳥居に白鏡神社の祠が祀られている。

悲哀の昔物語を思い出しながらここで一本立てた。その伝説とは、「鎮西八郎が朝が保元の乱に敗れて伊豆大島に流されたが、妻白鏡姫がその子若丸と阿蘇家の家臣十三人を連れて流浪の旅の末に辿り着いた滝子山で、水の湧くこの地に小屋を設け池も掘って夜露を凌ぎながら細々と耐え忍んだ」との悲話である。

静かに頭を垂れてから歩き出す。わずか10分で急登の先の滝子山に10時30分に到着した。もちろんひとりで

の山頂である。三角点は無いが、そのかわりに富士山が目の前にとっかとそびえている。これぞ富士見山行、登ってよかった歩いてよかった滝子山であった。

富士山展望の案内書は偽りではなかったのだ。前座に三ツ峠山、右に黒岳、東に鹿留山・杓子山、さらに正面手前には本社ヶ丸の稜線と、その間の頭は清八山奥の茶臼山だろうか。これらの頂は全て踏んでいるので愛着一入である。

富士の裾野前方右には南アの聖・赤石・悪沢など南ア南部の鋭峰たちがずらり、冠雪で天を突くように尖らせている。東はやや小枝がうるさいのだが、それでも右寄りから覗き込めば八ヶ岳の白い山塊がすばらしい。その右には金峰・甲武信も昨夜の雪を着けて眩しく並んでいる。最後は北側だが、大菩薩稜の山塊がいちばん近くくつきりと頭を並べ、その姿はぞくぞくするほどうれしい。手前から大谷ヶ丸、ハマイバ丸と大蔵高丸は固まって見えるが、

禿たように見える白谷ノ丸の奥には樹林の黒岳、その東には雁ヶ腹摺山と甲州に三山ある雁ヶ腹の名家だ。それに奥の北西寄りに薄っすらとこの山城の盟主大菩薩嶺も見えるではないか。もちろん北東寄りには東京都最高峰雲取山、さらに東には奥多摩三山の大岳山も奇抜な頭を見せている。

ひとりっきりの山座同定が終わわり、腰を降ろしてシャリを放り込もうとしたところへ、東の初狩から、南の寂シヨウ尾根から、それぞれ単独行が3人揃った。「私はすみ沢から来たんです。偶然ですね」三者三様のルートについて話はずんだ。横浜に静岡からだと言聞きながら、展望の富士に大満足して1時間25分もの長居をした。

滝子山頂上からは、東への檜平コースを初狩駅へ予定どおりくだることにした。すぐに二等三角点が埋まる三つの頭の中で一番低い1590m峰を過ぎ、ロープのある急下りを落ち葉に注意しながら10分で、旧道の男坂と新道の女坂分岐であった。迷わずゆるやかに

道と思われぬ女坂を進むことにしたが、10分で合流点の檜平に着いた。これだったら男坂を下りても大差ない。平らで広い檜平でひと休みして富士山でも見ようとならぬ、白い雲に覆われた富士に、休みもとらないで通り過ぎてしまった。

結局、今回の滝子山コースからは、山頂と檜平の二ヶ所だけが富士見ポイントだったのだが、美しい富士は山頂からの一ヶ所のみとなってしまった。だがしかし、あの頂上からの大展望が得られたのだから(今回の富士見山行は◎印だった)と思いながら、長い尾根歩きでジクザク道も相当あって標高を下げて行く。

下はまだまだカエデの紅葉がきれいに残っており、カサコソと落ち葉を踏む音をBGMのように聞きながら行く。下り道で最初の水場のベンチで足を休め、(うーん、これだから単独行は止められない)とひとり悦にいり至福の時を過ごした。その後は谷の底へ下りて沢に沿って

進むが、相当荒れていて足元に注意がいる。かなり歩いた暗い谷筋から急にあたりが明るくなったと見ると、目の先には草ののびた狭い林道に出た。

この林道を行けばほどなく蘆沢の民家に出て、後は初狩駅まで舗装路歩きである。20分も歩かない頃に振り返ると、滝子山の三つの頭が「また来いよ」と見送ってくれているようであり、次は寂シヨウ尾根ルートから登り、すみ沢溪谷が新緑の景色を用意してくれる頃に再訪することになるだろうと、溪谷沿いの春植物たちと滝子山頂上からの富嶽を夢みるのであった。

(平成20年12月1日歩く)

〈参考タイム〉

- JR 笹子駅 7・38 | 道証地蔵 8・30 | 35 | 大鹿山分岐 9・18 | 23 | 大谷ヶ丸分岐 10・02 | 白縫神社 10・20 | 28 | 滝子山 10・35 | 12・00 | 檜平 12・20 | 下りの水場 13・05 | 20 | 蘆沢集落 13・56 | JR 初狩駅 14・30
- △地形図V2万5千II 笹子

紀行

歴史ロマンをたどる

伊勢寺から若山

木村太郎

北 撰

国連が定めた「国際山岳年」の2002年に、大阪府山岳連盟編で「大阪50山」がナカニシヤ出版から刊行された。旧国領の摂津・河内・和泉の地域別に分類して50山を選定している。

妹尾一正さんの案内で、高槻市教育委員会が設けた「高槻歴史の散歩路」の一つ「伊勢寺・能因塚コース」をたどり、「大阪50山」の摂津の山に掲載された若山へと足をのばした。

阪急高槻市駅で集合。JR高槻駅前 野天満宮より起源が古いので上宮の名を抜け、北方に樹木が茂る天神山を見て進み、上宮天満宮の石段を上がる。祭神に同じ菅原道真を戴く京都の北

伊勢寺



いを思い浮かべて石段下に引き返した。天神山の別名昼神山の車塚古墳の前で、天満宮鎮守の森に沿う竹やぶの細い道を北に向かう。前夜からの雨も上がり、爽やかに朝日が差す伊勢寺の山門をくぐる。伊勢寺は三十六歌仙に名がある平安期の歌人、伊勢がその生涯を終えたと伝わる古寺である。



能因塚



能因法師が伊勢を歌聖とあがめ深く敬っていた姿が古い歌説本に逸話として描かれている。京都に赴いた能因が車に乗り伊勢の昔の邸前を通りかかった時、名高い伊勢の結び松を目にし、札を失するとすぐ車から降りた。結び松の梢が見えなくなるまでの間、車に乗らずに歩いて表を通り過ぎたという。伊勢と共に能因法師の歌も、「小倉百人一首」に撰入された。

伊勢の作風を慕って和歌に精進した能因は、あの世で望外の喜びと思っているだろう。

古曾部繁跡が伝わる古曾部の集落から、三島地方で最初に稲作を始めた安満宮山遺跡がある安満の集落に向かう。名神の高架を抜け磐手橋バス停を通り、安満山古墳群と悠久の丘への車道と離れて林道に入る。

小川に架かる石橋を渡った所で本格的な山道になり、三好大明神の滝場を過ぎる。座禪石から弁天池へ続く道の所どころに点在する丁石柱は、この山道が古刹金竜寺紫雲院の参詣道であったことを示している。

松茸狩りの名所として「撰津名所園会」巻之五に描かれた金竜寺山。能因法師がこの地で詠んだ普賢桜、西行や芭蕉など多くの文人が足跡を印した金竜寺の栄華時の面影は今も跡形もない。金竜寺の前身は延暦期創建の安満寺で、幾度となく焼失再建を繰り返したが、近年に到りハイカーの失火で、今は石



伊勢桜と歌碑

伊勢は伊勢守の任務についた藤原鎌足の娘でその名がある。宮廷に仕えていた時、宇多天皇や、その息子の敦睦親王とも結ばれ、恋多き女流歌人として知られる。紫式部の『源氏物語』にも影響を与えた『伊勢集』を紐解けば、伊勢の恋愛の成立と破綻が歌物語風に書かれている。

伊勢の初恋は伊勢14歳の時、相手は時の関白家の二男藤原仲平16歳。伊勢の幼い恋は、相手が大将家に婿取りされたために破れてしまう。悲嘆した伊勢は内裏を去り五条の実家に身を退くが、人の気配もない荒れた家を仲平が訪ねた話が伝わっている。

仲平は「人住まず荒れたる宿を来てみれば今ぞ木の葉は錦織りける」と、伊勢に会えなかつたので紅葉した木の枝に歌を結び文にして帰る。男の歌を見て伊勢は仲平に、私が悲しんで流した涙のせいで紅葉が色濃いのだと歌を返している。

涙さへ時雨に添へてふる里はもみちの色も濃さぞまされる

この日の伊勢寺境内の紅葉は、伊勢が男に返歌した涙色のように鮮やかである。本堂の東側に伊勢桜が植えてあり、そばには筆塚と伊勢の歌碑が立つ。見る人もなき山里の桜花

ほかの散りなむのちぞ咲かまし振り返られることもない里の桜、あ

こちらの花が散ってしまったあとで、ひとり華やかに咲いていたもの。当時として、女性にはまれな自我に目覚めて自己主張している女歌である。悲しみを忘れようとして伊勢は、その後父の任地の大和へ旅立ち、吉野龍門の滝などの寺めぐりに出かけている。

宇多天皇に寵愛された伊勢が、晩年この地に草庵を結び、伊勢が亡くなった後に伊勢寺と名が付いたという。正式には金剛山集王窟伊勢寺、はじめは天台宗の寺であったが、現在は曹洞宗の禪寺である。本堂西側上がった場所に伊勢廟堂があり、そばに高槻城主永井直清が建てた伊勢姫顕彰碑がある。伊勢寺を出て高槻市が整備した歴史の散歩路の道標に従い、伊勢を敬慕していた能因法師の墳墓を訪ねた。能因は出家して伊勢寺のそばに居住し、古曾部入道と呼ばれて歌道に専念した。能因塚の横に、能因法師の歌碑が建立されている。

やまざとのほろの夕ぐれきてみればいりあひの鐘に花ぞちりける



若山三角点にて

垣と礎石が残るだけである。

能因が詠んだ山桜の季節は過ぎたが、イチョウの黄葉とモミジの紅葉で金竜寺跡は秋色の旋律を奏でている。丸太でつくられた椅子に腰かけて、昼食と食後のコーヒーを飲み、美しい秋の調べに身体をゆだねた。

悠久の丘分岐を通り過ぎ、鉄塔に出合う地点すぐの樹木に、「北摂一番の見晴らし場所」の木標が結ばれている。阪急上牧駅に下りる分岐らしかったが、右手の小道を入れば見事な展望が開けた。生駒山と生駒山系から南山城へ続

く山並が背景に連なり、淀川の大流域が眼下に俯瞰できた。

淀川に春を告げる風物詩、ヨシ原焼きを行う鶴殿の河川敷にも近く、蘆原が生い茂っている流城の川岸が見下ろせる。下流に「万葉集」に伝わる三島江があり、古くは難波潟の湿地地があった大阪湾へ淀川は流入している。

難波潟みちかき蘆のふしのまも
逢はでこの世を過くしてよとや

難波潟に生える蘆の節のように、ごく短い間でも、あなたと逢わないでこの世を過ぐせと言われるのですか。伊勢寺の山門上の歌碑に彫られていた「小倉百人一首」に載る、恋心を訴えた伊勢の代表歌である。

難波潟へ通じる蘆原の川辺を山上から見下ろせば、王朝の時代より今日まで若山は摂津国の豊かな自然を育んできたのがよくわかる。淀川の悠久の流れと共に若山は、歌姫伊勢のロマンを見守り続けてきたのかも知れない。

平坦な尾根道が少し登りに転じ、高台に出た場所に若山三角点を指す道標

奥庫の隣に「山崎合戦秀吉本陣跡」の石碑が立っている。中国地方から急ぎ引き返した秀吉は、本陣にした天神松原で茨木城主中川清秀・高槻城主高山右近らと合流して山崎へ進んだ。武運が開けたのちに秀吉は短い間天王山に城を構えたが、後に太閤が城を構えた伏見との往來に、この道を近在の人達が歩いたのかも知れない。

高槻市天神町と天王山との間にはほぼ一直線に太閤道がのびる。山崎合戦記になく秀吉は通行していないが、太閤道の名が定着したのは、周辺の歴史ロマンに魅かれて、この道をたどる人々呼び始めたからだろうか。

山崎方面に起伏が少ない尾根道を進んでいると林道に出る。慶次次盛一氏の「北摂の山」東部編（ナカニシヤ出版）の文章を思い出し、進行と逆方向へわずかに林道を登る。「眺めが良い芝生地が林道先の高圧鉄塔下にあり、大阪湾や六甲山を見通せた」という記述を以前に読んでいたからだ。

がある。道標が無ければ見落としそうな通過地点で、山道を外れ樹間に入った草むらに三等三角点を見つけた。

若山（315.5m）の三角点そばでは、妹尾さん、中澤さん、村上さんと記念撮影をした。

若山登山道は昔より「太閤道」のハイキングコース名がある。明智光秀と覇権を賭けた山崎の合戦の折、のちに太閤となる羽柴秀吉がこの道を通ったというが、定かな史実になく正確な民間伝承さえも拾えないために、赤松滋氏は「大阪50山」の文章で太閤道の名の誤りを指摘している。

天王山の手前で秀吉は軍勢を三派に分けたが、淀川端と西国街道、もう一つの山越えの軍勢は羽柴秀長らが率いたという。天王山を迂回するならまだしも、地理的に太閤道では手前すぎると説明している。秀吉が太閤道を通ることは理に合わないという、赤松滋氏の考察は正論である。

この日歩いて来た、上宮天満宮の神

と、友人は流域を追いかけている。

四ツ辻の道標まで来て、川久保への林道を後にしてゴルフ場の金網沿いの山道に入る。ツブラジイの森に心を慰められ、紅葉に染め上がるの若山神社にくだる。神仏分離令の前は牛頭天王をまつり、明治以前は西八王子神社と称していた。祭神を素戔嗚命とし若山神社に改めているが、親しみをこめて「天王さん」と地元の人々呼んでいる。

若山神社から団地の道路まで来た時に、私の「ファミリーバイク」例会で最終回に歩いた天王山の姿が現れた。思い出話に花を咲かせ、阪急水無瀬駅へ向かった。（平成20年11月28日歩く）

△コースタイム▽

阪急高槻駅（20分）上宮天満宮（20分）伊勢寺（10分）能因塚（15分）野手橋（45分）金竜寺跡（35分）北摂一番見晴所（10分）若山三角点（15分）高圧鉄塔下（5分）三川合流展望所（45分）若山神社（40分）阪急水無瀬駅
△地形図V2万5千11淀

三角点を巡る日帰りサイクル登山

ゆきのさん いざみやま ほうらいさん おやま
雪野山・伊崎山・蓬萊山尾山・点名「切通」 さりとおし

湖東

金谷 昭

今夏、映画「劔岳・点の記」の公開によって今まで一部の登山者にしか関心のなかった三角点が、一般の人にも知られるようになった。

10年程前、私が新ハイ例会にて某山頂でブッシュをかき分けて三角点標石を探し出し、写真を撮って観察していると、これを見ていた会員のひとりから「石狂い」と言われたことがあった。

昨今、深田久弥の日本百名山など、中高年の登山ブームと相まって、三角点踏査登山も行われるようになった。しかし、一般の人は三角点の意味を知らず、なかには「四角い三角点標石をなぜ三角点と言うのか」と疑問を呈する始末である。

雪野山一等三角点

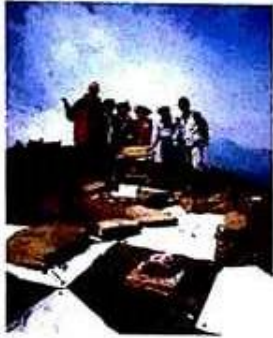


世の中に役の立たないことが多いなかで三角点探しほど無意味な趣味はないように思われ、無機質な標石踏査に価値を認めず、三角点愛好登山者を「石狂い」と言うのも宜べなるかと思っている。しかし、私のような三角点愛好者は、この三角点測量が明治以降の国土発展にとって国土の把握と正確な地形図作成の礎となっており、「三角点標石は日本の有形文化財」と言っても過言ではないと思っている。

三角点測量の歴史については他の文献に詳述されているのでここでは触れないが、わが国の三角点測量は、戦前

にわが国の領土であった台湾・韓国でも行われていた。

平成15年春、本誌特別例会「台湾の山」でも、わが国が当時設置した三角点が今も健在で、台湾最高峰玉山(3952m)と第二の高峰雪山(3884m)で対面できたが、いずれも台湾の一等三角点として立派に現役使用されている。特に雪山では測量直後らしく、測量資料が周囲に置かれていた。当日は快晴のもと、我々新ハイキング関西グループのみの全山貸切状態で、一等三角点標石の前でガイドが担ぎ上げたスイカを御馳走になり、三角点踏査を楽しんだことが忘れられない。



台湾雪山一等三角点にて



韓国雪岳山一等三角点

一方今年の初夏、本誌特別例会「韓国の山旅」で韓国第三の高峰雪岳山(1708m)頂上で三角点に出会ったが、戦前わが国が設置したのを全て撤去し、ハンゲル文字の入った三角点標石に替えられていた。何も設置済みの標石をわざわざ取り替えることもないのにも思ったが、民族主義の濃い韓国の国民性からは止むを得ないだろう。

「劔岳・点の記」に登場する三角点標石は、一等から四等まである。当時劔岳は登頂すら問題視されていたが、明治40年7月13日に登頂に成功した。

登山道の無かった劔岳に三角点標石を担ぎ上げて詳細観測することは不可能で、やむなく三等三角点を断念し、点の記(三角点の履歴書)に記録されない四等三角点となっていたが、平成16年8月24日になって初めて標石が設置され、正確な高度が測定され、三等三角点(点名・劔岳)に昇格したのは誠に慶賀であった。

かく言う私も三角点の探求者のひとりでありわが三角点病患者「石狂い」であるが、その最たる探求者で三角点病の重症患者は本誌会員山形蔵之氏をいいては他にはいない。三角点測量の基幹となる一等三角点972点のうち、絶海の孤島、米軍など自衛隊の演習場の着弾地を除いた957点以上を踏査されているのは恐ろしい。

NHKテレビ「熱中時間」で三角点マニアの特異な趣味の持ち主として登場されたのもっともで、三角点探求者がテレビによって視聴者に認められ世に知られたのはうれしかった。私も山頂に三角点が無いと山に臍が無く



半程であり、途中の分岐でどちらをとっても大差はない。雪野山登山後、本日のメイン行事の植林活動に参加するべく近江八幡市の宮ヶ浜国民休暇村に近い伊崎半島付根の堀切新港バス停へ車を走らせた。

三等三角点、伊崎山

堀切新港バス停にはすでに大勢の小中学生が集まっており、地元新聞社も取材に来ていた。植林活動責任者によるきょうの作業内容の説明後、植林地へ登って行く。登山口からすぐ旧道との分岐があり、左側の丸太階段の遊歩道に取り付く。この道のほうが明るい。展望を楽しみながら半島の南山腹の植生復旧作業中の川鶴被害林に達した。

植林地には我々ボランティアにより先日、力仕事の伐採と苗木の整地済みで、山桜を始め花木の苗木を配って参加した小中学生に作業方法を説明して植林を開始した。本日の主役は小中学生なので植林が一段落した休憩時間に伊崎山の三角点の踏査に行く。植林地

何か物足りないように思われていきさか寂しい。山形氏ほど重症ではないが、私も三角点病ウィルスに罹患しているようである。最近では同病者のお陰でこのウィルスが本誌の例会や個人山行で同行者に伝染しつつあり、三角点に興味を持たれる人もやや増えつつある。

琵琶湖の二大川鶴被害林の一つであり、過去に私が例会を実施した伊崎半島の最高部伊崎山にも三等三角点が設置されている。

今年の春、遊歩道設置の折に、私はボランティア仲間に三角点のことを説明して訪問者が容易に立ち寄れるようにと主張し、三角点周辺のやぶを刈り開いてもらった。その際、ボランティア仲間に私の三角点ウィルスが感染したのか大変に興味を持たれた人が多く、次回の植林活動日は近隣市町村の小中学生による植林補助活動で短時間なのでその日の活動前後を利用し、伊崎半島を中心に選定した一・二・三・四等三角点全てを廻る日帰りサイクル登山を

有志で実施することにした。

選定した一等三角点は竜王町の雪野山(308.8m)、点名竜王山)でボランティア前、二等三角点は琵琶湖に浮かぶ沖島にある蓬萊山尾山(220.2m)、点名沖島村)でボランティア後、三等三角点は活動している伊崎山(210.4m)、点名伊崎)でボランティアの休憩中、そして四等三角点は半島登山口の反対側にある山名不詳(177.3m)、点名切通)で沖島から帰って最後に踏査する運びとなった。

一等三角点、雪野山

早朝JR野洲駅で集合し、マイカー三台に分乗して雪野山の南麓の竜王町川守へ。ここまで適当なバス便は無い。川守集落の東にある駐車場の脇から幅の広い登山遊歩道を山頂とは逆の西方向にゆるやかに登って行く。左にベンチそしてすぐ古墳が出てくるが、これからのボランティアの作業時間を考えて詳しく見るのは断念し、先を急ぐ。コンクリート製の長木階段が始まって

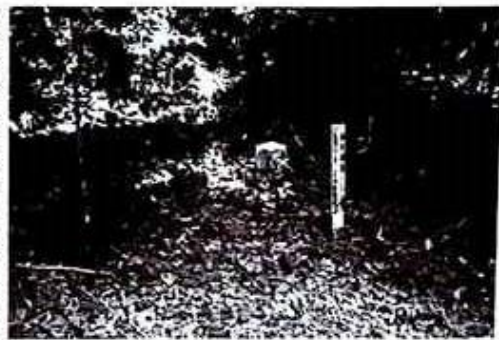
中腹と思われる所に立派な東屋が出てきた。休憩をとっていると、下山してきた老夫婦と出会い挨拶すると毎日登山とのことであった。

なおも続く階段を登って行くと三差路となり、どちらをとっても登れるが、広い遊歩道は右(東)に山腹を捲いてゆるやかに登ってゆく。ここで直進道をとったが送電線巡視路となっていて、急登ながら稜線には短時間で登れた。

稜線にのり、右に行くと送電柱が立ち、先ほど分かれた遊歩道と八日市側からの登路との十字路となっている(頂上迄350mの道標あり)。さらに稜線を東に登って行き、ゆるくくだって登り返すと樹林に囲まれた小高い台地が雪野山頂上であった。

広場中央に一等三角点、そして広場の南に旧三角点があるが周囲は樹林のため展望は良くない。参加者に一等三角点と旧三角点について説明したら、三角点の歴史にも関心が及んだようであった。

下山は遊歩道をとったが往復1時間



伊崎山二等三角点

の最上部には登山口から分かれた旧道がきていて、これをたどって行くと分岐が出てくるが最高部を目指し、いったんゆるくくだってから登り返し、半島最高部の峠状の所から右に入る。
先日のやぶ刈りと樹木に付けた赤テープで難なく頂上の三等三角点に達した。環境保全のため周囲の樹林はそのままでは皆無である。

を少し入った脇に置かれている。
初回と二回目の登頂の際、一般に山頂の三角点は最高部に置かれることが多く、当時最高部付近のやぶの中ばかりかき分けて探していたので見つけれなかった。

なお、山名の尾山とは、この頂上から北に向かう微かな踏跡をたどり、少しくだつてゆるく登り返した大岩のあるあたりをいうらしい。そこから踏跡は島の北の岬に向かって消えている。
頂上から島の東側に下りる遊歩道をとると、狭い畑と小学校の水泳場に下り立った。帰途の定期船の時刻まで時間がなかったので、下り立った所から港とは反対側の島の北端に向かって行き、島民が湖の安全を祈る弁天堂に立ち寄ってすぐ引き返し、14時発に間に合った。

四等三角点、点名切通

最後に残った四等三角点は、近江八幡国民休暇村の背後の奥島山地が北にのびて伊崎半島に至るが、その半島と

なお、この時から半島突端に向かっ
て行くところも川藪被書林ですでに植
林が完了し、苗木活着まで侵入禁止と
なっている。将来、この半島で最も優
れた展望地として開放される予定であ
る。

三角点踏査後直ちに植林地に引き返
し、作業に参加する。正午前に本日の
活動は終了し、全員写真撮影後は展望
の良い植林地で昼食となったが、我々
は昼食もそこそこに登山口の堀切新港
に戻り、12時15分発の定期船で沖島に
向かった。

二等三角点、沖島蓬莱山尾山

ボランテイア仲間の中で、半島から
定期船で10分の沖島を訪れた人は少な
く、初めて訪問する人が多かった。私
は沖島にはすでに5回来ている。最初
の二回は、山頂付近の敵やぶのため、
頂上の三角点にタッチできなかったが、
最近沖島小学校の学童登山のための遊
歩道が開かれて登りやすくなっている。
港から山に突き当たって山頂とは逆

の間の二つの鞍部のうち、南の鞍部の
切通しの背後の低山にある。きょうの
山行で最も難渋したやぶ山であった。
山名は地元の古老に聞いたが不明で
あった。かつては奥島山地の東北に広
がる「大中の湖」の干拓のための排水
施設が置かれていたらしい。

堀切新港に戻り、国民休暇村に向
かって少し戻り橋を渡った切通しの三
差路に出て、山側の反射板の脇からや
ぶを分けるとすぐに旧道が出てきた。
かなり急であるが明瞭な幅広の歩道で、
最近では歩かれることがないのか道は荒
れ、倒木を跨いだりくぐりながらの登
高となった。やがて山側に石垣が出て
きてそれに沿って行き、左に折れると
コンクリート造の廃屋が出てきた。こ
れが干拓用の排水施設であろう。道は
山腹の東を笠鉾山に向かって細々と捲
いてゆくが、この道は以前私がリ
ダーの新ハイ例会で笠鉾山からの下山
に使ったものである。

この道を左に見送り、稜線上部に向
かってやぶに突進する。踏跡らしき

の南の岬に少し行き、民家裏の墓地へ
の道(道標あり)に入る。墓地を抜け
てうっそうとした樹林のなかを登って
行くと分岐が出てくる。どちらをとっ
てもよく、右は少し長いがゆるやかな
道であり、やがて先に分かれた道と合
流して稜線に出る。しばらく尾根を行
くと西側に比良方面を展望する「おお
じろ広場」に着く。

初回の登山ではここまで細々とした
踏跡があったがその先はやぶ漕ぎとな
り、東北方向にとるべきところを北方
向にのびる支尾根に迷い込んで難渋し
たことを思い出す。

今では右の東北方向に遊歩道が開か
れ間違ふことはない。主稜線東側すぐ
下を捲いて行き、樹林のなかをゆるや
かに登って行くと頂上広場に飛び出し
た。

頂上からは東側の樹林が伐採され、
琵琶湖東岸と、暗れていれば鈴鹿山脈
まで遠望がきくようになった。二等三
角点はこの山頂広場の最高部には無く、
広場手前から島の東岸に下りる遊歩道

は無いが、虫害による松の倒木が多
く、そのため明るく見通しがきく。最
高部と思われるシダの繁茂する所を探
すが三角点は見つからず、さらに先の
やや低いコブの同じように繁茂するシ
ダを丹念にかき分けて探すと、シダに
隠れた小さな四等三角点標石があっ
た。さすがここまで来る物好きな登山
者は我々のような三角点病患者しか
なく、無傷できれいな標石であった。最
後に三角点標石の等級別サイズを説明
し、きょうの三角点サイクル登山を終
了した。

なお、本日の二等三角点の沖島への
山行で定期船のダイヤの関係で時間が
うまく取れない場合は、伊崎半島より
琵琶湖岸を南下した日野川の河口、佐
波江にある岡山(187・62)に、点名
岡山を候補としていた。
(平成21年3月21日歩)

△コースタイム△省略

△地形図△

2万5千日野西部・八日市・近江八

幡・沖島

新ハイ関西 109号

標高△△09mの山

- 迷岳 (1309m) 台高山脈
 三国岳 (1209m) 奥美濃
 泉山 (1209m) 中国山地
 黒尾山 (509m) 京都北山

迷岳

20年程以前に登った山なので、今の登山道の状況は大幅に変わっているかもしれないが、その時下山に使った道が強烈に印象に残った山である。それは山スケという自然の猛威を目の当たりにしたことだ。

山頂から谷道を下山コースに選び、谷を目指してジグザグに下りて行って、唐谷川沿いのゆるやかな道になってひと安心した所で、突然植林帯が切れて幅50m程の山スケが眼前に現れた。幸

い、リーダーの大山さんにサポートしてもらい、トラバースすることはできたが、初めての山で谷沿い道を下山に選ぶというのは要注意だということをお願い知らされた。

登りは飯盛山経由の尾根道だった。登山者に全く出会わない静かな山だった。(平成2年11月25日歩く)

△コースタイム

塩ヶ瀬(3時間20分)飯盛山経由尾根道(2時間50分)唐谷川出合経由塩ヶ瀬

△地形図V2万5千(七日市)

間50分日野川林道終点

△地形図V2万5千(広野・美濃川)

泉山

岡山県津山市の北西方向にある泉山は、山頂付近のササ原の尾根道の感じが、比良の武奈ヶ岳西南尾根に似ている爽やかな印象の山だった。

山の会の4人で山頂より西南方向にある泉宮神社前の駐車場から登った。コース案内板に書いてあったAコース(1035m)の西尾根を登り、のぞき岩から西側の断崖を見下ろして落葉した広葉樹海の美しさに見とれ、山頂の雄大な展望を楽しんだ。

下山は南峰の1198m峰の西尾根Bコースをくだった。急な道だったが、周回して車止に戻ることができた。

(平成15年11月8日歩く)

△コースタイム

泉宮神社前駐車場(3時間)泉山(2時間)泉宮神社前駐車場

△地形図V2万5千(奥津)

三国岳

越前・近江・美濃境の三国岳で、有名な夜叉ヶ池の南にある山だ。夜叉ヶ池へは岐阜と福井県境からの道があるが、今回は福井側の日野川林道の終点から、会の6人のメンバーで登った。

林道終点でテント泊し、朝6時に出発。夜叉ヶ池のすぐ南の1206mピークから三国岳まではやぶ漕ぎを覚悟していたのだが、すっかり道が出来ていてスムーズに歩くことができた。

よく晴れた日、三国ヶ岳やその近辺の最高峰の高丸(黒壁)に蕎麦粒山など、いわゆる奥美濃の山の西半分が、重畳たる山並で背く重なっていた。足元から広がるササ海は、目を浴びて克明に光っていた。

1時間余りの昼食を含めて、ちょうど8時間で往復できた。

(平成15年9月28日歩く)

△コースタイム

日野川林道終点(4時間)三国岳(2時

黒尾山

昭文社「京都北山」の地図を広げて、車の無い私でも行けそうな未登の山はないかと探したところ、周山の西にある黒尾山に目が留まった。

バス終点の周山から北へ左の山の形を見ながら歩く。その山並がへこんでいる所へ通じているように思えた所で西へ曲った。谷に入る最後の民家の前で城山跡の道標を見つけ、草が茂り始めている植林の道を登った。

城山跡地は広々とした空間を広葉樹が取り囲んでいた。そこからは踏跡が無い感じとなったが、テープが枝にあり、それを見つけたが尾根筋をたどった。林道に出て林道をしばらく進んだあと、左手の山道をとればすぐに山頂だった。(平成21年5月14日歩く)

△コースタイム

周山(2時間30分)黒尾山(1時間50分)周山

△地形図V昭文社「京都北山」



登山道より三国岳を望む



随想

山のエッセイ

大いなる知床

(シリエトク)

中澤 美香子

7月29日、知床は朝から濃い霧に包まれていた。「知床」は世界遺産。しかし、この言葉だけではこの地の魅力は伝え切れない。

この日、私は羅臼岳登山を諦め、知床観光に切りかえた。早朝ともいえない9時だが気温は20度以下だっただろう。半袖一枚では寒い。知床半島の観光拠点「知床自然センター」に向かう。そこには乙女の涙と呼ばれるフレベの滝への

遊歩道(一周約40分)がある。

その遊歩道を歩き出して10分程でミスナラなどの林を抜け、チシマザサが広がる平原にさしかかったあたりで、黒い大きな物体が動いているのを見た。

「クマだ!」夫が騒ぎだし、たまたま近くで客を案内していた知床のネイチャーガイドに知らせると、「ヒグマ対策本部に連絡します」と言い、朝の散策はストップさせられた。ヒグマはササの中に巣をつくるアリが大好物らし

い。ガイドは「近年、観光客を怖がらなくなったヒグマが増えている」と言う。

早速、アンテナを持ったヒグマ対策本部の青年が駆けつけ、耳に発信機を取り付けられたヒグマの動向を注意深く見守る。続いて駆けつけたベテラン部員が空気を二、三発威嚇発射してヒグマを遠去けてくれた。

私は無事フレベの滝とその断崖絶壁に集う、ウミウ・オオセグロカモメ・ケイマフリを観察することができた。

しかし帰路、また先ほどのヒグマ(オス2歳)と遭遇。その時、我々とヒグマとの距離は100メートル、目が合ってしまった。結局その日一日で、知床

五湖からカムイワッカの滝間までのシャトルバス車中からも含め、計五回もヒグマを見た。そう、知床とは日常的にヒグマが道路脇のササ原に出没する地なのだ。

驚いたのはそれだけでない。オホーツク海に面したこの日本最北端のこの地では、トドマツなど常緑針葉樹林がダケカンバの林に混じって海拔0メートル付近から始まり、1200メートルを超えた地点ではハイマツ帯が広がってくる。本州では北アルプスなど2000メートルを超えないと植生しないハイマツだ。そのため容易に人を寄せ付けない北方針葉樹林帯となっている。

随想 山のエッセイ

ヒグマと遭遇した翌日、標高1661メートルの羅臼岳に登ったが、見たものは神々の憩う場所だった。樹林帯の登山道を標高1345メートルの羅臼平への雪渓を登りつめると、世界は一転した。雪渓の入口ではエゾシマリスが三匹続いて現れ、道案内するように走り抜け、エゾコザクラの可憐な花が迎えにくれた。

羅臼平からの急な岩場では、エゾノツガザクラとチングルマが紅白で咲き競い、ハイマツの枝先でノゴマが赤いのを競わせて高らかにさえずっている。岩から湧き出る岩清水では、キンザンマシコが羽をばたつかせて水浴びをしている。

これほど人間と自然との境界線があいまいな場所を私は見たことがない。北アルプスの雷鳥もどこか登山者無視のよそよそしきで近寄り難い。

知床では、まるで私達が人間という仮面を忘れ、単なる一生物として彼らに迎え入れられているような気がするのにはなぜだろうか?

羅臼岳登頂後、羅臼平で簡単な昼食をとった。ガスの暗れ間にポカンと仰ぎ見た青天に浮かぶ羅臼の勇姿、三峰・サシルイ・オチカバケ・硫黄と、流れるように山が連なる。何度かその風景が目に見え、

今こそ知床から学ぶべきではないだろうか? 知床

の特徴はヒグマ・シマフクロウ・オオワシなど今でも大型野生生物が暮らしてゆける生態系が残っていることだ。海にはサケがいて森にはエゾシカがいる。そして狭い平地にサケ漁などで生計を立てている人間がいる。

日本百名山の一つとして登山客も多い。でも忘れてはならない。知床の原始の大自然に入り、その生態系の一部として人間がいるということ。

私は登ったのでなく登らせてもらったのだ。

浅間信仰の山を歩く 4

ほうざうら あ そうら にえうら せんげん
方座浦・阿曾浦・贄浦の浅間山

南 勢

藪 木 伸 人

美しく広がる熊野灘に面した南伊勢町、山と海の織りなす景観が変化に富んでいる。

ここには古式ゆかしい浅間神事を伝承している地域が幾つもあった。心ひかれる。相賀浦・贄浦・方座浦・中津浜浦・切原などである。2月初旬、その一つである方座浦の浅間山を探訪した。国道42号を南下。前日開通した紀勢道大内山インター横を過ぎて錦望トンネルを抜け、松阪から1時間20分で方座浦に着いた。

道行く人に浅間山のことを尋ねたが、釣客だったようではっきりと聞けなかった。



方座浦浅間社への岩尾根



港の先に芳草神社の石標と鳥居があったので、車を停めてとりあえず上ってみる。間もなく社殿に着き、裏手の尾根を行くと、またすぐに車道に出た。目指す山がどこかわからないので舗装路を、とにかく上へと進む。養殖筏の浮かぶ内湾に陽光が映え、東方遠くに局ヶ頂が頭を覗かせていた(ちなみに芳草が「ハウサ」「ホウザ」と転じて「方座」の字を宛てたことが、文献に記されている)。

10分程の車道歩きで最高所(峠)に着く。左上に未舗装の広い道が続いており、これを登ってみる。途中で頭上を電線が横切っているので、竹を立てて登るには変だと思ったら、やはり浅間社は無く、終着点は電話会社の中継施設だった(Ca 250M)。

二つのピーク共に展望も無く早々にくだったが、道脇の小高い所に上ると、高山の秀麗な姿や鷗倉半島・見江島(木米は贄島)を臨むことができた。舗装車道の時から方座浦に向かって下りながら、右手尾根上のどこかに浅間山があるのではと思ひ、取り付く場所を探すが見つからず、結局始めに車道に出た地点からさらにくだった所に、浅間山への登り口があった。

露岩に段が付いている。4分も登ると、頂上まで岩尾根の続くさまが見てとれた。路傍には幣を付けた小竹が二本。神事の際に使ったものだろう。登

方座浦浅間山登路からの展望



るにつれ、出入の多い海岸線の展望が広がる。それにしても祭礼の折に、竹を立てたままこの岩を上がるのはたいそう難儀ではなからうかと想像した(一昨年に参加した旧友は半裸で登ったそうだが)。鳥居をくぐり、浅間社に到着。立ててある竹はかなり丈高い。社の裏から尾根伝いに登れば、先に登った携帯局のあるピークに達すると思われた。

下山後、港から浅間山を仰ぎ見ると、登った経路がよくわかった。

方座浦の浅間祭は6月最終の土・日に行われる。調べてみると、2000年余続いているらしい。疫病退散を祈念して始まったとある。

また、双子の姫の器量がよくない妹を慰めるため、男衆がわざと美しい化粧を施して諷刺したとの由来も伝わっている(古和浦の山の神事神の由来に相通じるところがある)。この化粧の風習が今も残っているのは興味深い。(平成21年2月8日歩く)

▲コースタイム▼

山頂の周りを巡ったが草木に覆われて展望はなかった。南に少しくだった所から熊野灘に洗われる砂浜が見えていた。

元の道まで戻り、左に廻り込んで東側の道をくだる。尾根から右に逸れて行くと、南勢テクテク会による朱色の指道標が立つ分岐に出た。右は浜へ下りる道、直進すると塩ヶ浜・丸山・大方座に至り、左が南部小路への道とわかった。

浜辺にも行ってみたかったが、花粉症が酷くなってきたので引き返した。ヤブツバキの散る簡易舗装の小道をおんびりくだつて行くと、右手の内湾に真珠養殖の筏がたくさん浮かべてある。指道標から10分で無事、スタート地点に戻ってきた。

阿曾浦の「アソ」は「浅い所・湿地」が語源と、地元の家内板に記されていた。一方、浅間信仰の元々の読みである「アサマ」は「火山」の古語で、九州の阿蘇も同系列の言葉だという説もあるのだ、あるいは阿曾も関連があ

方座裏墓地前(5分)芳草神社(15分)峠(10分)Ca2500ピーク(20分)浅間山登り口(15分)方座浦浅間山(20分)方座浦

▲地形図V2万5千■古和浦・方座浦

さて、同月末、今度は野見坂経由で阿曾浦浅間山に赴いた。こちらも松阪から1時間20分程で駐車地の南部小學校跡地に着いた。地元のおじさん達に挨拶して登らせてもらうむねを告げる。車道脇のコンクリート階段から登り始めると、5分足らずで浅間社に至った。竹が奉納されていて、祭礼の伝統が受け継がれていることを知る。祭りはやはり6月らしいが、詳細はよくわからなかった。

祠を後にして尾根道をたどると賢浦見江島、阿曾浦の眺めがすばらしかった。山腹の右(西)を掲ぐ道はウバメガシの林に入り、饗の香が漂ってくる。尾根を左に越えるあたりで山頂への路跡を追う。炭焼き跡とおぼしき平坦地を焼つも見ながら最高所に登り着いた。

のかもしれない。浅間信仰の主祭神木花咲耶媛が燃えさかる産室で出産したにもかかわらず母子ともに無事だったのは、媛に水の徳が備わっていたからとされ、この神を火の山に祀れば荒ぶる火の神を鎮められると考えられたらしい。浅間社の里宮が水辺に多いのは、水により火を鎮めんとする五行相剋の思想によるのだそうである(伊勢の宮川堤にも浅間社があるが、これは水害除けを祈願したものであろうか)。

なお、内湾越しに東に仰ぐ三角点峰(点名・阿曾)に登れるかどうかを地元の人に尋ねたら、道はあるが誰も登らないとの話だった。阿曾浦を後にして大橋を渡った道端で、天を突くようにのびていたダンチクが印象的であった。(平成21年2月28日歩く)

▲コースタイム▼

南部小路地(10分)浅間社(20分)阿曾浦浅間山山頂(15分)指道標分岐(10分)南部小路地

▲地形図V2万5千■賢浦

イモック山行くらぶ
春夏秋冬、季節を気にせず、登山・登山・名山を歩きます。お気軽に御参加下さい。

詳細はお問合せ下さい

イモック
IMOCK.
KORE
TEL 078-821-8851
FAX 078-821-3528

人気商品紹介
◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット。両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのDAYザックです。

☆26L☆
カラー フル×ネイビー・レッド×ネイビー
 フイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー

■重量 2.5kg
■素材 ナイロン・リップ
■価格 ¥4,800

4月半ばには賢浦浅間山を訪ねた。この山自体は標高633mで、おく登れそうだったので、その前に高山(497m)と、その尾根続きにある四等三角点「石測」(339.89m)に行ってみることにした。

徳柄浦の郵便局西で山側に折れ、学校跡地に駐車。新国道への鉄階段を上り、林工中のトンネル工事現場横から、重機で山肌につけられたジグザグ道をたどる。10分程で元々の尾根道に合流した。滑道を過ぎて尾根西側を行くと、アンテナの立つ所から賢浦・奈屋浦の海が見えた。標高235mの所に「ハクラクさん」と呼ばれる社がある。手を合わせた後、尾根右側の登路を進む。シーボルトミズヤルリセンチコガネを見つけ、生命に満ちた春を感じる。掘き道は明瞭だったがウバメガシの落ち葉で滑りやすい所があった(下りでは、重心を低くして滑って通った)。やがて尾根鞍部に到着。しばらくは気持ちのよい尾根歩きで、たくさん出していたカエデの新芽を踏まないように



詞の浅間川淵

登る。あと「0.3 km」の札を過ぎてからの登りがけつこうきつかった。滑る落ち葉の上が厄介だ。渡された虎ロープや立木、岩角をつかみ体を持ち上げる。前に方座浦の山から見た高山のシルエットを思い浮かべ、今まさにその山頂近くを登っているのだな、とひとり感慨にふける。

高山山頂からは南側の眺めが良く、南島大橋から阿曾浦・楳柄浦・費浦が美しかった(阿曾浦と費浦の浅間山も確認できた)。60度方向にも山並が見えた。駱駝山とも呼ばれる道方山(若山)から東にのびる稜線だろう。

楳柄浦、尾根鞍部から南下(直進)すると、349標高点を越えた先の伐り開きに真新しい四等三角点標石があっ

た。山頂ほどではなかったが海側の展望が広がり、北西には国見鉾山が見えていた。鞍部に戻り往路を下山した。

学校跡地から車で10分余、費浦の海岸堤防海側に駐車。高山からも見えていた鳥居を潜って浅間社への石段と坂を上る。途中で先刻歩いてきたばかりの高山が大きく見えた。正午を知らせる「エーデルワイス」の音楽が流れてくる。山頂には石積に守られた浅間社が鎮座している。前面に富士山を模した装飾が施されていてユニークだ。阿曾浦方向を望む一角に小部屋のような建物が。参籠所だろうか。

費浦の浅間祭も、6月最終週に行われている。奉納するお神酒をかついだ「樽持ち」が先導し、幣を付けた五本の竹の周りで「ノウマクサンマング……」と折袴を捧げつつ平太鼓を打つ舞手達が行われる。ここまでは、私が車を置いた海辺で行われる。その後浅間山に登って竹を奉納するのだが、五本の中心を高くして山型に立てるのが習わしだという。祠の前で「懺悔懺悔六根

清浄」と唱えて祭りが終わる。特徴的な装いは、頭に赤い風折烏帽子を被っていることだ。浅間信仰が、漁業神である恵比寿信仰と習合しているものと思われる。

文献によれば費浦浅間社の祭神は宇迦御魂で、明治41年に八柱神社内の稲荷社を浅間山に移祀したとある。恵比寿神も宇迦御魂神(稲荷神)も、食を司る産業神である点共通している。なお西隣の奈屋浦では1月15日に恵比寿祭が催される。(平成21年4月19日歩く)

▲コースタイム▼

学校跡地(10分)尾根道(20分)ハクラクさん(20分)尾根鞍部(25分)高山山頂(15分)尾根鞍部(三角点往復12分)(36分)学校跡地(車10分)費浦海岸(10分)費浦浅間山

▲地形図V2万5千:費浦(参考文献:ホームページ)

「三重の文化伝承」(伊勢民俗学会、78年)

「南島町史」(85年)

「三重県の祭り・行事」(県教委編、97年)HP「伊勢志摩きらり千選」

紀行

南谷口谷南方尾根を玉津島神社へ下山

コトガ谷道登高で蛇谷ヶ峰

じゃたに みね

比良

小山 誠次

今回の山行は、本誌103号「コトガ谷左岸尾根登高」で、「本日のような雨の日にわざわざ谷沿いの道を選ぶこともなからうと考えて尾根上を選ぶことにした。また、これで来年の宿題ができたことになると報告したことが契機である。

そこで、本日はその宿題を果たすため、コトガ谷に沿う道を登高して北稜に到る。

蛇谷ヶ峰(△901.7m)まで足をのばした後、北稜のP752付近に引き返し、ここより下山を開始して南谷口谷南方尾根をたどり、直接玉津島神社にまで達する予定である。

(写真1) コトガ谷右岸に渡る地点



平成20年12月13日の前日の天気予報では、滋賀県北部は南東の風、日中は北西の風で晴れ、夕方から曇りとのことである。降水確率は前日の午後6時から6時間毎に、20/10/10/10/20%で、彦根の最高/最低気温は13/4℃の予報である。しかし、当日朝は滋賀県全域で日中の降水確率は0%と



コトガ谷付近図

(写真3) 溝状のコトガ谷道



ている(写真2)。
10時48分、標高550mで、辛うじて谷通しの余地があるのを確認しながらの飲水休憩とする。もし、この後全く行き詰まれば、本誌1003号でたどった左岸尾根にルートを変えることも可能だと出発した。
すると、3分後には水音が小さくなり、そして消えてしまった。コトガ谷の源頭部にやって来たのだ。谷自体は小なりとはいえ、やはり一般の例に漏れず手掛かりのない急斜面を目前にして、直登はなかなか困難だ。周囲を探して何とか登路を確保した。今の時期は単に急斜面というだけでなく、重層の落ち葉が滑りやすく、慎重にならざるを得ない。
11時8分、何と本来のコトガ谷道の延長と思われる溝状のいい道に出合った(写真3)。標高620mである。谷通しの道を歩いていて、いつそのこと早く左右の尾根上まで登ってしまおうかという思いを辛抱してきた甲斐があった。しかし、今の時期は落ち葉で滑り、登りの一歩が半歩になってしまふ。アイゼンや輪カンのようなものが欲しいと考えていると、11時33分、北後の標高720m地点に到着した。向かいには三ノ谷が滑らかに湾曲して左右に続いている。4分間の休憩とした。実は最後の落ち葉道歩行でいささか脚に疲労を覚えたので、ゆっくりと蛇谷ヶ峰に向かい北稜上をたどることにした。
途中で、本誌1003号で報告したコ

改善している。

京都駅に急いでくれる妻の運転する車からは、東福寺の紅葉も終了を告げているのがわかる。8時15分発敦賀行き新快速は本日は湖西レジャー号ではないようだ。巻雲のたなびく快晴のもと、比良山系が朝日にくっきりと照らしだされている。途中の比叡山坂本駅あたりでは、湖西道路の拡幅工事の最中だった。

8時55分、近江高島駅に到着し、高島市コミュニティバス乗車場に直行した。しばらく待つとバスが来たが、何と客は筆者ひとりというありさまである。10月19日に京都北山グループの例会時は、満員のためにガリバー旅行村直行便と定期便との二台に分かれて出発したのが、全く嘘のようだ。

9時4分に発車したバスは、同18分に富坂口に到着した。待合小屋で出発準備を整えた後、目前の蛇谷ヶ峰以南の山塊を見据えながら富坂の集落内を進む。本日はまさに小春日和である。玉津島神社に拝礼し、下山時にこま

で来て、どこから橋を乗り越えたらいいのかと思索しながら、願証寺のトイレを借りて用を足す。

出発2分後には橋ゲートを開いて林道をたどるが、路面はまだ濡れていて、日陰になるとひんやりとしている。

10時3分、すっかり馴染みになった滝谷川の堰堤にやって来た。ここからは本誌1003号で報告したルートをとるが、堰堤左岸の扉は壊れたままである。コトガ谷左岸の道は前回より倒木が散乱しているが、道そのものは健在である。

同14分、コトガ谷を渡る地点に到達した(写真1)。本誌1003号では、ここから右手10分程の高さの尾根に取り付いたが、本日はこのままコトガ谷を渡り、右岸に沿う山道を進むこととする。しばらくは普通道が続くが、やがて崩壊箇所に入った。

実はこの道について全く予備知識はなく、このままずっと谷通しに続くのか、あるいは途中から左右両岸いずれかの山腹を登って行くのが不明だった。

(写真2) 右岸谷通しに続く道



た。そこで、とりあえず右岸山腹を少し登って先の見通しを調べたところ、さらに上流に谷沿いの長くて平坦な地形を見いだした。

これは道があるはずだと確信して、何とかそこまでたどり着けるよう悪路を行なった。一般に谷が廊下状になっていけば、それ以後は一時的にか永続的にか、谷を離れるルートがあるのが常である。しかし、このルートでは、途中からずっと左岸の谷通しの道が続い



(写真4) 下山開始地点

トガ谷左岸尾根をたどつての北稜到達地点を通過し、最後の登りをこなし、12時1分に蛇谷ヶ峰に到達した。すでに10人程の先客グループが昼食中である。

本日は旧朽木村中心部を眼下に見下ろす地点で昼食にした。元気を回復しないことには、予定の下山ルートをとる気力が湧いてこない。山頂は無風だが、やはり何となく冷気が肌を刺激する。気温は13℃である。昼食中は一

枚重ね着をした。こういう時の熱いカップラーメンとホットコーヒーは美味である。

遠方の山々も見通しが良い。さすがにまだ冠雪していない。また、山頂より富坂口バス停を望む写真も撮った。計算上、直線距離で3.9kmである。

13時ちょうど、元気を取り戻したので往路をたどり、同16分にP752地点すぐ手前の溝状の道に戻ってきた。ここから下山する。下山ルートすぐはとくに場所的な特徴もなく、遠くに富坂集落を指して急斜面をたどるのみだ(写真4)。

下山開始地点より富坂口バス停は117度である。基本的にはこの方向でいいのだが、少しでも下山しやすいルートを並び、何回か尻餅をつきながら、さしあたっては木々をつかんで落ち葉で転倒しないように注意する。したがって、くだる方向が予定より外れるのはやむを得なかった。

当初の机上計画では、先ず普通に下山して行って、もし出合おうとすれば南

注意していた。

117度を頼りに緩斜面の尾根をたどっていると、広い平坦な場所にやっけて来た。地形図上で等高線の幅が広くなっていて箇所である。そこを過ぎると間もなくして、木々の切れ間より左手前方はるか遠くに伊吹山が視界に入ってきた。石灰岩の採石場の白い地肌も辛うじてわかるくらいである。

すると、右手すぐ下方に民家の屋根も見えるようになってきた。14時28分、ここまで下りて来て、ようやく溝状の小道が出てきた。標高260mである。また、その1分後には明らかな幅3m程の道とも出合う。筆者の進む方向と一致するので、その道をたどることにしたが、間もなくちよつとした広場になって行き止まってしまう。

さらにそのまま突き進むと、ついに玉津島神社を眼下に見下ろす崖の上にとり着いた。さて、ここからどうやって下りようか。おそらく途中から左手下方の蛇谷に下りたほうがまつとうな道をたどれたのであろうが……。

谷口谷であり、その際は絶対に谷を越えて北方に向かってはいけぬ。また、南谷口谷の水音を聞けば、何はともあれ、足を南方に向けるべきであると心がけていた。

案の定、たどりやすい方向に進んでいると、南谷口谷の溪声に耳にするようになった。そこで、思い切つて山腹をトラバースして南方の尾根に向かうべく斜め下方のルートを選んだ。すると、ラッキーなことに、獣道がその方向にずつと続いていて、時どき鹿の糞が落ちていた。

このルートこそ全く踏跡も無いので、ここで獣道に出合おうとは、野生の鹿の行動が筆者の思考と一致したのであろうか。これを大切にしたい。確かに、野生動物でもたどりやすいルートを選んでいくはずだということが、実感としてよくわかった。そして、14時ちょうど、予定している尾根上に無事到達した。標高500mである。ここまで来ればもう安心だ。休憩をとりながらのスポーツ飲料の美味なること

今朝方、神社裏手の崖を見上げて思

案していた通りに、山腹途中の金網を乗り越えて田圃の縁から車道に下り立った。やれやれとの思いで乗り越えた金網を写真に撮る(写真5)。改めて神社で拝礼して、帰途を歩いていると柿が道端に実っている。試しに一個握きとって齧りつくると、何と皮は硬いが中味は熟柿で美味である。皮と種は吐き捨てたが、中味は申し分ない。合計三個食べた。見れば、猿も手を付けていないようである。振り向くと、本日の下山路が真正面に見え、おもしろかったルートを思い出させてくれた。

15時3分、富坂口バス停に到着した。16時14分発のバスまでまだ時間がたっぷりあるので着替えたり、まだ熱い湯でホットコーヒーを淹れたり、クーリング・ダウンの運動をしたりした。改めて山行を思い出して記録をとっているとバスがやってきた。何と、朝方と同じ運転手さんで、しかも客はまた筆者ひとり。16時30分に近江高島駅に到着し、16時36分発京都市行き普通電車に



(写真5) 乗り越えた金網

さて、ここから改めて基本方向117度を設定して富坂に向かうべく、南谷口谷南方尾根をくだるが、実は先ほどの獣の足跡も同じ方向に続いている。お世話になりついでに、こどもも獣道をたどることとした。とは言っても、ここからは絶えずコンバスで117度から大きく外れないように

四手井綱英が語る これからの日本の森林づくり

四手井綱英著

四六判／一八四頁／一七〇〇円

○森林生態学の創始者 四手井綱英が言い遺す！
森林生態学の先駆者である著者が、これからの日本のありべき「もり」や「はやし」をどうつくっていくのが、貴重な提言を言い遺す。

秘境ヒンドウ・クシユの山と人

雁部貞夫著 — バキスタン北西辺境を探る

菊判／四二二頁／七一四〇円(普及本)

著者の四十数年にわたるヒンドウ・クシユ体験の結晶！
日本人として初めてバキスタンからヒンドウ・クシユの高緯度の奇蹟を試みた著者が、水、氷、雪の山、山々を降り歩いた貴重な体験を語り明かす。写真・図版多数掲載。

★表紙の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 〒606-8161

乗った。京都駅17時30分着の頃は、すでにもう夕闇のなかであった。

は山の中腹のことである。

摘作

愛日橙黄橘緑時

一蹊傍谷廢荒遺

山腰落葉堆備歩

峰嶺四望向是疲

(意)

最後に、本日の山行詩情を七言絶句に託す。愛日は冬の日のこと、橙黄橘緑時とは文字通りの意味で、初冬の小春日和の時節をいい、山腰は一般に

冬の初めの小春日和の時節に山行を実施した。一つの小径がコトガ谷に傍っていて、全く荒れ果てたまま遺っている。山の中腹の落ち葉は堆くして足を捉われ、歩くのに憊いほどだ。しかし、蛇谷ヶ峰の山頂から四方を望めば、どうして疲れなど感じようか。

(平成20年12月13日歩く)

紀行

旗振り通信の新研究⑩

旗振り通信の起源と資料

柴田昭彦

【旗振り通信の起源に関する文献】

平成20年11月の情報通信文明史研究会での発表に向けて、旗振り通信の起源について、原典資料を調査する必要が生じた。9月に行った調査結果をまとめて報告しておく。

○通常、相場通信の起源とされているのは、拳手信号によって相場を伝えたという角屋与三次の話である。三田村篤魚「大阪町人の相場通信」(「太閤」昭和二年十月号)と南方熊楠「旗振通信の初まり」(昭和4年、全集第四巻、昭和

47年に紹介記事がある。

角屋与三次の話は、錦文流(熊谷女編笠)(宝永3年、1706年刊)に載っている。校訂 珍本全集 上(帝國文庫第31編、博文館、明治28年)に収録されている。該当記事の抜粋は次の通りである(熊谷女編笠巻之二)。ルビ・句説点は、全集収録のままでなく、適宜、変更し、添植は訂正した。

「第二」商は千里を一目に見透した遠目鏡 爰に此の里年久しき町人に角屋の與三左衛門といへるもの有り。」

「一子與三次二十三歳国一番の器用もの。」

「兎角商は千里一蹊飛損ひはありもせまいと、身長のありだけを渡へ出し、六百兩の金子を持たせて郡山へぞ遣はしける。與三次郡山の問屋へ着くや否大坂のやりくり問屋を一人語らひ、毎日の相場飛脚の外に一人の速使を毎へ、大坂の相場立と均しく角をらぬ赤頭巾に同じく赤布の小手をさしたる男飛鳥の如くくらがり峠まで走り着き、目印の松に立ちそひ暫くの息をつぎ、左の手を一度上げるを一分づゝの上りと定め、右の手を一度上ぐるを登分の下りと定め、一分二分の上り下りを知らずことなり。與三次は問屋の二階より、方十里目の下に見る望遠鏡を以て、これを見、上り下り考へ先買をす。其跡へ大坂の通り飛脚相場を知らず。與三次は峠までのうちに先達で相場を知れば、郡山での商ひは目さすが如くこれを知らぬを以て、毎日の相場商に利を得ぬといふこと一日もなかりき。諸商人遠眼鏡の事を夢にも知らず、見

通し與三次と異名を呼びて、與三次が売買の景気を見て、郡山の相場をたつるやうになれり。或日この早飛脚常の如く走りけるに、蜷川の中町丸屋宗玄、大和巡りしての帰るさにへたと通ふたり。日頃北浜の若き衆を伴ひ、宗玄かたへも心易く出入ぬ。宗玄もよいほどの酒機嫌無理に捕へて茶碗では五杯おひこみなれば、飛脚男も息きつて冷酒ひいやりとして心はよし。此十日あまり大坂にありとあらゆる間かず離し、荷持は名におふしてこの吉介、ま一つつせぬかと気おひか、れば、さればといふてまた二三杯、お礼は晩本帰りましてとまた立り出す。道も勇し、暫く間とりたるを合はせずば常より少し遅かりなんと、蟹の歩くが如く諸手を上げて側視も振らず急ぎぬれども、七八杯の清水諸白に足流れて常よりは刻限二刻ばかりの延引。與三次は今や遅しと二階の格子より遠目鏡に目をも離さず、片唾を呑んで詠めるところへ、漸く赤頭巾赤布の小手さしたる男、件の松に寄添ひて立つ。彼の男

七八杯の天目酒に、左を上ぐるとも右を上ぐるとも殆ど打ち忘れたり。右や上げん左や上げんと案し煩へども露思ひ出さずかくても埒の明かざることなり。志やてんはちやつて逃げよと、左の腕を六度上げたなり。扱は六分ぎり相場高しと買ふ程にけるほどに遠目鏡の報知より貳分がた強弓弾ひて、矢庭に三万石買ひたり。その暮の大坂相場昨日より七八分安く、まだ貳分がたも相場より景気弱しとの早飛脚。與三次大きに当てる槌が違つて、打つても儼いでも跡へは戻らぬ損銀。瞬間に廿四貫目。是を掛けねば重ねて相場に手の握り手もなければ、是非なくさらりと損銀渡して、明日の相場にこの無念を晴さんものをよしやま、よのわざくれ酒に、まんを直せといふ程こそあれ。間屋一家に酒を振舞ひ、其の身も過ぎ目なる酒機嫌にて、其の日はやを心掛てぞ待ちたりける。さればにや此の相場商ひ何時となく御領主のお耳に立ち、堅き御停止重てかといふ者もなかりき。」

暗時に立つ赤頭巾の飛脚男の拳手信号を望遠鏡で見て大儲けしていた米商「見通し与三次」も、丸屋宗玄につかまって酒を飲まされた飛脚男の出鱈目信号によって大損をしたという頭末がリアルに描かれていて興味深い。「与三次」の読み方は明示されていないが、池田末則編「奈良の地名由来辞典」には「よそじ」とある。「よそじ」「よさじ」「よさんじ」「よみじ」の読み方もあるが、読売新聞社名譽会長の故小林与三次氏と同じ読み方の「よそじ」が妥当と思われる。錦文流は、江戸時代の浄瑠璃・浮世草子作者で、元禄から享保間に大坂や京都で活躍した。俳諧を西鶴に学んだという。宝永年間には、大坂の豪商淀屋辰五郎の關所事件を取材した浮世草子を執筆している。「熊谷女編笠」は、宝永三年六月七日に京都で起きた太平の世に珍しい女の敵討ちの一件を脚色した浮世草子であり、際物小説とも評されている。討たれたのは宮城伝右衛門で、与三次

の改名であった。熊谷笠とは、武蔵国熊谷地方（埼玉県北部）で作られた、すり鉢を伏せたような形の深編笠であり、虚無僧や人目を忍ぶ者がかぶった。その序文の末尾には「宝永第三の初秋末の五日」とあり、熊楠が記している「七月二十五日」の日付の根拠である。一方、その最終巻である巻之五の末尾には「宝永三年戊戌九月中旬」とあり、壽魚が「宝永三年九月の板行」と記している根拠になっている。巻之一の板行が七月なのか九月なのかの判断は難しい。

○南方熊楠「旗振通信の初まり」(昭和4年)の内容に対する、熊楠自身の書き込みがあつて、「全集第四卷」(昭和47年)に収録されているが、「大門口鉦製」序幕(日本戯曲全集四九巻)に、遠眼鏡と旗振で相場を知らすことがあり、この戯曲は、解題に寛保3年(1743)の戯曲は、解題に見えろという。

「日本戯曲全集 第四十九卷 中古大阪狂言篇」(春陽堂、昭和7年)には、「大門口鉦製(五幕)」が収録さ

れ、その「序幕」に次のような内容が見える(抜粋)。大門口とは、遊郭(特に、江戸新吉原)の入り口の門のところを言う。傾城は遊女であり、禿は遊女に仕える小女、源吉は習問(たいこ持ち、機嫌取り)、五六平は奴である。相場見が二人出てきて、望遠鏡と旗の係になつてゐる。

「造り物、三間の間、平舞台、上手に遠眼鏡二つ探えあり、橋が、り水茶屋、西の方に傾城遠里、歌橋、腰をかけてゐる。習問源吉禿幾重、外に男二人、遠眼鏡を見てゐる者と、幟を振廻し、可笑しき事して、相場を知らず見得、又帳をつける体などあり。仕出し二三人ゐて、これを見てゐる。この見得、よろしくあつて、暮開く。

仕一 コレコレ、若い衆、相場はどうちやどうちや。

男 め五分でえす。

仕二 マア、郭へ行って呑にかけう。来い来い。

ト仕出し、向うへ入る。男、又遠眼鏡を見て

男 サア、今日は五分で仕舞うた。女中遠が見てゐる依つて、目がちろつて、高下を見はづさうとした。作兵衛、帳につけ違ひはないかよ。作兵衛 すんでの事に目五分を、五奴につけうとした。あんな女子を代物にして見物さそなら、草臥れもせまいが、目の正月で気が草臥れた。仕舞ひ相場を知らすまで、一休みせうではあるまいか。(229頁)

「歌橋 イヤモウ、叱つて下さんすな。源吉さんの薦めさんしたのでもなく、幾重がそ、なかつたのでもござんせぬ。遠里さんもわしも、相場を知らすと云ふ事は、どの様な事ちや見たいものちやと思つて、今は幸ひお客さん方も遅し、迎ひがてら知らせを見に来たのちやわいなア。源吉さんに料はない程に、必ず叱つて下さんすなえ。

遠里 ソレソレ、歌橋さんの云はんす通り、門番に断り云うて、連れ立つて来たのちや。それはそれは相場を知らすのは、面白いものでな、飛

んだり跳ねたり走つたり、こちらでは帳をつける、あちらでは帳の様なものを振廻す、ほんによい見物でござんした。まそつと早けりや、お前にも見せうもの、仕舞うて残り多い事であるぞ。(230頁)

「五六 なんぢや、ら女郎どもが、騒ぐワ騒ぐワ。エ、こいつ等も相場商ひがなし居る者であらう。」(231-2頁)

解題には「寛保三年十二月十五日初日、大坂大西芝居の二の替り狂言に、既にこの名題が見えてゐる。沢村宗十郎の油売り庄九郎の役は、有名なものである。爰に収録した脚本は、恐らくそれよりも後に訂正したものであらう年月がしかと解らない。俳優の役割は左の通りになつてゐる。これで見ると、文化から文政へかけての興行であらうが、脚本の内容には、少くとも明和安永の古さはある。」となつていて、相場を知らせる場面が、寛保3年の初演当時にあつたものかどうか問題となる。文化・文政期は1804-29年、

明和・安永期は1764-79年である。

○歌舞伎台帳研究会編「歌舞伎台帳集成 第五卷」(勉誠社、昭和59年)には、京都大学附属図書館所蔵の「傾城千引鐘」が収録されていて、その「大初冊」に相場を知らせる場面があり、次の通りである(抜粋)。相場見、仕出し、傾城の遠里・歌橋、禿の慢重が出てくる。太鼓持の名前は源吾になつてゐる。

「作り物 三間の間 土手 遠目鏡
ニッ置て有 橋掛り 水茶屋 床几有
西の方の床几に遠里 歌橋 傾城にて腰かけける 幾重 源吾 出かけける 外に男式人 遠目鏡を見ている 老人帳を振り廻し おかしき事をして いる 相場を知らず体 老人は帳面を付る体 仕出し式三人出る
仕出し 是是 若い衆 相場はどうじや どうじや
仕出し め五分でえす
仕出し 南無三宝 三分くだけた
仕出し 忝い われらは思ひ入が合ふた

仕出し 郭へ行て飲みかけふ 来い来い
ト仕出し向ふへ入 相場男又遠目鏡を見て
勘九郎 サア 今日五分で仕舞た女郎衆が見に来るによつて 目がちらつて高下を見損なふとした作兵衛 帳に付違ひはないかよ
作兵衛 すでの事に 目五分を五匁と書ふとした あんな女良衆を我が物にして 見物さそうなら くだびれもせまいが 目の正月で気がくたびれた 仕舞相場を知らする迄 一ト休みせうでは有まいか」(三四六頁)

「歌橋 イヤ もふ叱つて下さんすな 源吾様の進めさんしたのでなし 幾重が峻なかつたでもムんせぬ 遠里様もわしも 相場を知らすといふ事は どの様な事じや見たい物じやと思ふて 今日 幸ひ客様方も遅し 迎ひがてら相場知らせを見に来たのじやわいな 源吾様に科はないほどに 構へて

叱つて下さんすな

遠里 ソレソレ、歌橋様の言はんす通り 門の番に断り言ふて わしらが勤めて連立て来たのじや それほそれは 相場を知らするといふ物は面白い物でな 飛んだり跳ねたり走つたり こちらでは帳付る あちらでは帳の様な物振りまわし 本によい見物を仕舞ふて 残り多い事では有ぞ(三四七頁)

「五六平 何じややら女郎共が騒ぐエ、こいつらも相場商ひかなしおるで有ふ」(三五六頁)

この京大本「傾城千引鐘」における内容を日本戯曲全集の「大門口鏡鑿」



「傾城千引鐘 番付」(1744年)
(歌舞伎台帳集成 第五巻より)

と比べると、細部に違いはあつても、ほとんど一致していることがわかる。

○歌舞伎台帳研究会編「歌舞伎台帳集成 第十六巻」(勉誠社、昭和63年)には、阪急学園池田文庫所蔵の「大門口鏡鑿」が収録されているが、相場を知らせる場面は見当たらない。

本狂言については、内山美樹子「大門口鏡鑿」と並木宗輔の浄瑠璃(『国語と国文学』昭和50年10月号)という優れた論考がある。これによれば、池田本は文化元年(1804)頃の成立だが、初演台本の3分の1をカットして、書き換えも行われているという。日本戯曲全集収録の「大門口鏡鑿」は文化9年(1812)刊で、冗長な部分をカットしてはいるが、古い形を残している。一方、京大本「傾城千引鐘」は成立年代が不明で、多少の脱文はあるが、京都初演当時の台本を忠実に伝えていると考えられるという。さらに、その内容は大坂初演当時の内容と一致していなければ矛盾することも指摘されている。

内山氏の論考から、京大本は、「大門口鏡鑿」の「けいせい千引鐘」と題して、寛保4年(1744)1月13日より京都四條で上演された時の初演台帳の写しを底本として筆写したものと考えられる。さらにこの台帳は、寛保3年12月15日より大坂で上演された「大門口鏡鑿」に依つてゐると考えられる。以上のことから、遠眼鏡と旗振で相場を知らせる場面は、寛保3年(1743)当時の大坂歌舞伎の舞台で上演されたものと思われるのである。当時、旗振り通信は広く行われ、狂言としても演じられていたのであつた。

〔関連情報について〕

○平成19年6月、神戸市長田区の正法寺境内の旗の掲揚塔の横に、「米相場旗振り通信中継所跡」の石碑が完成している。これは、「旗振り通信中継所(長田の旗振り山)」の案内板(平成16年6月19日完成)に続くものである。

○HP「山を駈ける風になれ」(2008年2月号)には、同年1月に登った三

田市小野の山について聞いた話が載せられている。

〔聖徳寺〕住職との話の中で今登ってきた山の名前が「中手山」という名前であること知る。山頂の石組みは昔山頂で狼煙を上げていたこと関係があるようだ。〕

「花山院の山頂でも狼煙をあげていたようで、海から山々を伝って狼煙で情報を伝えていたようであるとのことであった。旗振り山の話の思い出す。こういう貴重な情報は何かの形で後世に伝えていかねばならない。〕

○HP「近畿の山城」の「丹波 盃ヶ岳と周辺の城巡り」には見張所・烽火場のあった盃ヶ岳（のろし山）が紹介されている。

「釜山城 盃ヶ岳・烽（のろし）山 497m 篠山市東浜谷」天正年間（1573-92）初年、八上城西部の防備拠点として斥候連絡等の任務にあたり、そのため此の山は狼煙山とも呼ばれます。〔山名に烽（のろし）山の名が有り、篠山盆地を眼下に一望出

いくうちに、旗振りを再現してみようということになったという。2008年11月15日に、旗振山通信検証例会を実施し、相場振山（田中山、野洲市）から、小関山（大津市）と岩戸山（東近江市・安土町）がお互いに見えるかどうかを試したが、山自体がほとんど判らず、判別不可能であったという（相互距離は、13⁺・18⁺である）。昭和56年の再現実験での最長距離は11・4⁺であり、平均6・2⁺であったのだから無理もないだろう。〕

○筆者のHP「ものがたり通信」(本誌98号参照)は、平成20年6月10日に「山」メルセヌス素数「超ウラン元素」邪馬台国を削除し、「円周率」旗振り通信「鳥の聞きなし」プロフィールの構成に変更した(ただし、削除分も検索で閲覧可)。さらに、同月20日には「真実を求めて」を追加した。これは「たとえ世界の終末が明日であっても、自分は今日リンゴの木を植える」という言葉の出版を調べたもの。インターネットでは諸説が入り乱れて流布されてい

来る眺望極めて良い位置に有って見張り所として物見櫓が建ち、烽火台もあつた砦城が有つたところだ。〕

○HPで閲覧できる「丹波市広報たんば」(39号、2008年1月)(9頁)の「城山登山と分水界を歩こう」には「東小学校裏の城山をめざしました。山頂ではぐるりと開けた眼下の景色を眺めながら、氷上町郷土史研究会会長の八木甫彦先生から、氷上回廊や城山が丹波資めの旗振り山であつたことなどを聞きました」と記録されている。この旗振りは米相場とは無関係で、中世の軍事情報の伝達のための旗信号であつたことがわかる。

○平成21年1月、古代山城研究会で烽火についても研究している向井一雄氏から「古代烽に対する基礎的検討」(戦乱の空間)第6号、2007年7月という論考が送られてきた。筆者の「旗振り山」を参考として、山陽道沿いの烽比定地が一部分、旗振り通信ルートと重なるのではという推測をたてている。重なるのは、あくまでも一部分のみで

るが、真実は二つ、ルーマニアに生まれ、フランスに亡命して活躍した作家・詩人であるC.V.ゲオルギウ(1916-92)が、「第二のチャンス」(1952年原著、翌年訳書、筑摩書房)の巻末に、マルチン・ルターの言葉として記している。ただし、1944年のドイツ・ヘッセン教会の回状で初出のため、本当にルターの言葉なのかは不明である。寺山修司「ポケットに名言を」や開高健が広め、テレビドラマ「僕の歩く道」(2003年放映)でよく知られるようになったこの言葉に興味があれば、HPをこらんなさい。

○太田文雄「日本人は戦略・情報に疎いのか」(芙蓉書房出版、2008年)には次のような記述がある(二〇〇一頁)。

「二七三〇年には、現在の大阪市北区堂島に、世界初の米先物(将来の取引価格と数量を決める市場)ができました。大坂で決まった先物取引情報は一〇、二〇分後には京都に、三時間後には岡山に、当時の手旗信号のようなもので

あろう。

○石井光造「脱百名山登山学」(白山書房、2008年)の「友名登山」では、「人名の山の一つとして、田中山(滋賀県野洲市の相場振山の別名)が採り上げられている。〕

○HP「三上山と周辺の磐座8」10に、田中山付近にある「ネコ岩」探索の記事があり、筆者の「旗振り山」で紹介した文献も調べている。ネコ岩は田中山の北麓(銅鑄出土記念碑の奥)にある。井上香都羅「銅鑄」(相堂祭器説)「古代の謎発見の旅」(彩流社、1997年)も参照されたい。この本(101頁)に「甲山は、すなわち神山で、峰上から出土した流水文銅鑄の対象神山になっているようです」とある。田中山の別名の一つに甲山があることは、伏木貞三「近江の山々」(白川書院、昭和45年)からわかるが、別名「かぶと山」は、その表記から生まれた可能性もある。無名に近い山には別名も多いと言える。

○京都山岳会のHPによると、例会で、数年前から旗振り山を一座ずつ登って伝達していきました。これは、いかに当時の日本人の情報感覚が研ぎ澄まされていたかを知る上で参考となりませう。〕

旗振り通信の所要時間にもふれた文献は散見するが、根拠の明らかでないものも多い。実際には京都まで4分、岡山まで15分と伝えられているから、太田氏の記述が何に依つたものなのか、知りたいものである。

【お知らせ】
今回で、平成13年の連載開始から、研究と新研究を推算して、40回目の掲載となった。

前回にお知らせしたように、三重県伊賀市では、従来、知られていなかった旗振り山が4ヶ所も見つかった。愛知県常滑市に旗振り場があつたことも判明している。次回から、その発見の経緯を紹介したい。

(平成21年1月17日成稿)
(平成21年5月29日追加)

随想

山のエッセイ

富士登山

鷺見 守康

山を始めて20数年、富士山には「いつかは登らなければ」と考えていた。

なかなか登りたいという気持ちになれなかったのは、富士山に高山植物は少ないという理由以外に、有名な観光地でもあるため、登山に適した時期には観光客も含め大混雑になるといふ事情から、足が遠のいていたのだと思う。

ただ、登山者の多くがそうであるように、あちこち

の山から望み見る富士の姿は大好きであった。

もう10年程になるだろう。毎年山麓の富士五湖や御坂山系・天子山系など周辺の山に出かけている。とりわけ「千円札の風景」を眺めるため、本栖湖北岸を訪れることは今や恒例となっているのだ。

「いつかは登らなければ」という漠然とした考えは、今年になって「この夏こそ登らなければ」という切迫した気持ちになっていった。

富士山周辺を歩き遊ぶうちに、富士は巨大な自然観

察の対象だと悟ってきたのだ。

針葉樹林の青木ヶ原樹海のなかに浮かぶ寄生火山、大室山のブナ・ミズナラの原生林など、探検気分で見れば、味は尽きない。

氷河期以降の新しい火山である富士山には他の山では見られない植生遷移の有様や、風穴・氷穴・溶岩樹型、そして湧水群など多彩な自然の姿も見られる。

自然観察のトレッキングクラブで活動するかぎり、富士山の森を歩きたいし、富士の原生的な自然を見つめようとすれば、その頂を知らないというわけにはいかないだろう、そんな思いが強くなったのだ。

富士登山の計画は、日本

アルプス登山ではそれほど気にしない問題まで考慮しなければならなかった。

その一つは、混雑をいかにして避けるか、である。多くの登山者は富士山から「来光を仰ぐ」ことが目的のようで、八合目から山頂まで登山者が集中する時間帯がある。この時間帯を外すことと山小屋泊まりを避けるため、日帰りを前提とした。

富士山には吉田口・須走口・御殿場口・富士宮口の四つのルートがあり、そのいずれも五合目付近まで車で行くことができる。その中で富士宮口新五合目の標高がいちばん高く、約2400mである。ここから山頂の剣ヶ峰まで標高差約1400mを一気に登り

下りすることにした。

次の課題は、マイカーで到着した新五合目の駐車場の混雑である。夏山登山シーズンの7・8月の土曜日は、激しい混雑となるので、ひとまず日取りを9月上旬の土曜日に予定した。しかし、ここでさらに問題点が見つかった。トイレである。

新五合目の公衆トイレはともかく、山頂とルート途上の各山小屋のトイレは、7月上旬と8月下旬には使用できなくなるといふのだ。歳を重ねるにつれてトイレの近くなった身には切実な問題である。新五合目で森林限界を超え、遠くまで見通せる登山道では身を隠す場所もないし、し尿やゴミの処理対策に力を入

れ、世界文化遺産の登録を目指して関係者が努力している今日、身勝手なことなどでできないはずもない。

やむを得ず、日取りを8月中に変更することにしたが、新五合目に至る富士スカイラインのマイカー規制問題が最後に残った。これをクリアするため、規制解除期間となるお盆過ぎの平日に、職場の休暇をとったのだ。

山行前日、富士宮口新五合目には22時頃に到着し、車内で仮眠する予定であったが、東名高速道路の予想を上回る渋滞に巻き込まれ、当日の深夜2時前の到着となってしまった。深夜にもかかわらず駐車場には人の動きがあつてなかなか

寝つかれず、4時頃からうつらうつらしただけで、空が白んできた5時には身支度をし、簡単に朝食をとって6時過ぎに出発した。明らかに睡眠不足で、高山病とスタミナ切れの不安が大きかったが、11時半、無事剣ヶ峰に立った。

日本最高峰の山とはいえ、観光地化された富士山だから、老若男女、外国人など、本当に大勢が登っていた。そんな登山者のマナーの悪さには目をつぶるとしても、砂埃のひどさには閉口した。

登るといふことだけに目的を絞った山行だったのに、富士の自然を見つめる余裕はあまりなかった。それでも、新五合目の森林限界を超えると、ハイマツが

存在しない代わりに、カラマツが地を這うように生きている姿に驚かされた。

六合目付近からは、オンタデ・イワツメクサ・ミヤマオトコヨモギ・イワオウギの花が咲いていた。広大な溶岩とスコリアの荒原はやがて、オンタデの畑のような景観が広がり、八合目を超えるとコケや地衣類以外何もなく、まさに荒涼たる火山荒原であった。

高山植物が乏しいとはいえ、植生遷移のおもしろさがあり、富士の原生的な自然に、強く惹かれていったのだ。

三角点を訪ねて ⑥1

上谷山西南尾根上にある

連 載

点名「石留山」へ

磯部 純

湖北

高島リーダーの新ハイ例会で行った。先月の安蔵山に続き2ヶ月連続で湖北の三角点峰へ登ることになった。

登る三角点の点名「石留山」は、2万5千分の地形図「中河内」にある未踏の三角点三点のうちの一つである。

上谷山西南尾根上にある、中途半端なこの三角点を高島さんが例会に選んだのは、安蔵山西南尾根ルートの下見をした時、どうやら例会のための道を切り開く時に地形図を読み違えてこの尾根を登ってしまい、「せつかくルートを開いたのだから、皆にブナ林の美しさを楽しんでもらおう」とこの例会に取り上げたというのが真相らしい。

石留山三等三角点



近鉄小倉駅で城陽の彼を、JR山科駅で嵯峨・長岡京の彼女ら3人に乗せて湖西道路を北へ走る。家を出てすぐ雨がぱらつき、雪をいたたく北良連峰から流れる雲は灰色に垂れ込め、雨が気にかかる。白髯神社を過ぎ、前方が開けると伊吹山ばかりでなく、湖北武奈・三重嶽・湖北乗鞍も薄っすらと雪を被っているのを見る。これでは当然湖北の山にも雪があらう。信じられな



広い尾根を歩く



斜面のブナ林



いが、雨具を持ってきていない人もおり、雪の山で雨の中での山登りをしなくてはならないと思うと、皆はブツブツ。ただただ、天気男の高島さんの神通力に折るしかない。今津から海津へ抜け、野口で右折して奥琵琶湖トンネルをくぐる。雨は降り止んだのか、先ほどまでの雨が嘘のように一変し、陽が輝き青空が広がっている。「これではサンクラスがいる」それまでの雨具談義を忘れたように、雪山の日差し対策に話が弾む。

木之本から北へ走り、樽坂峠を越えて中河内集落の広場へ着いたのは、集合時間前の8時20分。この日登る点名「石留山」が、三角点病弱者以外にはあまり知られていないこともあり、高島さんの例会にこれまで参加したことがない甚目寺町・明石市の夫婦や海津市の彼、一宮市の彼女、お神酒徳利の2人など、3名もの大勢が参加している。太宰の彼女などは車に乗せてもら

う人が見つからず、敦賀まで電車で来て、高島さんに乗せてもらって参加したと言っから、その執念に驚く。広場で点呼とこの日の行動説明があったのも、全員が車で高時川と針川出合へ移動する。駐車スペースが狭く、何台かの車を尾羽梨川出合の広場へ置きに行つてから、9時5分に出発する。杉林から、出合にのびている尾根へ取り付いた。尾根には、針川集落が

あった頃のテレビのアンテナ線と道跡が残っているが、その傾斜は急過ぎるほどに急だ。前夜、久しぶりに人を乗せて走るので待ち合わせ時間に遅れてはいけないと、1時間おきに目を覚ましてしまつて寝不足気味。登り始めて間もないのに息が上がつてきて足も重い。こんな調子で、目標地である標高点1041まで行けるだろうか。と危がみつつ登って行くが、いつの間にか最後尾を歩いていて、最初の休憩場所には列に遅れて到着した。いままでは下ばかり見て歩いてきたが、ここで休んで、周囲の林が朱や黄色に彩られている秋の景色を初めて見ることができた。

休んだおかげで余裕が生じ、その後はあたりを見渡しながらか登るが、傾斜が急なことに変わりなく、相変わらず足は重い。目の前には、紅葉に彩られた林のなかに太いブナやミズナラが姿を現す。ふと見ると、近くの木にキノコがびっしり。ナメコに違いなく、天然のナメコをすく近くで見たのは初め

てだ。先に登った人達は天然のナメコを知らないようでも知らず知らずのうちに下りに探ることにし、そこに印を付けて皆の後を追う。気がつくといつの間にか道跡は消え、ササが濃くなってきた。

標高650あたりまで登ると雪が姿を見せ始め、登るにしたがつてその量も多くなり、寒さも増してくる。前週の雨乞岳山行では軽装だったので寒くてたまらなかつたが、今回は冬支度の重装備で雪があつても恐れることはない。ササをかき分けて急な尾根を登り、次第にゆるくなると標高点727のピーク。広い平坦なササ原のピークで、何本もの太いブナが立ち並んでいる。このうちの一本は、幹周りが3.7mもある巨木だつた。

ササの斜面をいったんゆるくくたつて細尾根を通ると、再び急な登りになる。20m程の積雪でササの根本が押さえられているとはいへ、かき分けの登りは足への負担が大きい。15分も登るとCa790のピークで、ササ

ブナの巨木の下で



原のなかに太いブナの疎林の尾根が東へのびている。このあたりまで登ると葉の落ちた枯れ木の林が続く。前方の山は真っ白く雪に覆われ、これまでの晩秋の風景が刻々と冬の世界へと移り、まるで走馬灯を見ているようにも思える。サングラスがいるとポケットを探るが、サングラスは車の中。
標高点794を踏み、尾根をゆるくくだる。地形図では読みとれない微

妙なうねりとコブのある尾根だつた。地形図を見ると、目的の三角点「石留山」はこの鞍部付近にあるはずで、あちらこちら歩き廻って探すが見当たらない。そのまま尾根を進めば三角点に出会えたのに等高線を読み違えた。三角点は、最低鞍部から50mも登った尾根のコブにあつたのだ。いらぬ努力を使ったのがケガの功名、ウロウロ探し廻ったおかげで格好のよいナメコを見つけたことができた。このナメコも婦りに採ることにする。

三角点名は「石留山」。標高781.2mで、三等三角点。ピークには三角点が無く、山と呼ぶには抵抗がある位置にある。標石は東南向きで、南から40度東へ振っている。

時間は11時過ぎだがここで早めに食事にすると思つたら、リーダーは「予定通り標高点1041まで登る」と言つてと歩き出す。足が重かつたので、「登るのを止め、ここで皆がくだつて来るのを待とうかな」と言つたら、「こんな吹き曝しの所にいたら、寒

いよー」との甚目寺の夫人に諭される。思い直し、「遅れてもよいから登ってみよう」と皆の後をついて登る。幸か不幸か、パテ気味なのは私だけではなく、明石の彼も「フウフウ」言いながら、急勾配の尾根を5歩登っては休み10歩登っては休む。それを見て、元気をもらったように足が軽くなつてきたから不思議だ。

登るにつれ雪はますます多くなつてくる。尾根も急坂になり、木の幹や枝、ササをつかんでの登りとなる。ふと前方を見上げると、幹周り4mもあるようなブナの巨木が目前に現れた。その先も急な尾根だが、一歩一歩登って行くと次第にゆるくなつて登り切ると、Ca970の平坦地で、時間はちょうど12時。傾斜はゆるくなるとはいへ、ここから標高点1041までは、さらに100mばかり登らなくてはならぬ。この場所では雪が張りつき、木々には薄氷のように雪が張りつき、積雪は30cm程であったりは白一色の銀世界。取付点付近で見た朱や黄色に彩ら

れた紅葉の林が信じられないほどだつた。持ってきた衣類を全部着込んで食事にする。いつものメンバーは車を広げて宴会ムードだつたが、人を乗せて車を運転して来ている身では、ただただ自重するしかない。横目でそれを見ながら、お茶漬けを喉から流し込む。鈴鹿の彼女に歯に堪えないものや果物をいただいた。

歩き足りない太秦の彼女はリーダーに許可を得て、「標高点1041を踏んでくる」と言い、深い雪のなかをひとり登って行つた。せつかくここまで登つたのだから、この身が元気が、このような状態では足が動かす無理だと諦める。後で聞くと、標高点1041は踏めなかつたが、上方の積雪は50cm以上もあり、ササも濃かつたとか。この尾根を使って上谷山まで登れないかと考えていたが、ササが濃いのは無雪期でも足に負担が大きく、私にはとうてい無理だろう。



ササの尾根を下る

13時に下山となる。最後のほうを歩くと、皆が歩いたトレースには雪が無くなり、急斜面ではササと泥で実に滑りやすい。何人も人が滑り転びながらの下りだった。登りに1時間もかかった急斜面を25分で三角点までくだり、そこで休まず鞍部までくだって休憩。標高点794mへ向かうゆるい尾根の登りでは、来る時に見つけたナメコを甚目寺の彼とで2人占め。その後も随所にナメコの固まりを見たが、何れも大きくなり過ぎたものばかりで、敦賀の彼がまとめて採り、くだってから分けることになった。

ゆっくりとくだって来たが、標高点727mへは14時に到着した。登りには気がつかなかったが、この山頂は平坦で、下りには急斜面下の尾根が見えず方向を決め難い地形をしている。磁石で出合方向をよく定めて斜面をくだって尾根にのらなくはならない。気楽な気分でも尾根なりにくだって行けば、北西へのびる遠う尾根へとのってしましそうだ。

掃りの尾根にのったら、ひたすら下りるだけ。次第に雪が無くなり、木々には葉が繁り、朱や黄色に彩られた秋が目の前に広がってくる。ただ、傾斜が急で全身の神経を足元に集中しなくてはならず、下りに探ろうと思っていたナメコのある木を見逃してしまい、何か損をしたような気になる。

ここから20分もくだれば、登り口の高時川と針川出合の林道へ下りた。全員がくだったのは14時50分。中河内集落広場まで戻って解散となった。

この日の山行は、11月下旬だということに、紅葉と雪景色が一度に楽しめた山行だった。(平成19年11月23日歩く)

韓国登山シリーズ⑫

ソウル近郊

連載

道峰山

ヨシミスポーツ

吉見英樹

韓国



道峰山

山容

岩峰むき出しの山で、我々日本人には、都会のすぐ近郊に迫力の岩峰があるのに驚かされる。奇怪な岩峰が五つも重なり、そのすばらしい風景は有名である。

交通アクセス

ソウル市庁駅から地下鉄1号線で北へ約40分、道峰山駅で下車し、そのま

道峰山(740m)は、ソウル市北部の北漢山のすぐ北隣に位置する。美しい溪流、楽しい沢歩き、スベクタクルな巨岩峰、スリリングな登山コースなど、低山の中でも代表的なおもしろい山だ。地下鉄道峰山駅からそのまま登山を開始し、下山後は駅からソウル市内にすぐ帰ることができる。いたって交通の便利な山である。

コースは多彩にあり、簡単なハイキングから減茶苦茶にスリリングな岩峰縦走路まで体力や技術に応じて、いろいろなコースをアレンジすることができる。コースタイムは、ルートによって変わるが、有名なコースで大体5〜7時間(ただし、韓国人タイム)程度だ。もちろん、ソウルっ子御用達のソウル五岳の一つである。

ま歩くことができる。

コース

2000年にソウル山岳会の重鎮、キム先生と共に道峰山をいっしょに歩かせてもらった。キム先生は戦時中、早



稲田大学に在学されていたので、日本語が堪能であった。

その時は、南方登山口のウイドンから登って行った。奇岩などを見て歩いたが、同行者が多くてゆっくりしすぎて時間切れになり、結果一番人気の道峰溪谷コースを歩くことができなかった。途中から道峰地区へくだり、登山食堂街で大いに盛り上がったことだけをよく覚えている。

ただ、どのコースをどのように歩いたかは定かに記憶がなく、かなり消化不良だったようだ。やはり、自分で計画して歩かないと駄目だなと感じていた。

その後、先生とは、「またいっしょに歩きましょう」と約束していたのが4年前、突然亡くなった。

山中の危険箇所ではザイルを出していただいたり、朝から韓定食をモリモリ食べられ、すくお元気だったのに、突然亡くなったと聞いたときには全く信じられなかった。知人から伝え聞いたところでは、いっしょに登山

したときも病気が進行していて、けっして大丈夫な身体ではなかったらしいのだ。先生は私達のために病をおして来ていただいたのだった。少なからずショックを受けたことは今でもしっかりと記憶している。

このようなことから、再度訪れ先生を偲び、道峰山を納得いくように歩こうと長い間思っていた。

今回、商談の合間をぬって山歩きすることにした。

起点の道峰山駅は地下鉄1号線ソウル市庁駅から約40分まで到着する。途中から地上に出るので景色も良く、山もしっかり確認できた。降りる駅で焦ることはまずない。駅を出てからも登山口まで全く迷うことはない。なぜなら、どの時間帯でも、登山者しか降りないからだ。登山者の後をついて行けば自動的に登山口に至る。

駅から真西を見ると、道峰山の大理石が白く光って見え、大変感動的だ。道でも登高意欲がかき立てられる。道

すがら登山口までは、食堂・居酒屋・登山ショップが軒を連ねていて冷やかしながら行くのもおもしろいと思う。

下山は同じ所に帰ってくるから、立ち寄る飲み屋を物色しておくのもよいだろう。おススメはキムチ豆腐。安くてうまくヘルシーである。

今回は登山口にある仕事先に荷物をアポさせてもらい、少し道峰山を登って、下山後に仕事するという甘い考えであった。したがって装備は軽ハイキング程度であった。というのは、道峰山を南隣の北漢山の白雲台程度だと誤解していたからである。

しかし、私達のとったルートは、レベルの高い岩稜登山であり、危険なキレット渡りなどがあり、結果的に本当の頂上へはたどり着けず、真横にある岩峰から頂上を見上げるだけで下山してきたのである。

登山口票売所からは道は美しい溪流沿いになり、韓国らしい巨岩が両岸から迫っている。道は少しづつだがゆるやかになり、ウォーミングアップには

もってこいである。木漏れ日のなか

黒くて大きな鳥がガシャガシャと鳴き、蝉がメーメーメーと鳴いている。

韓国の蝉はこのように鳴くようである。確かによく聞くとそのように鳴いている。

今回のコースは、知人のソン君お勧めのルートで幾分難易度の高い溪流コースだった。

溪流コースでは、先ほどまで歩いてきた多くの人が見えなくなり、見るのは装備のしつかりした達者そうな人ばかりである。一般コースでないというのにはすぐに察知できたが、ソン君の「登れる」との言葉を信じて溪流コースをたどることにしたのだ。

出張の合間をぬって来たので、同行の案内は靴だけが山ブランドでしかも短靴という、いたって山を甘く見ている装備であった。韓国人トレッカーからは何という装備で来ているのだという白い目で見られた。

樹間から道峰の白い大岩壁がチラチラと頭を覗かせ、気をもたせてくれる。

アタッテ痛い靴の「中広げ」します

靴底張替承ります!



通販も可能です。

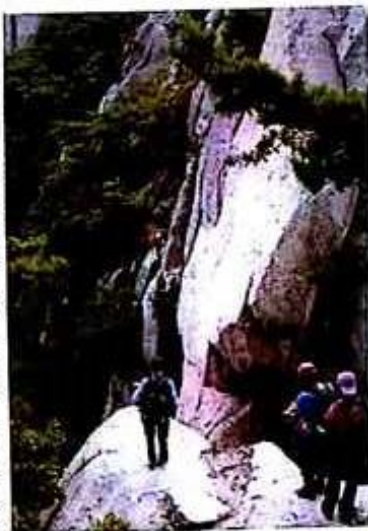


〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
<http://www.yoshimisports.co.jp/>



TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:30~PM8:00(日曜は7:00まで)

毎週木曜日定休



スリリングな岩稜帯の登り

ゆるやかな岩道が次第にきつくなり、やがて溪流を数回渡る沢歩きをしながら、最初の休憩ポイントである山荘待避所に至る。きのうの雨で溪流の水量が多くなっている、渡渉するのに苦労した。

実はここである問題が発生した。60年ぶりに日本語を喋るといふ初老の男性が話しかけてきて、「日本人ですね！久しぶりです。この山は……」と講釈になり、最後に「よいコースを教えてくださいませんか」となった。

もちろん、親切で言ってくれたのだ

が、この山はほんまものの山好きが行くのでコースが多岐にわたる。したがって知っている人のアドバイスを開き入れたほうが得策だが、今回コレが頂上へ行けない原因になってしまった。経験上、このようなことで希望

する所へ行けないことがなぜか多い。待避所までは登山者が多く、大半の人ははつきりした道がある左へ行く。でも私達はその男性の勧めで右へ、さらに渡渉して人のいない細い道を行くのであった。

谷をつめて行くくと巨岩が現れ、その岩室にへばりつくようにお堂がある。マンウォール崖というのだが、(よういこんな場所に建てたもんやな〜)と、感嘆の声が出るくらい危ない場所にある。谷の水でひと息ついて大きな岩室に上がると、10人程の登山者の団体が宴

会を開いている。

ここからは谷が開け、下界がよく見え、爽やかな風が吹き抜けるもつてこの場所だ。団体はマッコリ(濁酒)などを呑んでいてたいそう賑やかだ。ここから上へは、岩壁に付いた、途中で待避テラスがあるほど急勾配の、階段が延々と続いている。家内は途中でへばり、しばらく休憩をとった。上は全てパウイ(岩)、標高差200mはあろうと思える巨大岩壁だ。やっと思いで鉄塔のあるテラスに登り出ると、大展望が待っていた。

向こうには昨年登った水落山、道峰山を見ればシンソン台・マンチョン峰など、蛟の曲のような岩峰が四つ重なって見える。(へあ、あのじいさんはこの風景を見せたかったのだな)と理解できた。

道はこのテラスよりさらに上に続くが、ルートは踏跡を探しながら行くようで見つけにくい。日本では中級クラス岩稜歩きであろう。私は慣れているので初級レベルの家内にはかなりハ

ドで心細かったことであろう。実際このコースですれ違ふ人は、見てすぐわかるほどに熟達者ばかりであった。

岩稜を登り切ると平坦な分岐に合流し、横の方に歩きやすそうな道があり、そこから人が多く登ってくるので、楽な道もあるようだ。この分岐からすぐに716m峰(無名)があり、ここで今回は最高到達点となった。

なぜなら、716m峰より核心部マンチョン峰、シンソン台へは、危険で有名な(後で知ったのだが)キレットがあり、岩壁に取り付けられたワイヤーで一度谷を垂直にくだり、そして鞍部からまた垂直に近いワイヤーをつかんで激しく這い上がって行かなくてはならない。その高低差は150mはあるだろう。もちろん落下したら一巻の終わりだ。韓国の山らしいド迫力の光景だ。家内は「アカン！ こんなんよ行かん！」となり、本日はここが最終到達点となった。

直線距離ではすぐそこだが、実際は大変だろうと察することができる。し

かしながら、韓国女性トレックカーは全くの怖じせず、ドンドンとキレットを越えて行く。家内は「信じられない民族だ！」と感嘆していた。ルートは、このキレットをV字型に岩を這い上がり、蟻の戸渡りで岩峰を三つばかり越えて行く、そこがシンソン台で道峰山の最高点である。

山頂には大勢の登山者が集っている。真横の巨岩峰のマンチョン峰にはルートが無いが、それでもどこをどう登ったのか？ 2人ほどが上で万歳をしたり、アクロバチックなパフォーマンスをしている。もちろんノーザイルだ。恐るべき民族だ。

716m峰は開けた稜線上にあり、展望も良く、キレットのみならず、東方には昨年登った水落山、南西には白雲台などと、360度の展望が楽しめる。秋の気配をさすがに感じるような爽やかな風が吹き渡り、家内とコーヒーを飲み、ほんやりとくつろいでいた。

キレットでは「アヨ！ チョンチョ

ニカミョン ケンチャナー(ゆっくり行けばダイジョウブ)」と賑やかに越えていく登山者の声が続いていた。

帰路は安心のために同じ道をとった。急勾配の岩道のくだりは、家内にはさらにきつかったようで、安全のためにこまめに休憩をとり、やっと平坦な溪流沿いの道に着いた頃は、17時を回っていた。早速居酒屋に入り、ビールで無事に下山の乾杯をした。

溪流沿いの居酒屋は、多くが川床風になっていたので、サラサラと流れの音を聞きながら飲み食いできる。ぜひ立ち寄られることをお勧めする。

〈コースタイム〉

道峰山駅(20分) 稜光所登山口(40分) 山荘待避所(50分) マンウォール崖(50分) 稜線716m峰山頂(2時間) 道峰山駅

*今回は同行者が岩稜歩きの経験がないので同じ道を往復した。本来はキレットを渡り、峰々を縦走するのが楽しい。

浄瑠璃寺から岩船寺を訪ねて

松永恵一

南山城

京都府南部は「やましろ」と呼ばれる。「古事記」などによると古くは山代と書かれた。大宝令が制定された大宝元年(701)、山背国という表記で国が建てられた。奈良の都から見て山の背(うしろ)にあたるので山背と書かれたものと思われる。延暦十三年(794)11月8日の平安京命名の際に山城国とされた。「この国は山河襟帯、自然に城をなす。この形勝によって新号を制すべし、山背国を改め山城国となすとのたまう。」

都が平安京に移された頃、国家権力と深く結びつき政治に介入する僧も現れ腐敗した南都六宗を厭い、仏教界に

新しい風が吹いた。2人の天才が現れた。最澄と空海である。唐に留学した彼らは、国家とは一定の距離を置くために都から離れた山岳、比叡山・高野山に寺院をつくり、みずからを開祖とする新仏教宗派を開いた。

南都の興福寺や東大寺にいた聖や修行僧は、新たな修行の場を求め汚れなき理想郷を夢見て風光明媚なこの南山城の浄域に庵を結んだ。真の仏教を求めた瞑想や思索の庵は、やがて寺となり人々の折りと結びつき阿弥陀浄土を現出させた。人々の信仰心を物語るかのように残された石仏は、親しみやすい阿弥陀如来・地藏菩薩・観音菩薩。香華の絶えない石仏の奥に、ささやか

浄瑠璃寺(九体阿弥陀堂)



な奇蹟で浄土に生まれることを願った庶民の姿がみえる。

折りの里を歩くと野菜や季節の果物を吊した無人販売のスタンドが目につく。春はこぼれるように咲く馬酔木の花。夏は睡蓮の華麗な花姿。秋は鈴なりの柿。清浄な心の花を咲かせて欲しいという御仏の願いが満ちている。

浄瑠璃寺

浄瑠璃寺は京都府の南端、奈良県との県境付近に建つ真言律宗の寺。山号は小田原山。寺名は薬師如来の居所である東方浄瑠璃世界に由来する。本堂は現存する唯一の九体阿弥陀堂。地元の人々は浄瑠璃寺とは言わず、親しみをこめて「九体寺さん」と呼ぶ。

「まさかこんな田園風景のまっただ中に、その有名な古寺が…」と堀辰雄が「浄瑠璃寺の春」で綴った寺は、義明上人によって永承二年(1047)に開かれた。平安貴族が極楽往生を夢見た浄土を現出させた庭(特別名勝及史跡)。阿弥陀如来像九体を祀る本堂(国宝)が宝池に影を映し、平安時代の優美な三重塔(国宝)が向かい合う。

石段を上り三重塔前で秘仏の薬師如来像(重文)にこの世での救済を願う。その場で振り返って池の向こうの本堂に向き、阿弥陀如来に極楽浄土へ迎えられることを祈る。

境内には清々しい空気が満ちている。

岩船寺

岩船寺は浄瑠璃寺の程近くの里にたずむ真言律宗の寺。山号は高雄山。寺名は門前にある岩船にちなむ。

別名「あじさい寺」。25種5000株以上の紫陽花が出迎える。四季折々に花が咲き競う。「仏の慈悲の心が花となって境内を彩っています」と住職は言う。

阿字池の右手には平成15年に化粧直しを終えた三重塔(重文)がそびえる。鮮やかな朱色も誇らしげに往時のままの姿を取り戻し、現代に甦った。秋には燃えるような紅葉と朱を競う。

聖武天皇の発願により行基が建立したと伝える寺に、弘法大師空海の甥、智泉が入る。嵯峨天皇の妃、橘嘉智子の帰依を受けて皇子誕生を祈念し、後の仁明天皇を授かると報恩院などが建立され、堂舎39坊を誇ったという。

昭和63年に建て替えられた本堂に、坐高2.8mを超える堂々とした阿弥陀如来坐像(重文)が安座する。周囲に鎌倉時代作の四天王像を従える。

当尾の里

浄瑠璃寺や岩船寺近辺は、喧騒を離れて修行に専念する僧侶が草庵を結んだ地。多くの塔婆や石塔が築かれ、林立する様子から「塔の尾根」と呼ばれた。やがて「塔尾」から「当尾」の字が当てられるようになった。

いたるところで石仏に出会う。当尾石仏群と称される鎌倉時代を中心とした石仏(多くは山肌に見える花崗岩の岩肌)に直接刻んだ磨崖仏や石塔の多くは、鎌倉時代初頭、東大寺再興のために南宋からやってきた伊行末を中心とした石工とその子孫が築いたもの。その数は百体を超えるという。

浄瑠璃寺と岩船寺を結ぶ約2kmの道沿いには、多数の石仏が集中し、およそ四十体の石仏を見ることが出来る。ハイキングコースとして整備された道は、随所に案内の道標が立っていて迷うことはない。

浄瑠璃寺から岩船寺へは上り道だが、石仏は見つけやすい。お地藏さん、観音さん、お不動さん…



コース概観
京都府南端、当尾の里にある四西花の寺二十五ヶ所霊場の第十五番岩船寺と第十六番浄瑠璃寺。平安貴族が夢見た浄土の庭は、馬酔木の小さな白い花に包まれる。当尾の石仏の道を行くと紫陽花に飾られた花の寺。静けさに満ち、小鳥のさえずりが耳に心地よく、吹く風が肌に優しい。石仏の前に香華の絶えない折りの里を歩いてみた。



岩船寺 (山門から臨む三重塔)

動明王磨崖仏は両眼を見開いて剣をかまえ、憤怒の表情。一心に折れば一つだけ願い事かなえてもらえるという。野仏の里を楽しみながら行くと岩船寺。山門の手前に巨岩をくり抜いた石風呂が置かれている。奥の木立の間に三重塔を望む。ゆつくりと境内を散策する。五輪石塔(重文)は鎌倉時代の作で、東大寺別当平智僧都の墓といふ。岩船村の北谷墓地にあったものを移した。二本の角石柱を立て寄せ棟造りの一枚石の屋根をかけた石室に、石室不動明王立像(重文)が祀られている。

近鉄奈良駅、JR奈良駅、JR加茂駅の何れかの駅で下車。駅前からバスを利用し浄瑠璃寺前で降りる。近鉄奈良駅からは駅北側13番のりば、JR奈良駅始発の系統番号111加茂駅行き午前9時38分発が便利。
土産物屋の間を抜けると右側に馬酔木が植えられている参道。「漸つとたどりついた浄瑠璃寺の小さな門のかたわらに、丁度いまをさかりと咲いていた一本の馬酔木」が「一番印象ぶかった」と堀辰雄は「浄瑠璃寺の春」に記している。
山門を入ると目の前に宝池が広がる。平安貴族が憧れた浄土を形にするために久安六年(1150)に池を掘り直し、洲浜や中島をつくり、西岸に阿弥陀堂を移し、治承二年(1178)に三重塔が京都の一条大宮から移築された。三重塔に安置された薬師如来像は、太陽が昇る東方にある浄土(浄瑠璃浄土)の教主で、遣送の仏という。人は清らかな瑠璃光に満ちた東方浄土から薬師如来に見送られてこの世(此岸)

夏には阿字池に睡蓮の花が咲く。三重塔は奥の高みに東面して建つ。嘉吉二年(1442)の建立。平成の大修

る。石室の奥壁に薄肉彫りし、「応長第二(1312)初夏六日」「願主盛現」の銘文がある。塔頭湯屋坊の盗現が、不動明王に眼病平癒の断食行を行ったところ、治癒したので報恩のために自ら不動明王を彫ったという。本堂前に花崗岩の大きな十三重石塔(重文)が建つ。正和三年(1314)に妙空僧正が造立した。軸石のくぼみから水晶の五輪舍利塔が見つかったが、元通りに納められた。境内に立ち並ぶ石塔には人々の祈りが託されている。
本堂にお参りする。本尊の阿弥陀如来坐像の胎内には天慶九年(946)の墨書が残されていた。末法の世が迫った時、俗世を離れた山中に大きな阿弥陀如来坐像を造立し、救済を求めた人々の切なる祈りが感じられる。普賢菩薩騎象像(重文)は、合掌する普賢菩薩が白象に乗る。元は三重塔に安置されていた。
夏には阿字池に睡蓮の花が咲く。三重塔は奥の高みに東面して建つ。嘉吉二年(1442)の建立。平成の大修

に生れてくる。正しい生き方を教えてくれた釈迦如来の教えに従って、煩惱の河を越え、彼岸をめざして精進する。やがて来迎の仏、阿弥陀如来を迎えられ、西方浄土(彼岸)に至る。春分と秋分の日には、太陽は三重塔の背後から昇り、本堂の中央に沈む。
嘉承二年(1107)建立の本堂には、阿弥陀如来坐像が九体祀られ、四天王立像(国宝)が護っている。鎌倉時代の妖艶な秘仏吉祥天立像(重文)は、1月と春・秋に開扉される。
当尾の石仏をめぐりながら岩船寺に向かう。東小バス停の横に愛宕灯籠がある。昔はこの火をもらって帰り、正月の雑煮をつくったという。「鳥(唐臼)の蓋」と呼ばれる四方から道が集まった追分にある阿弥陀仏。左奥の面に地藏菩薩像も刻まれている。笑い仏は当尾で最も有名な石仏。阿弥陀仏を中尊に観音菩薩と勢至菩薩が並び、左下に水仁七年(1299)に岩船寺の僧が願主になり、南宋の石工伊行末の子孫末行がつくったと銘が残る。不

山の地名を歩く⑧

氷ノ山(須賀ノ山)

西尾 寿一

因幡と但馬及び播磨の境を分ける大山塊の最高峰である。山陰と山陽とを分ける脊梁山脈が北から南下し、東西へ進路を変える要の位置にあり、周辺地域の気候風土を支配するほど重要な山である。標高は1510mとこの地方では因幡抜けて高い。

氷ノ山を中心とする大山塊は「氷ノ山・後山・那岐山国定公園」に指定されているが、那岐山は別の山塊で、おそらく行政の都合で合流させたものと考えられる。

氷ノ山の山塊は、北から扇ノ山、陣鉢山、三室山、東山、沖ノ山などから民俗学者の柳田國男は、ヒヨウは伊那の「ヒヨウ越」などを示し、境界の標のことだろうとしたが、明らかに氷ノ山はこれとは異なるのである。地名の漢字は重要でないことは知っているつもりだが、ここは氷の字は現場の自然環境を美しく見せるために採用されたようだ。

そして須賀ノ山も「霧氷」を表現しているから、同一の現象を表現を変えたいにすぎないのではないかと感じている。むしろこの場合は後者の須賀が古いものである。

須賀は、志賀へと変化し滋賀ともなる。滋賀県の志賀は比叡山の東麓にあつて昔から寒風の吹き降ろす厳しい所で霧氷も度々現れる。

志賀山(長野)・志賀越(長野)・志賀峠(埼玉)・須賀倉山(岩手)など、

なり、広大な山麓一帯には無数の山村が棚田を営み、山の産物に生計を求めている。その昔、木地屋が跋歩した山でもあった。

豪雪地帯としても知られ、古來住民の生活は容易ではなかったが、吉野より盛王大権現(須賀峠現社)を勧請したことから、但馬・丹波・因幡・播磨など広い地域からの参詣があり、氷ノ山越などが大いに盛んとなったが、源平時代より世相荒廃、盗賊などの出没により参詣者も途絶えるなかで、城内各村特に春米・横行・鶴縄の三ヶ村が相談し、山頂の御神体をそれぞれの村に分割祭祀することにしたため、山は宗教的に空白となった。

氷ノ山と赤倉山との間にある「氷ノ山越」は修験以前から開かれていたと思われ、標高が高い(1252m)にもかかわらず利用されていて、伊勢詣(伊勢道)としても、京都への使役としても重要な通路だった。

中国山地の東端ではあるが、大山に次ぐ標高はこの地方では貴重な存在で、ほぼ同様の環境のもとにあるようだ。東北地方では氷を「シガ」と表現するので表現上の多少の差は方言の差と考えることも可能である。

「古代地名語源辞典」(東京堂)では、シガは古くは清音で呼んだらしく、そのシカはスカの転であるという。スカは州処で砂州の状況というから滋賀の志賀はそれらしく思えるが、一抹の不安を感じ得ない。なぜなら他の多くの志賀地名は砂州とは全く違うからで、説解の方法はさらに深耕する必要があるからである。両者は違う出発点から出て合流したものか、あるいは同じものから分派したものか、追求の必要がありそうだ。

「地名用語語源辞典」(東京堂)には、シカの部に「四ヶ」がある。先出の氷ノ山の異名にも「四箇山」があったので他の複数山群を語ったとも考えられるが、正解は「志賀・須賀」であろう。この辞典にはシガ(州処)の他に山中裏太(樹氷・霧氷・氷)などをあげ、先(の鏡味説)と両説を併記している。「日

冬期は豪雪で4、5mは積る。この雪は住民を悩ませてきたが、近年ではこれも利用し、スキー場やアウトドア関連の遊戯施設がつくられ、近畿地方の都会人を集めている。

暖冬で他のスキー場に雪が無いときでも氷ノ山は別格で、雪の積もらない年はまず無いといってよい。登路は一般向きとして氷ノ山越に至るものがあり、道標や避難小屋もある。特に鳥取側の設備が一新され利用しやすくなった。

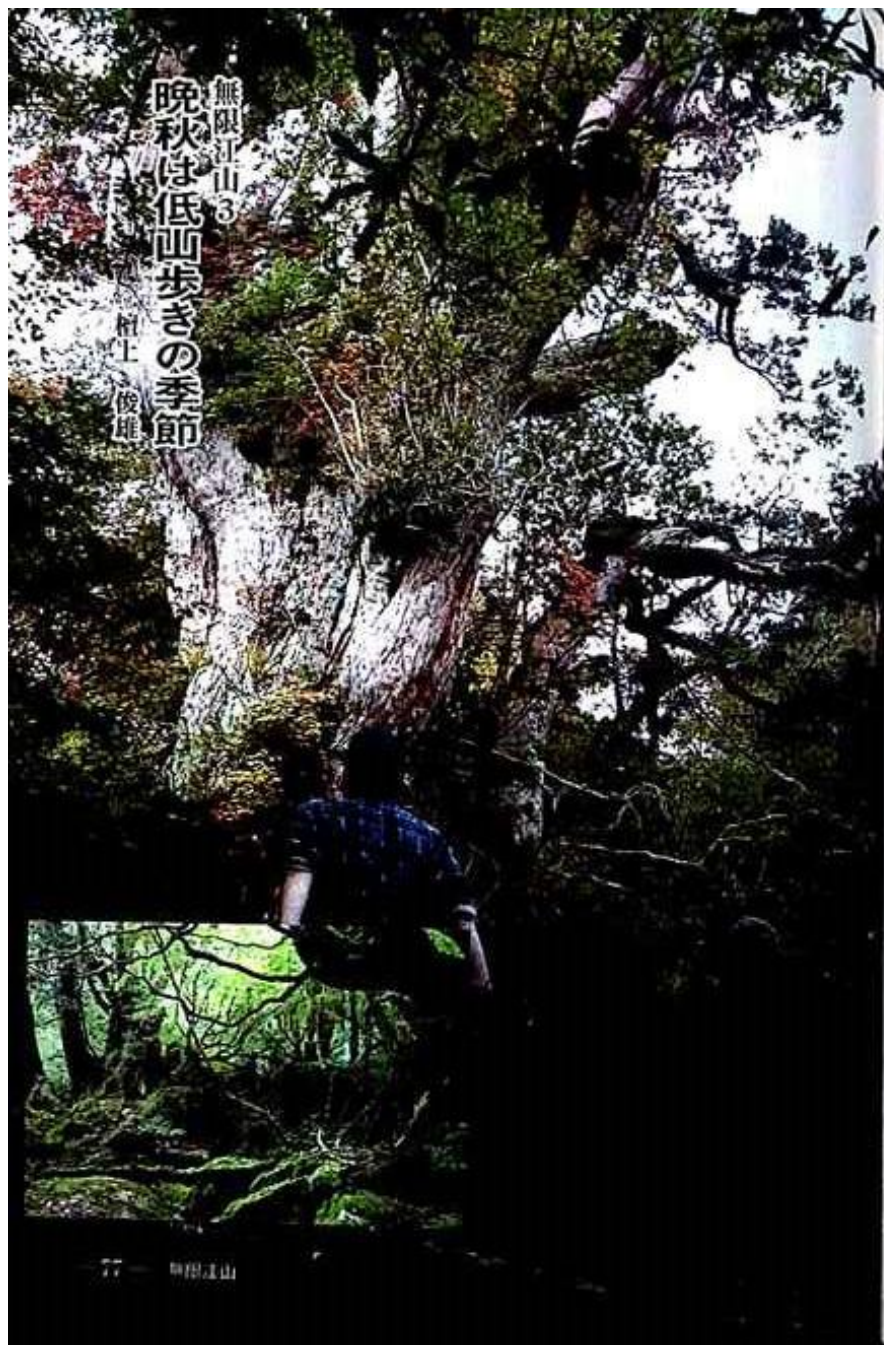
「日本山岳志」に氷ノ山とあり、別に菅山(別称)三箇山とあるが、これは氷ノ山の別称の須賀ノ山であり、主客が転倒しているようだ。が、後者の標高五千四百四十尺は高すぎて該当の山は見当たらない。

氷ノ山の別称として、日龍山・釣山・四箇山があるが、前の二山は氷ノ山の変化にすぎず、四箇山はシカ山で須賀山の変化と認められる。いずれも写筆の際の誤記か変化を楽しんだのかも知れない。

本語源大辞典(小学館)では「清清しい」をあげている。清浄の意でむやみに反対はできない。

「富士山はなぜ富士山か」(谷有二著)には、岩首山や首平は、霧氷平であるとされているが同感である。スガはもう一方で鈴鹿や飛鳥などのように河川の氾濫原の州処などを表現する場合もあるから、地形状況(自然の環境をよく知ったうえで判断する必要)がある。

積雪期のスキー登山のほかに氷ノ山に登山する人は極端に少なくなる。これは登山道が一部の山に限られるからで、かつてやぶ山をものともせず地下タビで散歩した単独行の巨人、加藤文太郎のような人物が現れない限り山は静かであるが、半面において林道が山塊を縦横に走って美観をそこねている。この山塊の未開に目をつけ、地域研究の対象とし研究に着手したことがあった。が、いつの間にか消滅したのは私の力不足だったのだろうか。



無限山3
晩秋は低山歩きの季節
植土 俊雄

新ハイキング社の書籍

最新刊 **高木文一 初登攀の軌跡** 岡部紀正 著

四六判 184頁/定価1890円 われ、谷川岳にアルピニズムの基礎を見ゆ
慈恵医大出身アルピニストの谷川岳 ノ 倉沢奥堂初登攀など輝かしい業績を、山岳
部後輩の著者が熱情溢れる筆致で評述。

第29巻 **日本300名山スケッチ登頂** 深谷健雄 画・文

B 5判208頁/定価2200円 スケッチ山旅の画文集
50年をかけて達成した、日本300名山のスケッチ集。800葉のスケッチに丁寧な説明文
を添えるとともに、300山を簡潔に紹介。

第28巻 **バリエーションルートを楽しむ** 松浦隆康 著

A 5判304頁/定価1880円 花 巨樹 滝 眺望など魅力の100コース
好評の「静かなる尾根歩き」著者による第2弾。奥多摩 奥武蔵/高尾山 福山付近/
丹沢 箱根/道志 御坂/大菩薩付近など全100コースに地図付き。

第27巻 **房総のやまあるき** 内田栄一 著

A 5判261頁/定価1838円 あなたの知らない千葉県南部の58コース
「えっ！千葉県に山があるんですか？」そんなあなたに、とっておきの房総のやまあるき
をご紹介。標高ではうかがい知れない奥深い房総の山へのガイド。

第26巻 **静かなる尾根歩き** 松浦隆康 著

A 5判288頁/定価1880円 奥多摩から八ヶ岳まで日帰り100コース
今までみずかしいと思っていたコースへの道を開くガイド書。コースにグレード区分
をつけ、最新の踏査にもとづき全て分かりやすい地図入りガイド。

第24巻 **山岳巡礼** 佐藤光雄 著

B 6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
春の絶景、夏の大雲、秋の銀岳北方稜線、冬の御膳、ひとり拓く山の世界。
本格的に山に取り組む人への良き案内書。

第23巻 **多摩100山** 守屋龍男 著

B 6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び組みあげた50コース
多摩丘陵の低山から東京都の最高峰雲取山までを50コースにまとめて紹介。
時間や写真も豊富に入ってわかりやすいガイド書。多摩246山の資料付き。

●本誌添付の郵便用紙での
ご注文は、送料当社負担

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110

秋は高みからやってきて、潤沢など、奥穂高や北穂高の山頂付近に新雪が積もるわずかな間に、ナナカマドを中心にした紅葉のピークを迎えるが、一度はそのすばらしい亜高山帯から高山帯の風景を見ようと多くの人が訪れ、夏を上回るほどに混雑する。「紅葉の盛りを見る事ができるだろうか、今年の具合は例年に比べてどうだろうか」と一憂一喜する。ひと雨ごとに寒気が大陸から日本列島へ押し寄せて、季節の深まりは植物の垂直分布の階段を駆け降りてゆく。

燕岳から東鎌尾根を経て槍ヶ岳へ登り、西鎌尾根をたどって鏡平へ抜ける山行を無事終えてこの文章を書いている人が、歩きながら北穂高岳や槍沢へ多くの人を案内した昨年の秋山を思い出す。天候に恵まれたこともあるが、久しぶりにその見事さに感動した。昔と何が違うのか、考え込んでしまった。

夏山以上に秋山での初アルプス登山の洗礼は強烈だ。朝夕の寒さや雨の日の厳しさには不安になるが、それ以上

に亜高山帯の鮮やかな紅葉や高山帯を覆う新雪の風景はこの世のものとは思えないくらいに印象的であり、すこしオーバーかもしれないがそれまで生きてきた世界にない、想像を超えた信じがたい風景に思える。山に慣れてくると、我らのものならぬこうした風景は決して別世界のものではなく、私達の住む温帯の隣に広がる亜寒帯のものでとわかる。

登山は向上心にあふれているときは楽しいが、気持ちを守りに入ってしまったと辛いものだ。私達の住む場所とすっかり気候の違うアルプスの登山は、山という自然との厳しい闘いにちがいない。こうしたときにいつも思い出するのは、無謀とも思える初心者であった頃のことだ。長く登山をしていて、危ないと思う瞬間を経験していない人は、運がよかったり、手をさしのべてくれる人がいたから今日の私があることはまちがいない。そうしたことから、この人は登れるかなと思う人がいても、

山頂へ立ちたいという思いが純粋で現実であれば、私は喜んでその手伝いをしたいと思ってしまうのだ。そして、そうしたときの高山の紅葉は、その人にはひときわ強烈なインパクトを与え、私自身もこうした役回りのときのほうが印象に残るような気がする。

紅葉第二幕は森林限界を超えない峰々の全山紅葉。ここでは何と云っても日本海側から中央分水嶺にかけての低山が舞台となり、主人公はブナ林となる。ブナ帯の高度と一致する山の季節ともいえるだろう。秋が深まると雨の後は、気圧配置は弱いながらも一時的に冬型となることが多く、冷え込みとともに黄葉は彩りを増す。その後に見られる移動性高気圧の秋空のもとで見られるブナ林の全山紅葉は、高山の非日常的な美しさとは違って、生きものを育む自然を身近な裏山感覚で楽しむことができ、歩を進めることに心が和むのがわかる。高山の自然ばかりが、私たちが住む里山近くの山もまた違った意味ですばらしいものだ。



栗尾岳

私は中央分水嶺の山や峠に魅せられてきた。日本海や太平洋に流れ出る川の水源地帯であり、自然が最も残るエリアである。さらに、塩の道や北前船の荷物を運んだ道が越える山に生きてきた人達の足跡は、よほどのことがないかぎり森林限界を超えることはない。日本全体から見ると、私達が憧れるアルプスや八ヶ岳などは特別な存在で

あって、無限江山と呼ぶにふさわしい森の山が限りなく広がっているのがわかる。

こうした森の山を訪れると、多くの人は圧倒的な自然の前に何とか早く抜け出したいという気持ちになりがちだが、山に生きた人達の歴史を知れば、さらに路傍に残る痕跡を見つけたことができれば、私達が進む道を歩いた先人の存在は心強く思え、そうすると深い森にも親しみがわき、それは敵対する存在ではなく私達を守ってくれる存在として感じるようになるのである。

中央分水嶺とともに離島にある山も興味深い。島は孤立した存在であり、時代がどんなに変わっても山に生きた人達が多くいた頃の面影を色濃く残しているからだ。敬愛する山の大先輩のひとりがある。移り住むなど、何かと縁があって、屋久島にはこのところ毎年のように訪れている。

だれもが憧れる亜寒帯から温帯の鬱蒼とした樹林で覆われた屋久島の山岳だが、私にとってそうした歴史や人が

住んでいるからこそ、自然がいっそう魅力的となり特別な存在となっているような気がしてならない。宮之浦岳をはじめとする奥岳を登るとき、あの満ち足りた気分はほかではなかなか味わえない。

その屋久島だが、私は晩秋の頃が特に気に入っている。最近でこそ多くの人がこの季節に訪れるようになったが、驚くほど山は静かで、紅葉する落葉樹が少ないもののナナカマドなどが寄生するヤクスギを見れば、一本の巨樹がさながらひとつの世界を凝縮しているようで、全山紅葉とはまた違った意味で見応えがある。

紅葉とは、一年の総決算としての姿であり、来春に向けて準備する姿。この両面から眺めるうちに私の内面からも様々な思いがよぎって、決して見飽きることはない。今年もまた新たな紅葉との出会いが楽しみだ。

(里山シリーズ53 湖北町・高月町)

昔人の遺跡と城跡探訪

西野水道と山本山

一般コース(★★)

長宗 清司

JR北陸本線高月駅の駅前が整備されて、バスの出入りが自由になった。

町内を巡回するコミュニティバスは南回りと北回りがある。いずれにしても西野水道に近い「柳野中バス停」で下車する。余呉川畔に出て右岸堤を下流に向かう。

西野水道は、余呉川下流域が毎年のように洪水に見舞われ、特に天明三年(1783)、さらに文化四年(1807)の大洪水で大飢饉となったのを機に、充滿寺住職恵上人の指導のもと、天保七年(1836)に工事を決意し、同十一年(1840)7月から工事を開

んで心地よい風に吹かれる。
帰路は、二本目の水道を抜け、出発点の小公園に戻る。ここから、山裾を北に向かう。
余呉湖を懐に抱く賤ヶ岳から南に派生した尾根の延長、西野山から山本山へ取り付く。昔はマツタケ山の関係で入山できなかったこの山域も、近年は「近江湖の辺の道」として整備され、遊歩道として一般に開放されている。
今回は、この尾根を南下する。このあたり琵琶湖の湖上交通を掌握してい

西野水道入口



始し、艱難辛苦の末、約6年かかって高さ22m、幅1.2m、長さ2200mの水道を、弘化二年(1845)9月、掘り抜きを完了した。
現在は、滋賀県の指定文化財に認定され、一般にも無料開放されている。
入口近くで、用意されたヘルメットをかぶり、長靴を履き、懐中電灯やヘッドランプを点灯して水道内に入る。頭上や両側の岩間から水がしたり落ち

た豪族の墓とみられる古墳(古保利古墳群)が約3kmに渡って分布している。前方後円墳・後方墳など三十二基。全長70m以上の大きなものや様々な形の古墳が多く集まっていて、全国でも屈指の古墳群として注目され、国の史跡に指定されている(ただし、遊歩道からはその全容はうかがえない)。
湖畔にそそり立つようにのびる尾根に湖水で冷やされた風が吹き上がってくるので、真夏でも涼しく、木蔭の多い山道は快適で癒される。
山本山の頂は城跡である。平安末期から戦国時代にかけて、地方武士の本拠地となった山城だが、特に近江源氏の一族山本義経の居城として知られている。
頂上近くの展望台からの眺めはすばらしい。昔は、葛籠尾崎と地続きだったとうかがえる竹生島がボツと湖上に浮かび、湖面の静波と眼下の尾上漁港や緑うつ稲田とのハーモニーは名画を鑑賞している気分になれる。
下山は、二の丸跡、三の丸跡を経て、

山本山展望台からの眺望



て、さすがに涼しい。屈んでも時々ガツンと天井の岩にヘルメットが当たり、思わず首を引っ込める。足元がアコボコで不安定なのは、一日6時しか掘り進めなかった固い岩盤をものがたっており、昔人の苦勞が偲ばれた。
琵琶湖岸に出ると、今は三代目となるトンネルから勢いよく流れ出る水に、大勢の人が釣糸を垂れていた。渚に打ち寄せる静波、クルミの木蔭にたたず



た豪族の墓とみられる古墳(古保利古墳群)が約3kmに渡って分布している。前方後円墳・後方墳など三十二基。全長70m以上の大きなものや様々な形の古墳が多く集まっていて、全国でも屈指の古墳群として注目され、国の史跡に指定されている(ただし、遊歩道からはその全容はうかがえない)。
湖畔にそそり立つようにのびる尾根に湖水で冷やされた風が吹き上がってくるので、真夏でも涼しく、木蔭の多い山道は快適で癒される。
山本山の頂は城跡である。平安末期から戦国時代にかけて、地方武士の本拠地となった山城だが、特に近江源氏の一族山本義経の居城として知られている。
頂上近くの展望台からの眺めはすばらしい。昔は、葛籠尾崎と地続きだったとうかがえる竹生島がボツと湖上に浮かび、湖面の静波と眼下の尾上漁港や緑うつ稲田とのハーモニーは名画を鑑賞している気分になれる。
下山は、二の丸跡、三の丸跡を経て、

マツ林のなかに幅2mの整備された山道に出て羅漢さんに出会ったり、山本判官古城址の石碑などを見て、朝日山神社前の小学校脇に出た。山本集落のバス停からマイクロバスで、町内を巡回のち、JR河毛駅に向かう。
(平成19年7月30日歩く)

《コースタイム》

- JR高月駅(バス30分)柳野中バス停(20分)西野水道入口(10分往復)古保利古墳群地(1時間30分)山本山山頂展望台(45分)山本バス停(バス40分)JR河毛駅
- △地形図▽
- 2万5千竹生島・虎御前山(問い合わせ先)
- 高月町役場(観光協会)
- ☎0749 (85) 64005
- JR高月駅 ☎0749 (85) 20003
- 河毛駅コミュニティハウス
- ☎0749 (78) 2280
- 伊香交通 ☎0749 (85) 2036
- 近江タクシー
- ☎0749 (78) 0106

松尾坂から高祖谷魔駅を 経て比叡山頂へ

一般コース(★★)
松尾 一郎

叡電八瀬比叡山口駅から松尾坂を経て西山峠に登り、四明ヶ岳北面より派生する急坂の尾根に取り付き、戦前に運行されていた比叡山参詣ロープウェイ(高祖谷延暦寺(西塔)間)の高祖谷魔駅(注1)に立ち寄る。さらに尾根道をたどって旧スキー場跡から大比叡に達するコースを案内する。

婦路は大比叡より雲母坂にくだって西進し、「鎮護国家」碑より廃止されたロープウェイ反対側西塔付近の延暦寺魔駅(注2)の残骸を見る。あとは八丁林道を経て西山峠に戻り、再び松尾坂をくだって八瀬に帰ってくる。

このコースは、八瀬→西山峠、スキー場跡→比叡山頂間は問題ないが、登路の西山峠→高祖谷魔駅→旧スキー場跡間は道標も無く、踏跡の不鮮明な所も多い。ルート選びに地形図・コンパスが必須である。

叡電八瀬比叡山口駅を出て、高瀬川に架かる木橋を渡り、叡山ケーブル八瀬駅たもとの四辻を右に入ってケーブル沿いの舗装された坂道を登って行く。最初の左分岐(電柱に標識がかかっている(注3))が松尾坂登り口である。地道の広い水平道を休耕田を左に見下ろしながら進むと、朽ちかけた木橋を渡り、急坂を登ると京都精華女子校グラウンドが左に現れる。

グラウンドのフェンス沿いの松尾坂の登山道に分け入る。しばらく登れば、左にNTTの中継施設を見てゆるい尾根道を登って行くと、左に「淨利結界趾」碑が現れる。さらに薄暗い常緑樹林に覆われた登路を行けば、道の真ん中に地藏さんが鎮座している。地藏を

松尾坂登り口分岐/左が松尾坂道(電柱に標識あり)



やり過ごし、ゆるやかなジグザグ道を行けば、やがて尾根から外れて斜面をトラバースする道となる。杉植林のなか、水平に近いならだらの坂道を行き、急坂を登りつめれば西山峠(道標なし)の四差路に着く。まっすぐ(東)くだればすぐその下で八丁林道に出合い、林道を右に進めば西塔から雲母坂を経



て比叡山頂へ行ける一般ルートだ。左(北)へは西山のピーク(559m)、三角点なし)で僧侶の墓地で行き止まりだ。さて、高祖谷魔駅へは西山峠より右(南)の坂道を登って行く。初めはそれほどでもないがすぐに急坂となる。呼吸を整えながら登って行こう。下りのほうが厳しいような急坂だ。10分足らずで勾配も和らぎ、広い尾根となる。踏跡を見失わないように慎重(注4)に進もう。再び急坂となるが、先ほどのようにきつくはなく距離も短い。やがてゆるくなつて左へ廻り込むようになる。八瀬・高野方面の見通しのよい吊り尾根状の場所に着く。

尾根を渡り切るとツガの大木が右側に現れ、少し登るとツガの大木が数本あり、左の小高い丘のツガの巨木の奥に旧ロープウェイ「高祖谷魔駅」の屋根が見える。ツガの小丘に登ると、60年余の風雪に堪えてきた、高祖谷魔駅の全容が姿を現す。相当劣化し色褪せ、屋根も吹き飛んでいる。しかし、昭和初期のデザインのアーチであしらえた窓や出入口など、優雅でレトロなたたずまいは健在だ。ホームも当時のままで手入れされていないのによく原形が保たれている。ただ、金属系ものは昭和19年の戦時供出でほとんど剥がされておられ、売店・休憩棟は倒壊寸前で近寄れない。盛夏の時は雑草に覆われており、探勝時期は晩秋から梅雨入り前までに限られる。



旧ロープウェイ高祖谷鹿駅の全容

四明ヶ岳(8383)の展望台が遠望でき、雲母坂を左に進めばつつじヶ丘(北山トレイル)と北山トレイル(北山トレイル)で、季節にはミツバツツジが満開だ。次いで展望所のある四辻(道標あり。北山トレイル)に着く。大原・比叡北稜方面の展望を楽しんだ後、山頂へのゆるいジグザグ道を登り、やがてロープ

ウェイ比叡山頂駅からのフェンス沿い舗装道に合流し、左へ行けば比叡山頂駐車場に着く。

前方(東)にこんもり見える大比叡へは車道沿いの歩道を進み、やがて工事用車道と合流して坂道を登って行けば、右への山道(道標なし)に入ると左に曲がり、スキの原を登り切ると巨大な四角い貯水槽が現れる。その手前の小高い丘が大比叡(8483)で、一等三角点(山頂)である。残念ながら樹木が茂り眺望は期待できない。

下山は山頂を東方向に貯水槽沿いに進み、二基のテレビ中継塔を右に見てくたつて行けば、N.T.T無線中継所がある。その左隣(北)の小道をとんとんくたつて行くと、道はT字状分岐(道標なし。旧石碑あり。まっすぐくたれば円珍墓を経て坂本ヶ池)にさしかかる。ここを左へ曲がって杉の巨木の多いジグザグ道をくだつて行けば、東塔の端にかかり階段を下りれば数基の鎮魂碑が現れ、さらに曲がり道をゆつくりくたつて行き、東塔法華経持院の朱塗り

の回廊を右にかすめ、木戸(拝観料徴収所)の所で雲母坂に合流する。さらに雲母坂を西へ進めば西塔への陸橋(北山トレイル)を右に分岐し、なおも坂道を登りつめると、「国家鎮護」碑前のT字状の三差路(北山トレイル)へ着く。旧ロープウェイ延暦寺鹿駅へはここを右(北)に入り、ゆるい坂道をくだつて行けば、ツタや紫みに覆われた旧ロープウェイ「延暦寺鹿駅」(道の右側)前に着く。延暦寺鹿駅はまるで廃墟のようで一部は取り壊されており、見るも無残な姿を曝している。高祖谷方面を見通しても弊みが邪魔して見えない。

延暦寺鹿駅を後にして、山道をまっすぐくたればドライプウェイ西塔からの八丁林道(未舗装)に合流する。林道は一部伐採された所から、大原方面の見晴らしが良い。だからだるく八丁林道もヘアピンカーブを過ぎるとゆるくなり、やがて八丁谷源流出合に着く。ここから左へ登る小道が松尾坂への下山口(道標なし)である。八丁林

道はすぐこの先で行き止まりだ。左の細い山道に取り付き、ぐんぐんとつつ折を登って行けば数分で西山時に着く。後は松尾坂をくだれば八瀬に下り着く。

(平成21年4月18日・29日、6月19日歩く)

☆コースタイム

叡電八瀬比叡山口駅(4分)ケーブル八瀬駅(15分)松尾坂登り口(5分)女子校グラウンド(松尾坂1時間)西山峠(25分)高祖谷鹿駅跡(1分)旧ケーブル道分岐(10分)旧スキー場跡(雲母坂3分)つつじヶ丘(5分)展望台(四差路)(12分)比叡山頂駐車場(10分)大比叡(10分)坂本ヶ池分岐(15分)雲母坂木戸(料金所)(15分)鎮護国家碑(5分)延暦寺鹿駅跡(八丁林道20分)八丁谷源流出合(4分)西山峠(松尾坂45分)松尾坂登り口(12分)ケーブル八瀬駅(4分)叡電八瀬比叡山口

(注1)戦前の比叡山ロープウェイ(高祖谷・延暦寺間)傾斜長642m、高低

差22m。当時は「空中ケーブル」と称す。は叡山参詣用として、八瀬ケーブル山上駅(当時は「四明ヶ岳」と延暦寺(西塔)を結ぶアクセスとして建設された。このロープウェイは三線交差式を採用し、わが国では最初の本格的旅客用索道であり、昭和3年10月に開業した。ただ、ケーブル四明ヶ岳駅とロープウェイ高祖谷駅との間は約500m離れており、乗り継ぎの乗客は専用の連絡道(水平路)を歩いていた。叡山参詣にそこそこ繁盛していたが、大戦末期の昭和19年に入って鉄材の戦時供出により廃止された。

(注2)西塔近くの元三大師道に所在したが、昭和19年に鉄材供出として廃止された。東塔へは雲母坂道を歩いて行った。

(注3)舗装路をまっすぐ登ってしまおうと、八瀬野外保育センターに着く。

(注4)特に下りコースの場合に迷いやすい所で、左へ廻り過ぎると踏跡を見失う。

(注5)旧ロープウェイ高祖谷鹿駅から現

ケーブル・ロープウェイ比叡駅への旧連絡路は、山腹を掘く水平道で分岐の先で道幅は元どおり広く残っている。一部踏跡が崩れ草木が茂っているがおむね歩きやすい道である。旧スキー場からの放水路(通常は水流なし)を渡って、現ケーブル・ロープウェイ比叡駅の直前で水平路は草木に覆われ崩落しており、杉植林のなかをロープに伝って10m近く下り、下の小道をそのまま前へ進めば現ケーブル・ロープウェイ比叡駅に着く。

*高祖谷鹿駅(山頂道分岐)(5分)放水路(7分)麻ロープ下降点(3分)ケーブル(現ロープウェイ)比叡駅

(注6)ここ(北山トレイル)から大比叡をショートカットして、旧ロープウェイ延暦寺鹿駅へ直接行くことができる。雲母坂を「鎮護国家」碑(北山トレイル)の三差路まで東進し、そこを左(北へ)へくだれば15分程度の行程。

*北山トレイル(10分)北山トレイル(5分)延暦寺鹿駅跡(タイム52分の短縮)

やせらび

山に関する最新の情報をお寄せください。
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 故 小林瓊瑛三

夏、映画「銀岳・点の記」を観てすばらしい出来映えに感動した。私は映画少年で昔は「キネマ旬報」を読んでいたが、年とともに暗い中じっとしていられなくなり、映画館から遠ざかっていったが、家内もせひ観たいと言おうので出かけた。

原作者は新田次郎で帰宅後、昭和52年発行の古い彼の本を家内と読み返してみた。後記も含め、改めて深い感動を覚えた。私は、五十六年前の昭和28年に銀岳登山を経験している。当時、大学の四年生であり、学友

2人と共に銀岳へ登山した。

前日に別山から眺めた銀岳は威容で厳然とそびえており、その雄姿に3人共が昏暈の淵息を漏らした、と日記に記している。しかし、その登りは実に厳しく、友人のひとりとは腰の横道いに差しかかると、「怖いから帰ろう」と言いだす始末。私は「ここまで来たのに何を言うのだ」と、尻を叩いてその難所を何とか乗り越えた。どうにか頂上に到着し、記念写真を撮ってゆっくりしたが、その間に全面の霧が晴れ、私達が登って来た登山

道を見下ろすようになった。それを眺めて我々はあつと息を呑んだのである。実に美しい急斜面であった。

後年（平成13年）、家内を案内して立山へ行き、巖山神社へ参詣した。彼女は、その時に銀岳のことを知ったので映画に注目したのであった。

（岐阜市 栗谷 忠）

最近では近くの里山を主に歩いている。里山のほうが花の種類も多く、温泉もあっていろいろ発見できる。蔵山・希望ヶ丘山系・蔵山・津田山などを歩く。

春にはハルリンドウ・トキノウ・カキラン・キンタン・ササユリ・キンコウカ・イチヤクソウ・サギソウなどがあり、四季を通じて楽しんでいく。

ハッチョウトンボが気になり、2年程探してみると、希望ヶ丘東口近く、花緑公園、モトクロス山に2ヶ所、ややうみ坂登り口、のどの千軒、そして蔵山山麓と七ヶ所で発見できた。オスは真赤でメスは茶色、体

長13cm程で小さいが灼熱のなか尻をピンと立てて止まっているのは絶品だ。ほかに越冬するといわれるホソミオツネトンボも探している。

今年一番の発見は、永源寺の道路脇に崖から垂れ下がったイバラが大きな花を咲かせていたことだ。調べてみるとヤマイバラとわかった。山地の岩場にまれにあるバラ属のヤマイバラで白い花は4-5cmですばらしい香りがした。ほとんど知られていない貴重な花が、普通道路脇に咲いているとは思っていませんでした。

（近江八幡市 岩野 明）

6月27日、念願の北岳に行きました。大滝沢の登りで雪が多く両足が壁をアクシメントに見舞われた。初めての経験で、冷えと、もう年なのだと思知らされました。4年越しの北岳ではキタダケソウが満開でした。しかし、小屋の人がキタダケソウの生えている場所に靴が入ったのを見たとき、後日聞き、キタ

ダケソウが食べられたら来年の花がどうなるのかと心配です。

7月4日、仙丈ヶ岳に行きました。駒仙小屋に17時までに帰る必要からゆつくりとは歩けなく、ガスで見明らかにも良くなかった。

5日、甲斐駒ヶ岳に行きました。長衛祭の記念登山の人が大勢で大混雑し、同行者がひとり山頂に行けずに戻り、その方とは秋に再チャレンジしたい。

（滝津市 山田勢子）

6月6日、富士見台に行き、横川山に縦走。一部の人は南沢山と神坂山まで行った。

7日、例会で焼山に行った。峠からはずっとやぶで息が抜けず、踏跡のよくわからない不明な所があり、先頭を交代しながら歩いた。

13日、奈良の観音峰に行った。展望台から見えた大峰の山々には、来年に泊まりがけで行くことにしよう。

15日、脚池岳散策。久しぶりにひとりではぶらぶらとした。今

年60歳になり時間ができた。

19日、千回沢山への下見でハレ時まで行った。峠の先、トガス方面に道はあったが熊の足跡もあって引き返した。徳山グム奥の、水汲しなかつた門入方面には踏跡がしっかりとあり、1時間ほどでくだり、門入に入っているのがわかった。

20日、笹ヶ峰に挑戦する。取り付く予定の尾根手前で水が多く、ゴルジュに阻まれて尾根に取り付けず撤退した。秋に再挑戦する。

27、28日、念願の北岳に行った。キタダケソウは満開だったが雪が多く雪渓には疲れた。私とかみさんも足が疲れたので、間ノ岳は止めに下山した。

7月4日、仙丈ヶ岳に行った。ガスはあったが雨は降らず、花もまずまずだった。

5日、甲斐駒ヶ岳に行った。長衛祭の後で記念登山の人が100人以上いた。11日、戸倉山（二等）へ例会で行く。中央アルプスと南アルプスがよく見えた。

12日、甲斐駒ヶ岳の南、アサヨ峰（300名山）へ行った。途中の栗沢山も展望は360度、日本中央部の主な山々が眺められ、アサヨ峰からは富士山も見えた。

18日、大川入山にアララギスキー場から行ったが、ササが道を覆っていて濡れた。

20日、三ノ沢岳に行った。中央アルプスロープウェイが大混雑で、歩いた時間より待つ時間（5時間）が長かった。

22日、夏焼山に行く。御料局三角点が山頂にあった。

25日、松川の島帽子岳の予定だったが、天候不良で三因山（長野・愛知・岐阜県境、天狗棚、井山と変更して歩いた。

31日、足慣らしに「海上の森」を歩いたが、早めに雨が来た。

（滝津市 山田勢子）

この度、私も後期高齢者の仲間入りしましたが、体力、認知の事情により新ハイキング関西の例会リーダーを本年限りで辞退することにしました。

平成13年11月23日の湖北武奈ヶ岳例会からリーダーを務め始め、当初は多少ハードな中級者向きと見て、奥美濃、若狭の山で例会を実施しましたが、最近では体力の低下を感じ始め、平成19年春から奥山大先輩の「一校者向きの例会（北山ちよつと歩き）」を引き継ぎました。

文字通りちよつと歩きにて体力的には大したものではないと高を括って務めました。これとでも山行後の体力および精神的疲労が残るまで残るようになり、ことに体力は年齢に正直でいくから力んでも寄る年後には争えませんが、今日まで幸いに大過なく務められたのは、多くの会員諸氏のお陰と感謝しております。

こころあたりを潮時と考え、引退を申し出た次第です。今後には新ハイキング関西の会員として、例会に参加する所存です。従来通りのお付き合いをよろしくお願いします。

（京都市 金谷 昭）

山行計画
(11・12月)

新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一枚)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなかった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(在行日毎りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)
 ・入院保険金 金額 1000万円
 ・死亡・後遺障害保険 金額 3000万円
 ・通院保険金 日額 3000円

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があるります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日必ず記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐにご返信ください。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断させていただきます。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めていきます。
 (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 (難脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長くてコース(6〜7時間コース)
 (難脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ過ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください。(係から連絡はしません)。降雨山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようにお願いします。

11月	行先	定員	リレーガイド
1日(日)	鈴鹿・横根連絡	*	岩野
3日(火)	比良・堂満岳・八雲ヶ原		村田
7日(土)	三河・善徳石山	10	鷺見
7日(土)	京都北山・鞍馬山・京都古事・森		村田
8日(日)	鈴鹿・鍋煎山	24	森脇
8日(日)	台高・伊勢江山・地蔵谷頭	26	西上
8日(日)	東濃・三園山	10	山田
12日(木)	台高・両佛山・峰山	26	西上
14日(土)	湖西・愛発越・黒河峠	24	狩野
14日(土)	湖北・布袋岳		高島
15日(日)	鈴鹿・リョウシ	*	岩野
15日(日)	比良・打見山・堂満岳		桑
15日(日)	湖北・行市山・玄菟尾城跡	40	村田
18日(水)	湖南・岩根山(十二坊)		金谷
19日(木)	大峰・黒文字尾根・種村ヶ岳	26	西上
21日(土)	雲濃・細杖ヶ岳	*	桶垣
22日(日)	京都北山・中山谷山・奥の谷山	40	村田
24日(火)	京都北山・天ヶ岳・焼杉山		仲谷
26日(木)	奥高野・城本山	26	西上

*リレーガイドは山行

12月	行先	定員	リレーガイド
5日(土)	敦賀・三内山		高島
5日(土)	湖北・己高山	24	狩野
5日(土)	伊賀・豊山		村田
6日(日)	鈴鹿・三角点(水津点)探し	25	山田
6日(日)	播磨・長水山	24	須野賢
6日(日)	鈴鹿・静ヶ岳・セキノコバ	*	岩野
10日(木)	大峰・天竺山	26	西上
12日(土)	美濃・各種原権理山	10	鷺見
12日(土)	台高・勤岳・明神平	24	村田
13日(日)	湖北・興枯ノ峰	40	森脇
13日(日)	奥高野・点名「黒子」	26	西上
16日(水)	京都西山・松尾山・嵐山城址		金谷
17日(木)	大峰・高野辻・唐笠山	26	西上
20日(日)	鈴鹿・西山・九茅山	*	岩野
22日(火)	京都北山・滝谷・愛宕山		仲谷
23日(水)	奥六甲・落葉山・灰形山・湯種谷山		村田
24日(木)	台高・白屋岳	26	西上
27日(日)	室生・長谷寺・室生寺		村田

*各計画の概要は次ページ以降で紹介している。

鈴鹿を歩く320
横根連峰 (二較向き)

11月1日(日) 日帰りマイカー
集合 河内線風穴手前寺院広
場8時00分
行程 広場(車)権現谷林道
—ツツロ坂峠—横根最
高点—西横根—横根—
五僧—広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・靈
仙・伊吹」
係 ◎岩野 明○山田景三

申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ツツロ坂峠から横根連峰、
五僧へと紅葉の稜線を楽しみ
ます。雨天中止

比良
堂満岳から八雲ヶ原
(中較向き)
11月3日(祝) 日帰り

集合 JR比良駅9時00分
行程 比良駅(タクシー)イ
ン谷口—板のコーパノ
タノホリ—東横道—堂
満岳—金養峠—奥の深
谷—八雲ヶ原—北比良
峠—ダケ道—カモシカ
台—大山口—イン谷口
—比良駅(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

紅葉の比良へ。堂満岳から
八雲ヶ原を散策し、ダケ道
をくだる(特集18ページ参照)。
雨天中止

自然観察山行272
三河・善盤石山(二較向き)
11月7日(出) 日帰り レンタカー
集合 JR岐阜駅7時30分
行程 岐阜駅(車)茶臼山高
原道路駐車場—木戸洞

峠—善盤石山—天狗の
庭—善盤石山—木戸洞
峠—駐車場(車)岐阜
駅(解散)

費用 約6000円(岐阜駅
からレンタカー代等)

地図 2万5千—田口・根羽
◎鷺見守康

申込 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員10名(申込状況に
より減員あり)

善盤石のような奇岩の点在
する草原から重畳たる山並を
楽しみます。小雨決行

の根道—西門—貫船神
社—京都古事の森—展
望エリア—ゲート—相
生杉—貫船口駅(解散
15時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千—大原
係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

紅葉の始まった鞍馬、貫船
を歩く。「京都古事の森」は、
鞍馬山国有林に文化財修復の
ための材木を育てるために最
近に設けられた森で、その周
回ルートをめぐる。小雨決行

近江の山シリーズ27
鈴鹿・鵜尻山 (二較向き)
11月8日(日) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時
30分
行程 京都駅(バス)あけん
原登山口—ダケノ峠—
鵜尻山—保月—ダケノ

05分
行程 権原神宮前駅(バス)
和佐羅滝口バス停—三
度辻小屋—伊勢辻分岐
—伊勢辻山—伊勢辻分
岐—地蔵谷頭—地蔵谷
尾根—木原林道—滝見
展望所(バス)権原神
宮前駅(解散17時)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千—大豆生

申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

紅葉の稜線をたどり、展望
の良い伊勢辻山からブナの原
生林が残る地蔵谷をくだりま
す。小雨決行

展望の山62
東濃・三国山 (健脚向き)
11月8日(日) 日帰り
集合 JR勝川駅7時00分
行程 勝川駅(車)御膳野—

鞍掛林道—鞍掛峠—三
国山—(往路)—御膳
野(車)勝川駅(解散
19時)

費用 約3000円(車代)
地図 2万5千—加子母

申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の
19 山田明男まで
*定員10名程度

旧三国(飛騨・美濃・信濃)
境の三国山で岐阜の三国境は
これで終了。時間があれば隣
の白草山へも行きたいが、三
国山へはやぶです。雨天中止

台高・阿佛山から峰山
(中較向き)
11月12日(祝) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄権原神宮前駅8時
05分
行程 権原神宮前駅(バス)
NTTゲート前—地蔵
辻—阿佛山—大天狗岩
—峰山—ケーブル中継
塔—中奥(バス)権原

神宮前駅(解散17時)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千—大和柏木、
大豆生

申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(全員に履き)

阿佛山を起点にして小天狗
岩や大天狗岩のやせ尾根を縦
走します。小天狗岩からはる
か遠くに台高南部の山並も望
めます。雨天中止

週末ハイイク97
高鳥トレイル①
湖西・愛発越から黒河峠
(二較向き)
11月14日(出) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス)国境ス
キー場—愛発越—乗鞍
岳北尾根—乗鞍岳—電
波塔—芦原岳—狼ヶ馬

台高
伊勢辻山から地蔵谷頭
(二較向き)
11月8日(日) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄権原神宮前駅8時

11月8日(日) 日帰り
集合 JR勝川駅7時00分
行程 勝川駅(車)御膳野—

11月12日(祝) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄権原神宮前駅8時
05分
行程 権原神宮前駅(バス)
NTTゲート前—地蔵
辻—阿佛山—大天狗岩
—峰山—ケーブル中継
塔—中奥(バス)権原

11月14日(出) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス)国境ス
キー場—愛発越—乗鞍
岳北尾根—乗鞍岳—電
波塔—芦原岳—狼ヶ馬

場―黒河峠―マキノ林道―白谷(バス) 京都駅(解放18時30分頃)費用 約3000円(バス代)地図 昭文社「比良山系」係 ◎狩野東彦
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで

4月に雨天中止した高島トレイルの始点愛発越からのコースを歩きます。雨天中止

湖北の山 布袋岳 (一般向き)
11月14日(日) 日帰り
集合 高島市朽木支庁10時00分
行程 朽木支庁(車) 天増川口バス停―布袋岳―(往路)―天増川(車) 朽木支庁(解放)
費用 交通費各自
地図 2万5千 熊川 係 ◎高島伸浩

11月15日(日) 日帰りマイカー
集合 河内線風穴寺前寺院広場8時00分
行程 広場(車) 権現谷白谷 橋広場―リョウシ―岩峰―滝谷出合―重谷―横道―長サコ―権現谷―広場(解放)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
係 ◎岩野 明◎山田景三◎後藤康幸
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで
5月雨で中止した山行。道

申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで
高島鉱石の採石場はグラウンドキャニオンの中を歩いているようです。雨天決行

鈴鹿を歩く321 (熊野向き) リョウシ
11月15日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅9時00分
行程 志賀駅(バス) びわ湖パレイ前(ロープウェイ) 打見山―汁谷―木戸峠―比良岳―葛川越―鳥谷山―荒川峠―南比良峠―堂満岳―ノタノホリ―桜のコバ―比良駅(解放16時30分頃)
*歩行5時間30分
費用 約2500円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込 〒610-0121

比良を歩く79 打見山から堂満岳 (一般向き)
11月15日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅9時00分
行程 志賀駅(バス) びわ湖パレイ前(ロープウェイ) 打見山―汁谷―木戸峠―比良岳―葛川越―鳥谷山―荒川峠―南比良峠―堂満岳―ノタノホリ―桜のコバ―比良駅(解放16時30分頃)
*歩行5時間30分
費用 約2500円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込 〒610-0121

の無い岩場を登り、苔むした岩稜をリョウシの岩峰へ。下りは旧シユリノサコの杉林を一気に権現谷にくだります。雨天中止

比良を歩く79 打見山から堂満岳 (一般向き)
11月15日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅9時00分
行程 志賀駅(バス) びわ湖パレイ前(ロープウェイ) 打見山―汁谷―木戸峠―比良岳―葛川越―鳥谷山―荒川峠―南比良峠―堂満岳―ノタノホリ―桜のコバ―比良駅(解放16時30分頃)
*歩行5時間30分
費用 約2500円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで
堂満東稜の紅葉・黄葉が楽しめます。雨天中止

湖北 行市山から玄蕃尾城跡 (中級向き)
11月15日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口7時40分
行程 京都駅(バス) 毛受見 弟幕―行市山―泉境尾根―刀根越―玄蕃尾城跡―柳ヶ瀬(バス) 京都駅(解放18時)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 中河内・木之本
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで
*定員40名
行市山から泉境尾根を縦走し、玄蕃尾城跡を訪ねる。(特

11月15日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅9時00分
行程 志賀駅(バス) びわ湖パレイ前(ロープウェイ) 打見山―汁谷―木戸峠―比良岳―葛川越―鳥谷山―荒川峠―南比良峠―堂満岳―ノタノホリ―桜のコバ―比良駅(解放16時30分頃)
*歩行5時間30分
費用 約2500円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込 〒610-0121

集14ページ参照 雨天中止

北山ちよつと歩き113 湖南・岩根山(十二坊) (一般向き)
11月18日(日) 日帰り
集合 JR甲西駅9時10分発
下田行バスに乗り
行程 甲西駅(バス) 岩根―花園―岩根磨崖不動明王―十二坊―東屋―八大竜社―笠岩―山中ひばりヶ丘(バス) 甲西駅(解放15時30分頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千 野洲・三雲 係 ◎金谷 昭◎谷 守◎磯部 純
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで
史跡が多く展望の良い里山歩き(山中の温泉に入浴可)。雨天中止

大峰 黒文字尾根から稲村ヶ岳 (中級向き)
11月19日(日) 日帰り
集合 近鉄榎原神宮前駅8時05分
行程 榎原神宮前駅(バス) 岩本谷―黒文字尾根―稲村ヶ岳―山上辻―レングヅ辻―清浄大橋(バス) 榎原神宮前駅(解放17時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 弥山・洞川 係 ◎西上和
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで
*定員26名(全員に履き
紅葉の登山を望みながら、ゆつくりと黒文字尾根を登ります。四方遠るものない稲村ヶ岳から極上の秋景色を見るのを期待します。小雨決行

三重の山106 雲漢・錦杖ヶ岳 (一般向き)
11月21日(日) 日帰り
集合 錦杖峠(湖本荘)前
9時00分
行程 ふれあい公園(車) 下之垣内(車) 東登山口―尾根取付―西登山口―分岐―錦杖ヶ岳―西登山口―分岐―本寺西登山口(車) ふれあい公園(解放15時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千 平松 係 ◎稲垣逸夫
申込 〒519-0311 鈴鹿市大久保町206 5 稲垣逸夫まで
360度の眺望絶佳。雨天決行

京都北山歩き135 五波峠から 中山谷山・奥の谷山 (一般向き)
11月22日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口7時40分
行程 京都駅(バス) 五波峠―尾根分岐―中山谷山―P766―P743―作業道終点―奥の谷山―作業道終点―五波谷林道―田歌(バス) 京都駅(解放18時)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで
*定員40名
晩秋の北山奥地のブナ林の尾根をたどって三等三角点の二峰を訪ねる。尾根に点在するブナはすばらしい。小雨決行

11月22日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口7時40分
行程 京都駅(バス) 五波峠―尾根分岐―中山谷山―P766―P743―作業道終点―奥の谷山―作業道終点―五波谷林道―田歌(バス) 京都駅(解放18時)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで
*定員40名
晩秋の北山奥地のブナ林の尾根をたどって三等三角点の二峰を訪ねる。尾根に点在するブナはすばらしい。小雨決行

火曜ハイク64
京都北山
百井谷から
天ヶ岳・焼杉山(二般向き)

11月24日(火) 日帰り
集合 飯鞍電馬駅9時10分
行程 鞍馬駅―扶桑橋―百井谷―天ヶ岳鉄塔―焼杉山―大原(解散16時頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
草ぼうぼうの百井谷から天ヶ岳鉄塔へ、秋の北山を歩いてみます。雨天中止

奥高野・城本山(初級向き)
11月26日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス) 天狗木峠―鐘割辻―城

画です。初冬の湖北の山を歩き、下山後、入浴・忘年会を開催します。雨天決行

金曜里山ハイキング23
伊賀・霊山(二般向き)
12月5日(土) 日帰り
集合 J.R.柘植駅9時20分
行程 柘植駅―登山口―霊山―霊山寺―芭蕉公園―柘植駅(解散15時)
費用 交通費各自
地図 2万5千 甲賀・上野・鈴鹿峠・平松
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
一等三角点の山で大パノラマが広がる。下山は霊山寺に立ち寄り、オハツキイチヨウを見る。雨天中止

本山―砂ガラリ峠―和トンネル(バス) 西吉野温泉「きすみ館」(入浴・バス) 橿原神宮前駅(解散17時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 狭谷貯水池
係 ◎西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

2月に行った白石岳から七ト山の続きで、今回は天狗木峠から楽勝コースで晩秋の奥高野を歩きます。下山後、西吉野温泉「きすみ館」で汗を流します。小雨決行

湖北・伊吹山(二般向き)
11月28日(日) 日帰り
集合 J.R.近江長岡駅9時10分
行程 近江長岡駅(車) 伊吹三合目―伊吹山―伊吹三合目(車)「ジョイ

展望の山63(忘年山行) 三角点(水準点)探し(二般向き)

12月6日(日) 日帰り
集合 J.R.四ヶ原駅8時30分
行程 上石津町と藤原町に分かれての三角点探し(地図配布)。午後、亡き近藤郁夫氏のログハウスで忘年会
費用 交通費各自(忘年会、車代2000円)
地図 2万5千 篠立
係 ◎山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の19 山田明男まで
*定員25名
飲む方は車禁止です。六ヶ所の三角点と、水準点をニググループに分かれて探します。幾つ見つけれられるか?
雨天決行

伊吹(入浴・車) 近江長岡駅(解散16時頃)
費用 交通費・入浴代各自
地図 昭文社「御在所・霊仙・伊吹」
係 ◎中 照行
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員7名(禁煙者に限る)

遊覧の名峰・百名山に登る。雨天中止

教賀の山 三内山(二般向き)

12月5日(日) 日帰り
集合 J.R.教賀駅9時00分
行程 教賀駅(車) 清掃センター―三内山(往路)―清掃センター(車) 教賀駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千 教賀
係 ◎高島伸浩
申込 〒610-0121

実業50名山② 播磨・長水山(二般向き)

12月6日(日) 日帰り 貸切バス
集合 J.R.姫路駅南バスターミナル9時15分
行程 姫路駅(バス) 山崎道の駅(バス) 伊沢の里登山口―P224―東屋―長水山―伊水小学校(バス) 姫路駅(解散)
費用 約2000円(弁当代含む)
地図 2万5千 山崎
係 ◎須磨岡 輯
申込 〒671-1262
姫路市余部区上余部50の2の11
須磨岡 輯まで
*定員24名
戦国の兵たちが駆け上った山頂を目指す。小雨決行

城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで やぶ漕ぎ愛好者向けの山。雨天決行

週末ハイク98(忘年山行) 湖北・己高山(二般向き)

12月5日(日) 日帰り 貸切バス
集合 J.R.京都駅八条口7時20分
行程 京都駅(バス) 己高庵―登山口―六地藏―牛止め展望台―鶏足寺跡―己高山―鶏足寺跡―鉄塔―登山口―己高庵(入浴・忘年会・バス) 京都駅(解散20時頃)
費用 約9500円(バス代、忘年会費)
地図 2万5千 近江川合
係 ◎狩野東彦
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
昨年係の都合で中止した企

鈴鹿を歩く322 静ヶ岳・セキオノコバ(中級向き)

12月6日(日) 日帰り マイカー
集合 茶屋川林道折戸トンネル手前焼野ヘリポート8時00分
行程 広場(車) 丈治谷横広場―P1047―静ヶ岳―セキオノコバ―静ヶ岳―西尾根の池―茶屋川林道―丈治谷広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・霊仙・伊吹」
係 ◎岩野 明◎山田景三◎後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
茶屋川林道から尾根に取り付き、静ヶ岳に登る。鈴鹿のユートピアセキオノコバと西尾根の幻の池をたどって茶屋川にくだります。雨天中止

大峰・天竺山 (中級向き)

12月10日(日) 日帰り 百切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)

奥里集落―ザレ場―天竺山―旧花瀬道―尾根出合―内原橋(バス) 橿原神宮前駅(解散17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 風屋

係 ○西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10

新ハイキング関西まで

*定員26名(全員に限る)
奥里から直登コースで山頂に登り、歩きやすい旧花瀬道の尾根をアカマツの巨樹などを見ながら山里の集落内原へとくだります。小雨決行

自然観察山行273 (忘年山行)

美濃・各務原権現山 (一般向き)

12月12日(日) 日帰り レンタカー

集合 JR岐阜駅7時30分

行程 岐阜駅(車)伊吹の滝 駐車場―白山神社―各務原権現山―伊吹の高 駐車場(車)名鉄六軒 駅(電車)新岐阜駅(忘年会)

費用 約8000円(岐阜駅からレンタカー代・忘年会費等)

地図 2万5千 岐阜北郡

係 ○鷺見守康

申込 〒504-0828

各務原市蘇原村雨町1の19の5
鷺見守康まで
*定員10名(申込状況により減員あり)
低山ながら360度の大展望。雨天決行

高・薪岳から明神平 (一般向き)

12月12日(土) 日帰り 百切バス
集合 近鉄大和八木駅8時00分

行程 大和八木駅(バス)変

谷林道の峠―二階岳―木ノ実矢塚―薪岳―明神平―明神滝―大又林道終点(バス)大和八木駅(解散18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社「大台ヶ原」

係 ○村田智俊

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10 村田智俊まで
*定員24名
12月中旬になれば例年、台高の山には美しい霧水の花が咲いて登山者をびっくりさせてくれます。霧水の森を期待して計画した。雨天中止

近江の山シリーズ28 (忘年山行)

湖北・奥枯ノ峰 (一般向き)

12月13日(日) 日帰り 百切バス
集合 JR京都駅八条口7時30分

行程 京都駅(バス)坂口登

山口―分岐―田上山分岐―奥枯ノ峰―焼却場―木之本駅(バス)マキノ高原スキーハウス(忘年会・バス)京都駅(解散17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 木之本

係 ○森脇貞義

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10 新ハイキング関西まで
*定員40名
一等三角点ですが展望はない。ブナ・ミズナラの深い樹林の道がよい。下山後、マキノ高原スキーハウスに移動して鍋料理で忘年会をします。雨天決行

奥高野・点名「黒子」 (一般向き)

12月13日(日) 日帰り 百切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)

柴園―車谷―ピワ坂尾根―黒子―東南尾根―柴園(バス) 橿原神宮前駅(解散17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 狭谷貯水池

係 ○西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10 新ハイキング関西まで
*定員26名(全員に限る)
三等三角点1005.4m峰です。林道が入り込んでいるが仙道を求めて登る。ピワ坂尾根からは野迫川村の奥行きのある山々の景観が楽しめます。小雨決行

北山ちよつと歩き114 (忘年山行)

京都西山 松尾山と嵐山城址 (一般向き)

12月16日(日) 日帰り

集合 阪急松尾駅9時15分

行程 松尾駅―松尾大社―西

芳寺(若寺)―松尾谷林道―松尾山―嵐山(城址)―波月橋・嵐山公園(解散15時00分) 嵐・忘年会

費用 交通費各自

地図 昭文社「京都西山」

係 ○金谷 昭○磯部 純

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10 新ハイキング関西まで
東海自然歩道を利用して松尾山に登り、展望の良い嵐山城址を往復して嵐山公園にくだります。解散後、嵐山波月橋公園にて有志で忘年会(参加費無料・各自食料持参。近くコンビニあり)。雨天中止

大峰・高野辻から唐笠山 (一般向き)

12月17日(日) 日帰り 百切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)

高野辻―唐笠山―高野辻(バス) 橿原神宮前駅(解散17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 南日表

係 ○西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10 新ハイキング関西まで
*定員26名
高野辻から唐笠山のコースは比較的歩きやすい尾根で縦走路は展望が良く快適に歩けます。小雨決行

火曜ハイイク65

愛宕山シリーズ21 滝谷から愛宕山 (一般向き)

12月22日(火) 日帰り

集合 JR八木駅8時31分

行程 八木駅(バス)越畑口

広場8時00分
山―丸茅山―平子峠(車) 水無山専用ロッジ(昼食忘年会・解散)
交通費各自
昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
○岩野 明○山田景三
○後藤康幸
〒610-0121
城陽市寺田大町10の10 新ハイキング関西まで
平子峠南の西山と丸茅山に登った後、専用ロッジで昼食忘年会を開きます(マイカー運転の方は酒類・料理は各自持参)。雨天決行

一 芦見峠―芦見川林道
 一 滝谷―社務所―保津
 一 峠駅(解散16時30分頃)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社(京都北山)
 係 ◎仲谷礼司・O沖 伸
 申込 〒61010121
 城陽市寺田大町10の10
 新ハイキング関西まで
 あまり歩かれない滝谷から
 愛宕山に登ります。雨天中止

真六甲・有馬三山
 落葉山・灰形山・湯槽谷山
 (一般向き)

12月23日(日) 日帰り
 集合 阪急宝塚駅タクシーの
 りば9時00分
 行程 宝塚駅(タクシー)有
 馬温泉―登山口―落葉
 山―灰形山―湯槽谷山
 一湯槽谷峠―紅葉谷分
 岐―ロープウェイ有馬
 駅―金の湯(解散15時
 入道)
 費用 交通費各自(タクシー

代1000円
 地図 昭文社(「六甲・摩耶」
 係 ◎村田智俊
 申込 〒61010121
 城陽市寺田大町10の10
 村田智俊まで
 静かな真六甲、落葉した尾
 根道をたどって有馬三山を巡
 り、下山後、有馬「金の湯」
 で汗を流す。雨天中止

台高・白屋岳 (初級向き)
 12月24日(日) 日帰り(貸切バス)
 集合 近鉄橿原神宮前駅8時
 05分
 行程 橿原神宮前駅(バス)
 鷺の郷越―白屋岳―東
 南尾根―小泉谷―林道
 武木線(バス)ホテル
 杉の湯温泉(入浴・パ
 ス)―橿原神宮前駅(解
 散16時)

費用 約3000円(バス代)
 地図 2万5千円新子
 係 ◎西上和利
 申込 〒61010121

城陽市寺田大町10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員26名(会員に限る)
 白屋集落への下山ルートは
 通行止のため縦走路を南下し、
 林道武木線に下山します。下
 山後は杉の湯で汗を流し、一
 年間の思い出反省会を行
 います。小雨決行

年末にロングコースを歩く
 室生・長谷寺から室生寺
 (中級向き)

12月27日(日) 日帰り
 集合 近鉄長谷寺駅8時30分
 行程 長谷寺駅―初瀬―まほ
 ろば湖―高東城跡―鳥
 見山公園―玉立―山部
 赤人墓―成長寺―室生
 ダム―門森峠―室生寺
 (バス)室生口大野駅
 (解散17時)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千円初瀬・大和
 大野
 係 ◎村田智俊

申込 〒61010121
 城陽市寺田大町10の10
 村田智俊まで
 のどかな山村を抜けて室生
 寺までの東海自然歩道をたど
 る。距離が長いので中級向き。
 雨天中止

山行報告
 (7・8月号)
 新ハイキングクラブ関西

大峰・弥山から八経ヶ岳
 7月2日(木) くもり
 (集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
 一10(バス)トネル東口10・00
 一奥駈道出合分岐―弁天の森12・
 15―弥山小屋13・35(昼食)14・
 00―八経ヶ岳14・30―弥山小屋
 14・50―弁天の森15・55―奥駈道
 出合分岐16・40―トネル東口
 17・30(バス) 橿原神宮前駅19・
 00(解散)
 1日中、曇り空の歩きとなった
 が、今年もお目当てのオオヤマレ
 ンゲを見て感動した。清楚な美し
 さは何度見ても飽きない。
 (参加者) 志水明美 島田 廣
 森藤智良 小栗大直 渡部和美
 西村文明 古山幸男 川俣 勲
 岡本佳子 大和 紘 武部美英子
 塚本忠次 荻野暢子 松原真由美
 堀内預智 加藤浩二 村田洋子

岩村春子 西脇 俊 宮路ちへ子
 林 慶一 ○下部正年 (計23名)
 ◎西上和利
 吉野・蜻蛉の滝から養蚕ヶ峰
 (週末ハイキング)
 7月4日(出) 晴れ時々くもり
 (集合) 近鉄大和上市駅9・50
 一54(バス)西河10・18―35―蜻蛉
 の滝10・50―11・00―トビロ谷出
 合11・40―45―林道出合12・50(昼
 食)13・30―青根ヶ峰13・40―45
 一西行庵14・05―金峯神社14・27
 一35―高城山14・52―15・05―金
 峯山寺・蔵王堂16・00―05―近鉄
 吉野駅16・25(解散)
 雨上がりで水量豊富な蜻蛉の滝
 を見て、散策道から林道をつめて
 山道に入る。音無川沿いの木立は
 分さを忘れさせてくれた。谷から
 分かれた急登を登りつめた林道出
 口で遅い昼食。山頂から西行庵を
 経由して吉野駅へとくだった。
 (参加者) 多田 徳 佐々木輝子
 伊丹辰也 石田思美 水本加津菜
 岡崎知子 前田初雄 桜庭 榮
 清水誠二 太田裕幸 川田位子
 小池一郎 小林 桂 夏山春子

東三男 尾形光洋 ○仲谷礼司
 ◎野野東彦 (計18名)
 飛騨・宇津江四十八滝
 (自然観察山行268)
 7月4日(出) くもり
 (集合) JRR岐阜駅7・30(レンタ
 カー)宇津江四十八滝総合案内所
 10・00―滝めぐり(昼食)―山野
 草花園―総合案内所13・00(レン
 タカー)しづきの湯13・50(入浴)
 14・30(レンタカー)岐阜駅17・
 00(解散)
 四十八滝というのは伝説から。
 実際には十三の滝であるが、それ
 ぞれ見逃えがあり、周囲の景観を
 あわせ素晴らしい自然公園である。開
 西の人の話では、赤目四十八滝よ
 り雰囲気がいい、とのこと。
 (参加者) 富田満子 荻野美紀恵
 堀田輝子 佐々木三千代
 ○伊藤 直 ◎鷺見守康(計6名)
 淡路島一周と鳴門海峡散策
 (サイクリング&登山23)
 7月4日(出)5日(回) 1泊2日
 (4日)晴れ(集合)JR明石駅
 8・50(サイクリング)明石港9・

00(船)岩屋港9・30(サイクリ
 ング)野島断崖保存館10・20
 郡志12・00(昼食)12・30一鳴
 門海峡入口14・30一鳴門海峡散策
 一鳴門海峡入口13・00(サイクリ
 ング)民宿・浜福16・30(泊)
 (5日)晴れ)民宿8・00(サイ
 クリ ング)一灘瀨岩水仙郷10・05
 一立用水仙郷一小路谷ヨットハー
 バ112・00(昼食)12・40一洲本
 港一世界平和大観音像13・50一
 岩屋港14・40(船)明石港14・55(サ
 イクリング)明石駅15・00(解散)
 潮風に吹かれながらの海岸線の
 サイクリングは快適だった。何ヶ
 所かの坂道も頑張って登り、鳴門
 海峡を海面まで下りて散策。民宿
 での海の幸に満腹して疲れを癒
 し、2日目も山道や海岸線を走り、
 淡路島を一周(162.2km)するこ
 とができた。
 (参加者) 池田 茂 藤村勝彦
 長尾一令 寺井博子 船本裕巳子
 ◎山口敏明 (計6名)
 比良・白滝山から打見山
 7月5日(回)くもり
 (集合)JR堅田駅8・40―45(パ

ス)坊村9・35→50→白滝山登山口10・20→30→ワサビ大滝下流分岐11・00→西尾根11・20→40→尾根広場12・00(昼食)12・30→オトワ池北方尾根13・10→白滝山13・20→30→オトワ池13・40→長池14・00→シヤガ谷出合14・50→15・00→計谷15・20→30→打見山16・00→10(ロープウェイ)山麓駅16・20→47(バス)志賀駅17・00(解散)

ワサビ大滝のすぐ下流で右上への踏跡にタマされ、谷から離れて右(西)の尾根にのつてしまった。地図で確認して尾根上を行くことに決めた。昼食後、急登の尾根を30分程度登ると平坦になり、オトワ池の北方に出た。左へ廻り込んでゆるく登って白滝山へ到着した。直登の伊勢新道よりきょう歩いた尾根を伝うほうが楽な気がした。

(参加者) 朝倉松雄 谷内智恵美 岩本健二 岩本彩子 中嶋日出男 木村 登 大嶋 勉 後藤智之 志本明美 木村相恵 岩崎キワ子 堀内預智 長沢佑美 大門巳江子 度原香織 渡部和美 吉岡うた子 西村敬夫 高橋舜治 武部美美子

本間 隆 後藤純子 久保田玲子 三野 旭 湯口靖孝 大東 哲 稲津謙治 中 照行 ○安倉正勝 ○村田哲俊 (計30名)

須藤浩子 中川光郎 加藤浩二 矢谷俊子 山本軍司 宮路ちへ子 三井健一 堀 良万 大岡加代子 藤井義治 本間繁子 湯口靖孝 ○沖 伸 ○仲谷礼司(計25名)

○竹田勝英 ○西上利和(計24名) 湖南アルプス・堂山 (金羅里山ハイキング19) 7月11日出 晴れ (集合)JR石山駅9・00→10(バス)新免9・40→新宮神社9・50→10・00→岩場の展望地10・30→40→尾根分岐11・00→堂山11・15(昼食)12・10→尾根分岐12・20→鍋ダム広場12・50→コヒータイム13・20→遊不動13・40→アルプス登山口14・15→55(バス)石山駅15・20(解散)

雨で流れたこの時期になったが蒸し暑さでまいてこの如意ヶ岳は雨で省時。東山36峠を案内(これで最終回)して思うことは、皆さんのイメージにあう立派な姿の山が少なくことである。釈迦の寝姿に似る東山の山並を眺めているほうがよさそうである。

雨で流れたこの時期になったが蒸し暑さでまいてこの如意ヶ岳は雨で省時。東山36峠を案内(これで最終回)して思うことは、皆さんのイメージにあう立派な姿の山が少なくことである。釈迦の寝姿に似る東山の山並を眺めているほうがよさそうである。

新緑の自然美に感動し、森の生命が夏に向けて躍動しているのを感じた。青い空を眺めながら昼食と展望を楽しんだ。

湖東平野を展望する北嶺からのコースを登った。途中の岩場から湖東平野を眺め、山頂からは大パノラマを楽しんだ。鍋ダムで大休憩をとり、遊不動にくだった。

塚本忠次 宮村信夫 飯田二郎 妹尾一正 岩城啓子 久馬麻登河 小石浩子 中岡昌子 宮野敏子 ○宮野哲郎 ○村田哲俊(計37名)

山まで見ることができた。(参加者) 同井文男 萩野暢子 松村雅子 朝倉松雄 村田はる江 竹田勝英 上野秀夫 ○山田明男 (計8名)

1日を過ごした。(参加者) 谷 守 稲津謙治 水戸鉄治 樫田勝利 居原田幸弘 小林 修 一芝義雄 一芝美知子 山口充代 ○後藤康幸 ○山田景三 (計11名)

北アルプス 七倉から船窪岳・鳥帽子岳 7月17日(後夜)20日祝 前夜発2泊3日 (17日)(集合)JR京都駅23・00(バス) (18日)雨(バス)七倉山荘5・40(朝食)6・40→天狗の庭12・00→船窪小屋12・40(泊) (19日)雨*雨と風が強かったので小屋で停泊した。船窪小屋(20日)晴れ 船窪小屋6・00→七倉岳6・10→15→船窪乗越お花畑6・40→船窪小屋7・20→30→天狗の庭8・00→七倉山荘11・20(バス)ホテル「源泉」12・12(入浴・昼食)14・00(バス)京都駅21・50(解散)

展望の山55 7月10日(後)12日回 2泊3日 (10日)(集合)JR西岐阜駅18・30(車)駒ヶ根民宿21・00(泊) (11日)くもり 民宿6・30(車)戸倉キャンプ場7・00→金名水8・05→戸倉山西峠8・45→東峠1(往路)→西峠9・05→キャンプ場10・30(車)戸台11・10(バス)大平12・40(昼食)13・00(散策)→北沢峠14・00→仙水小屋14・40(泊)

鈴鹿・酒ヶ岳 7月12日(回) 晴れ *雨天のため中止しました。 元越谷(沢歩き) (鈴鹿を歩く3/14) 7月12日(回) 晴れ (集合)477号元越谷林道入口手前8・40→元越谷9・15→大滝10・10→仏谷分岐10・35→仏谷左保分岐11・40→左保源頭12・00(昼食)12・50→枝線13・10→大岩13・35→水沢峠15・15→元越谷林道16・00→広場16・20(解散)

大峰・大天井ヶ岳 7月16日(回) 晴れ (集合)近鉄榎原神宮前駅8・05→10(バス)五番関9・25→女人峠10・15→大天井ヶ岳11・20(昼食)12・10→二蔵宿小屋13・20→百丁口13・55(バス)洞川温泉(入浴・バス)榎原神宮前駅16・40(解散)

大峰・大天井ヶ岳 7月16日(回) 晴れ (集合)近鉄榎原神宮前駅8・05→10(バス)五番関9・25→女人峠10・15→大天井ヶ岳11・20(昼食)12・10→二蔵宿小屋13・20→百丁口13・55(バス)洞川温泉(入浴・バス)榎原神宮前駅16・40(解散)

予報は雨だったが、山は降らず12日の朝方は遠方の見晴らしも良く、360度の大展望を楽しんだ。総高尾峰から中央アルプス、富士

雨子帷に反し晴天に恵まれた。美しい水と花崗岩の壁下は、トロ、ゴロ・大滝、ゴルジュ・ナメ滝と快適に進行した。源頭の静寂庭園で昼食。冷やした大玉のスイカを割って盛り上がり、大岩では涼風に吹かれての大展望。水沢時から元越谷林道を歩いてすばらしい

山頂から下りのコースを間違えて引き返す場面もあった。涼風が吹き抜ける奥新道を快適にくだり、洞川温泉で汗を流した。

雨の中、急登の続く七倉尾根を船窪小屋へ登ったが、19日も雨で、強風も吹いたので鳥帽子岳への観望は断念し、小屋内で雨かきを囲んでゆっくりした。最終日は晴れたので七倉岳とお花畑を往復後、七倉尾根を下山した。観望できな

かつたが、小屋からは富士山が見え、槍から鍾までの北アルプスの大パノラマに満足した。

(参加者) 田田洋子 村田はる江 金森節子 沖 伸 森 美香子 下山 登 朝倉松雄 安田文美江 田辺弘子 富松雅子 武部天美子 小林 修 岩崎健司 前田昇久子 福本愛子 小林 佳 横田とも子 山形 明 宮野桂子 飯田トシエ 遠藤 幸 ○宮野哲郎

○安倉正勝 ○村田智俊(計2名)

鈴鹿・駅通ヶ岳 (三重の山104)

7月25日(出) くもり時々雨
(集合) 近鉄湯の山温泉駅9・00
120(車) 朝明沢谷駐車場9・45
155(新) 通入入口10・10(中尾根
10・25(新) 3号湧流コバ11・05(上
1) 尾谷谷出合11・40(小尾根口
50(12・00) 松尾根上12・35
(昼食) 13・15(朝明沢谷) 13・20
130(宿房) 14・00(1羽鳥
峠) 14・50(15・00) 朝明沢谷駐車
場16・20(解散)

天気不安定でキャンセルもあつたが、雨もまたよし。ノリウツ

ボトリヨウブの花がタイムリだつた。

(参加者) 亀井悦子 中森義信 平 龍一 平 幸子 森 順代 ○植川逸夫 (計6名)
飛騨・三方岩島から野谷荘司山 (自然観察山行26号)
8月1日(出) ○鷺見守康
歩雨のため中止しました。

キャンプ山行 越前・一乗城山と経ヶ岳

8月1日(出) 1山2日
(1日) 雨(集合) 丁良京都駅7・40(バス) 一乗谷駐車場10・30(朝倉氏遺跡散策) 駐車場11・30(昼食) 12・30(バス) 買物 麻耶峠 湖ヶキャンプ場15・00(テント10(2日) 雨) キャンプ 8・10(バス) 大野城西口9・30(大野城見学) 北口(商工会議所休館所) 西口10・50(バス) 美山森林温泉(みらくる亭) 11・30(入浴) 昼食 13・20(バス) 京都駅16・30(解散) 雨が強く登山は2日間共に中止。一乗谷の遺跡や大野城などの散策をした。キャンプ場に着く

取り付けた新ハイの看板が迎えてくれた。下山後、ナメ石の清流で流し素通をして疲れを癒した。
(参加者) 池田 茂 島田 廣 柳 良雄 ○山口敬明 (計4名)

鈴鹿・サクラグチ

(近江の山シリーズ21)
8月9日(出) 雨のちくもり
(集合) 丁良京都駅7・30(バス) 大河原登山口9・30(休憩 10・20(130) P789(11・05) P891(11・47) サクラグチ 12・05(昼食) 12・45(169) 11(13・27) 深山橋14・10(30(バス) 京都駅16・32(解散)
横林帯の急な尾根を脱げネッ ト滑りに登るが、通る人があまりないようだ。徒視まで登ると強風が吹いていた。三角点があるのに山頂からは全く展望が無い。人づれしていない山に満足し、深山橋へくだつたが、急な尾根だつた。
(参加者) 高木忠夫 若林文夫 前田初雄 柴木光雄 下部正年 岩崎健司 紀田信生 夏山春子 狩野東彦 入江 勲 林 正義 三野 旭 小池一郎 木村 豊

岩本彩子 岩本健二 松土美代子 和田純子 磯部 純 船本祐巳子 ○村井寿和 ○森脇貞義(計2名)

北アルプス・白馬岳から朝日岳

8月13日(出) 雨 16日(出) 前夜発2泊3日
(13日) (集合) 丁良京都駅22・30(バス) (14日) 晴れ (バス) 白馬第五駐車場5・00(130) クラシム(飯倉) 5(朝食) 6・20(白馬尻小屋) 7・30(40) 大雪渓(絶平) 10・30(昼食) 11・00(大岩) 12・45(大休憩) 13・15(白馬頂上) 宿舎14・00(15・30) 丸山へお花畑観察(宿舎 16・30(泊)
(15日) 晴れ 宿舎6・00(白馬 岳) 6・40(7・00) 三國境7・40(雪渓) 8・40(9・00) 雪倉 房子前平地10・20(昼食) 11・00(買物) 11・20(ツバメ) 12・30(小坂ヶ原) 13・30(水平道) 本場 14・30(40) 朝日小屋15・30(道 (16日) 晴れ) 小屋5・40(朝日 岳) 6・40(7・00) 下代の吹上7・40(15輪高原) 9・10(20) 白高池 沢出合10・30(昼食) 11・00(湖

川口橋12・00(兵馬ノ平) 深原12・50(1) 温泉13・40(入浴) 14・50(バス) 丁良京都駅21・20(解散)
秋のような青空のもと、白馬岳、雪倉岳、朝日岳と、お花畑を見ながら快速に歩いた。最終期で多彩な花が咲いた。益なのに小屋も空いていてゆつくりできた。
(参加者) 飯田二郎 村田はる江 川田洋子 下山 登 木村相恵 仲谷利司 多賀野二 多賀久子 朝倉松雄 宮崎清久 宮崎山美子 内田康夫 富松雅子 田辺弘子 夏山春子 大和 敏 西谷眞実子 小林 修 堀江房晴 岩崎健司 宮野桂子 ○宮野哲郎

大峰・法主尾山

8月20日(出) 晴れ
(集合) 近鉄原神宮前駅8・05(バス) 風尾ダム10・00(1) 通口(カヤト) 10・40(ツナ) 12・20(法主尾山) 12・50(昼食) 13・40(林道) 下山14・25(バス) 横原神宮前駅17・00(解散)
日差しが強い雑木林の尾根では涼しそうな木陰を選び、一服入れ

る。時折、谷から吹き上げる涼風に感服しながら、一汗も二汗もかいて山頂にたどり着いた。
(参加者) 中島 隆 木内龍文 志木明美 奥田朋夫 川俣 勲 岡安紀雄 石田美果 池田美恵子 信吉 優 池田 茂 栗原道弘 古山幸男 渡部相美 栗原草子 三野 旭 今泉 勲 船本祐巳子 三井敏一 根島 剛 成川みさお ○下部正年 ○西上利和(計22名)

飛騨・下呂御前山(展望の山20)

8月23日(出) 晴れ
(集合) 丁良西岐車庫8・15(車) 大洞登山口駐車場10・15(25) 林道經由登山口10・35(15) 合目日、25(下呂御前山) 12・40(昼食) 13・30(15) 合目日、30(登山口) 14・45(駐車場) 15・00(車) 西岐車庫17・15(解散)
見晴らしも最高に良く、御嶽は間近に見られたし、遠方には先日行った赤平も望め、次週行く予定の槍から徳高もよく見えた。
(参加者) 岡井文男 萩野暢子 村田紀生 栗原道吉 朝倉松雄

と雨が上がつたので予定通りケントを歩いた。夜はバーベキューをして盛り上がったが、朝からまた雨になったので、温泉にゆつくり入り、早めに帰つた。
(参加者) 高木忠夫 河本美千子 西田俊治 冬田 徳 川田洋子 多賀久子 眞比野美 中嶋日出男 竹内正子 松本輝子 佐々木輝子 岩本彩子 大東 哲 木下朝子 岡崎知子 佐藤和子 西谷眞実子 大和 敏 大嶋 敏 木村相恵 宮野桂子 ○宮野哲郎

岩手・大綱山から白馬岳

8月6日(出) 雨のちくもり
(集合) 近鉄原神宮前駅8・05(バス) 登山口9・30(小川 湖) 12・20(昼食) 12・40(東滝 13・45) 東谷出合(登山口) 14・30(バス) 横原神宮前駅16・30(解散)
天気予報に反して登山口から雨が強まり、足さみも足れたので小川湖でタイムオーバーになり、昼食を早々に済ませ、来た道を引き返した。
(参加者) 飯田二郎 中島 隆

島田 敏 朝倉松雄 林 正義 古山幸男 三野 旭 堀江房晴 石田美果 入江 勲 信吉 優 岩崎 榮 今泉 勲 船本祐巳子 有吉桂三 落合 博 ○狩野東彦 ○西上利和 (計21名)
仙曹谷から養蚕谷(沢歩き) (鈴鹿を歩く115)
8月9日(出) ○宮野 明
*雨天のため中止しました。

実生・養蚕谷と赤生山

8月9日(出) 雨のちくもり
(集合) 近鉄名張駅9・00(サイクリング) 夏見中央公園9・20(青蓮寺) 10・00(赤生) 10・30(1) 赤生山登山口11・15(赤生山) 11・40(赤生山登山口) 12・10(昼食) 12・55(サイクリング) 1(赤生) 13・00(長瀬) 14・00(比奈加) 14・30(夏見中央公園) 1(名張) 15・00(解散)
雨に濡れた静かなダム湖畔を経て色づき始めた田園街道と杉並木の林道を歩く。山頂には2年前

竹田勝英 小林一貫 呉比呂美
山田妙子 ○山田明男 (計10名)

八瀬の滝(比良を多く登る)

8月23日(日) 晴れ

(集合) JR近江高島駅9:03(バス)
ガリバー旅行村9:27(バス)
大指針10:25(バス) 貴船の滝下部
10:50(バス) 貴船の滝上部11:10(バス)
七瀬返し(滝)入口11:35(バス)
サカ道分岐周辺11:55(昼食)
12:40(バス) 川口13:35(バス) シヤ
カ道分岐13:55(バス) フトシヤ
カ道分岐14:25(バス) イン谷口15:35
(バス) 比良駅16:20(解散)

夏場の山歩きはやはり水辺がい

い、快適な通めぐりだった。カラ

六甲・土橋瀬から打越山
(火曜ハイキング)
8月25日(火) 晴れ
(集合) 東お多福山登山口バス停
9:50(バス) 10:05(バス) 土橋瀬10:40
一本庄橋10:50(バス) 森林管理道12:
沙点11:40(昼食) 12:30(バス) 出合
12:50(バス) 打越峠13:15(バス) 打越山
13:25(バス) 40(バス) 打越峠13:50(バス)
道14:40(バス) 八幡道登山口
14:45(バス) 飯急岡本駅15:10(解散)

人の多い表六甲の道だが、ハブ

道はひっそりとしている。下りの

古田の森(千丈平12:20(昼食)
12:55(バス) 枕瀬ヶ岳13:10(千丈平
15:45(バス) 横原神宮前駅18:
20(解散)
右に大日岳の岩峰、左に奥高野
の山々、正面には七面山の山頂を
望み、ブナ原生林とササ原の尾根
歩き、鹿を眺めながらの昼食。山
頂では大バノラマを楽しんだ。
(参加者) 沖 伸 志水明美
尾野吉孝 岩村春子 島田 廣
須藤浩子 三野 旭 渡部和美
古山幸男 里見輝生 武部美英子
塚本忠次 石田里美 久保田玲子
平 龍一 馬籠忠男 荻野暢子
川俣 勲 川上久堅 宮路ちへ子
田中 操 辻 陽子 織部 純
○小栗大直 ○西上利和(計25名)

テント泊山行

8月29日(土) 1泊2日

倉スノーパーク駐車場15:30(バス)
倉スノーパーク駐車場16:20(テ
ント泊)
17:00(バス) キャンプ場7:
20(バス) 水ノ越8:15(バス) 仙谷分岐
9:10(バス) 水ノ山9:40(バス)
00(バス) 三の丸避難小屋11:00(昼食)
11:40(バス) 下段コース分岐11:50(バス)
坂の谷コース登山口13:10(バス) やま
め茶屋14:10(バス) 15:20(バス) 液
質温泉15:35(入浴) 16:30(バス)
新三田駅18:25(解散)
2日間共に霧のなかを歩き、山
頂からの眺望は無い。赤谷山は近
年開かれたようでもブナ林がよかつ
た。水ノ山の坂の谷コースにもブ
ナの巨木が無数にあった。
(参加者) 川口せつ 西谷真実子
宮野智郎 宮野祐子 鈴木美代子
多田 徳 神谷礼司 加納出紀子
小松志信 有兼 登 小川富士雄
西田俊治 大嶋 勉 久馬麻登河
佐藤和子 朝倉公雄 田中まや子
今泉 勲 木村相忠 中嶋日出男
○安倉正勝 ○村田智俊(計22名)
(7・8月の参加者 延461名)

会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西」
西の山(隔月刊)年6号発行)の
定期購読者を中心にしたハイキ
ングの楽いです。山の知識を深
め、健康な身体をつくり、自然
のなかを歩く喜びをともに広め
ましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
21年発足以来、関東を中心に60
年余、好評のうちに活動して
います。関西は平成3年秋発足
で19年目に入りますが、すでに
数千名の会員で活動しています。

会員は当会のイベントに優先
して参加できます。多くの仲間達
とハイキングを楽しみましょう。
会員には「新ハイキング関西
の山」を毎号お届けします。

「ハイキング」はすべて無償の奉
仕で、各自で切符を買い茶代を払
い、宿泊料もすべてワリカンで
す。会員が例年に参加されると
きは、山行運営費として400
円を支出させていただきます。
四季の自然に触れながらの山
歩きから、ウォーキングまで、
若々しい心と健康をいつまでも

継続するのはすばらしいことで
す。これから始めてみたい方、
すでにベテランの方もみなさん
ご入会いただけます。

入会金 5000円(ラッパン共)
年会費 3300円(送料共)
入会の申し込み(随時)は、こ
の雑誌に挿入の振替用紙をご利用
ください。第何号からの送本
かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される
方も会員になっていただきます
と毎号随表にお手元に届けます。
お友達への住所・氏名をハガキ
で紹介ください。最新号を見本誌
として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集
係は2ヶ月に1〜2回程度山
行例会を実施していただきます。
経験のある方、やってみたい
と思われる方は、新ハイキング
関西までご連絡ください。
「新ハイキングリーダー必携」を
ご参考にお送りします。

新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5482番か5493
番まで(敬称略)。
〔愛知〕 藤田重勝 浅井陽平
〔滝川〕 登
〔三重〕 下原典良 下原利子
〔京都〕 柴田雅道 林 政雄
〔西嶋芳洋〕
〔大阪〕 山内孝之
〔奈良〕 森 勝 田畑吉雄
〔和歌山〕 中村 裕 (12名)

訂正とお詫び
左の通り訂正
○108号(初秋)
*口絵(8ページ)下段「松田俊男」
↓「松田敏男」

*11ページ目次終わりに4行目
「夢見ヶ丘」↓「夢見ヶ丘」
*30ページ付近図上北にある川名
は「瀬田川」↓「坂内川」↓「松
坂トンネル」↓「松坂トンネル」
*51ページ目次10行目「お笑い学

会員 ↓「笑い学会員」
*80ページ中段8〜9行目「志賀
大仏」のルビは「しがのおはとけ」
*80ページ下段付近図上「国通
161号」↓「国通47号」
*81ページ上段写真の説明「夢
見ヶ丘」↓「夢見ヶ丘」
*82ページ上段13行目「三遊園」
↓「三分園」
*82ページ中段10行目「四ツ谷
方面」↓「四ツ谷川方面」
*108ページ一段最終行「川勝駅」
↓「那川駅」

書店でお求めになりたい方へ
前もって毎号ほしいと「購
読予約」をされますと、どこ
の書店でもお買い求めいただ
けます。「関西の山」は偶数
月の20日頃(隔月刊)の発売